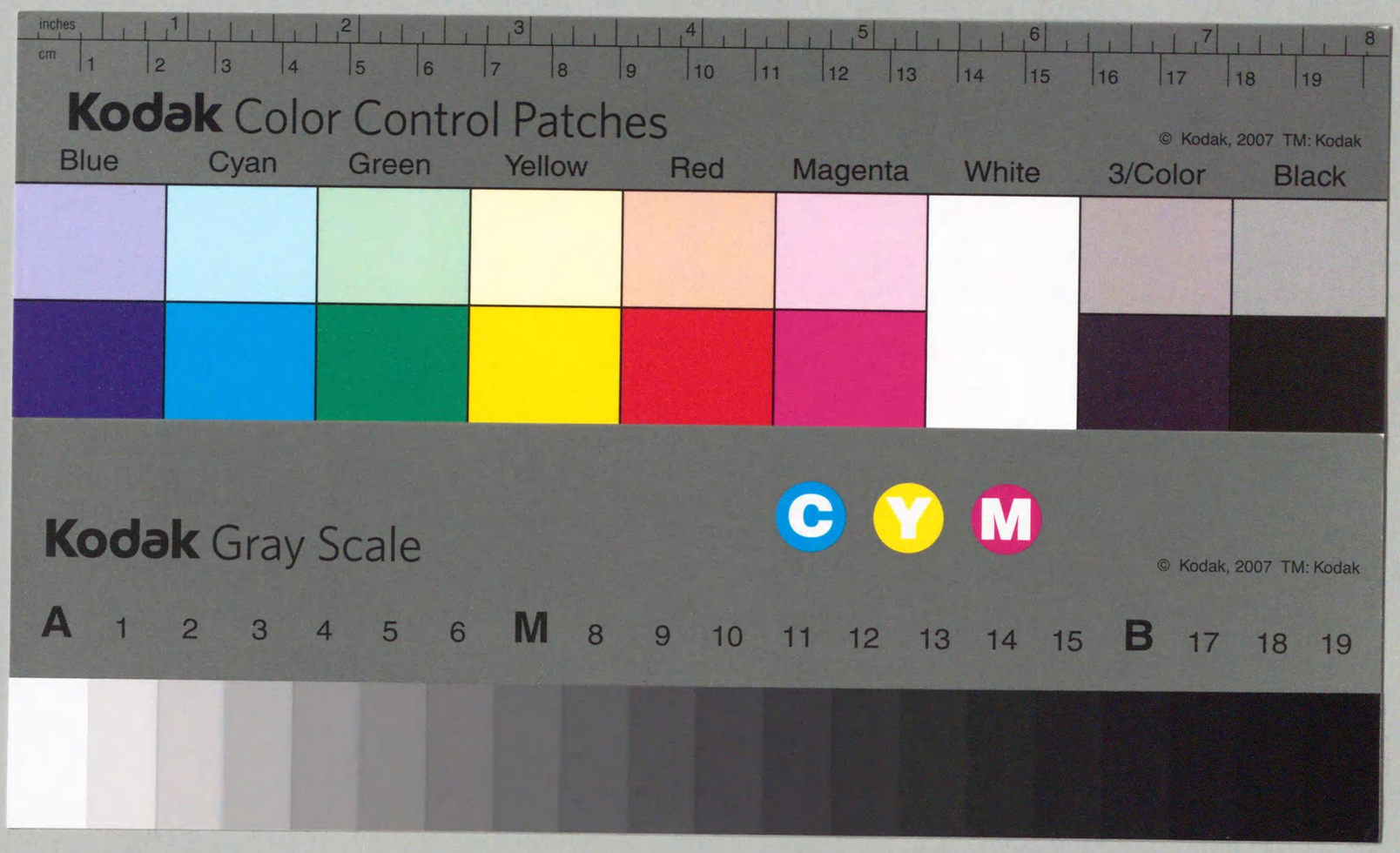

310.8
I368s
0051362 1

다2a-29

政治學叢書

支那及露西亞

（政治心理研究）

稻田周之助 著

政治學叢書

支那及露西亞

（政治心理研究）

稻田周之助著

芳澤中國記念事業財團
東京都千代田區丸ノ内二ノ八（仲十二号館六号四二室）
電話（28）四一〇八番

310.8
I368s

国立国会
35.3.-1
図書館

513621

序言

一　著者、明治四十四年十二月、初メテ政治學叢書第一卷「軍政及軍備」ヲ發刊シ、爾來、年々一卷若クハ二卷ヲ刊行ス、算シ來レハ、本書ハ則チ其第十卷ナリ。其刊行ニ、豫定ノ順序ナク、前後相錯ルモノアリ、內容相重復スルモノアリ、甚タ不體裁ヲ極ムルカ如クナレトモ、固ト是レ著者自己ノ研究ノ行程ヲ錄スルモノニ過キス、其放縱不羈ハ、則チ老書生ノ固態ノミ。

二　本書題シテ「支那及露西亞」ト爲ス、其命題甚タ茫漠タリ、然レトモ是レ實ハ著者其世界各國民ノ政治心理ニ關スル研究ヲ歷述セント欲シテ、先ツ其ノ支那及ヒ露西亞ニ關スルモノヲ擧クルト云フニ過キス。著者ノ企圖ハ、其著「政治學」及ヒ「政治心理學」ヲ根抵ト爲シ、世界各國民ニ就

テ、其國民性及ヒ政治思想ノ由テ來ル所ヲ明カニシ、之ヲ取リテ以テ自己ノ政治學研究ノ資材ト爲スニアリ。近年歐羅巴亞米利加諸國政治學者經濟學者、相競フテ各國民ノ精神上ノ事ヲ研究シ、或ハ之ヲ名ケテ民族心理ト爲シ、或ハ之ヲ名ケテ國民的精神ト爲ス、其ノ英吉利、佛蘭西獨逸、亞米利加ニ關スルモノ甚タ多キヲ見ル。然レトモ此種ノ著作ハ直接ニ世道人心ニ關スル所以ノモノアリ、今日ノ如キ戰役最中ニアリテハ、學者亦愛國心ト敵愾心トニ動カサレテ、其公平且嚴正ナル判斷力ヲ失フ事ナキヲ保セス、是レ著者暫ク是等諸國ノ事ヲ避ケ東洋ニ隔絶スル所ノ支那ト、歐羅巴ニ在リテモ、自ラ特殊ノ地位ニ立ツ所ノ露西亞トヲ擇ヒタル所以ナリ。且支那ト露西亞トハ、共ニ世界ノ大國家ニシテ、二國相前後シテ大革命アリ、其善後ノ道ノ立タサルヿモ亦相同シ、假令二國民間ニ相關聯スル所以ノモノ無シトスルモ、二者相對照スヘキ點亦甚タ多シ、是レ又此ニ此二者ヲ取リテ一ノ研究對象ト爲シタル所以ナリ。

三　本書第一篇第二章第三章ノ如キハ、特ニ支那若クハ露西亞ニ就テ言ヲ立ツルモノニアラスシテ、世界各國民ノ政治心理ニ對スル總評ナリ。從テ之ヲ本書ニ述フルハ、甚タ其體ヲ失フカ如クナレトモ、實ハ、前項ニ述フル如ク、著者ノ企圖ハ、世界各國民ノ政治心理ヲ綜舒スルニアリ、此企圖ヨリ云ハヽ、本書ハ則チ其第一卷ナリ、故ニ之ヲ本書ニ揭ケテ以テ今後北米合衆國歐羅巴諸國ノ爲メニ述フルモノヽ序說タラシメント欲ス。

四　近頃、紙價騰貴、印刷諸費亦甚タシク增加ス、之ヲ以テ、著者ノ親友、暫ク政治學叢書ノ刊行ヲ中止スヘキコトヲ勸告スル者寡カラス。固ト是レ老書生ノ道樂ナリ、餘リニ不經濟ナリト云ハヽ、則チ暫ク之ヲ中止ス

ルヲ可トス、然レトモ、著者初メヨリ經濟ノ爲メニ之ヲ刊行セルモノニアラス、其不利損失ハ、豫シメ自ラ期スル所ナリ。且世間支那ノ政治ニ關スル論評區々、學者專問家亦好ンテ支那ノ古書ヲ引用シテ、我國ノ國法國體ヲ論スルノ資ト爲スモノ多シト雖モ、支那人民ノ政治心理ニ關スル研究ハ、甚タ忽諸ニ附セラル、其源ニ逢ハスシテ其委ヲ會スル亦難カラスヤ。又眼前、露西亞大革命アリ、其ノ日夕轉變常ナキニ驚キ、其歸結如何ヲ求ムルニ苦マンヨリハ、寧ロ露西亞國民ノ正體如何ヲ知ルニ若カス。著者カ本書ノ刊行ヲ急キタルハ、則チ此種ノ諸問題ニ關スル自己ノ言論文章ノ根抵ヲ明カニスルノ微志ニ出ツ。但刊行費劇增、著者嚢中ノ物甚タ乏シキ際ナルヲ以テ、出來得ルタケ字句文章ヲ節畧シテ、不經濟中ニ經濟ヲ求メタリ、從テ、コレカ爲メニ著書ノ體裁ヲ損シ、且言ハント欲シテ之ヲ盡サヽル所甚タ多キハ、著者ノ自ラ認メテ深ク自ラ愧ツル所ナリ。

大正六年九月十五日

稲田周之助

支那及露西亞

第一篇　總　說……一
第一章　支那及露西亞研究ノ方案……一
第二章　人種學及政治心理學……一一
第三章　政治的行程及革命……二九
第二篇　支　那……四一
第一章　支那及支那人……四一
第二章　國民性……五五
一　平民的民族……五八
二　家族制民族……六〇

三　個人主義……六三
四　民　政……六五
五　共產主義……六七
第三章　政　體……七七
第四章　政治學說……九三
一　總　說……九三
二　古代支那人ノ國體觀……九七
三　周時代ノ政治論……一〇二
孔子ノ正義說……一〇二
老子ノ自然主義……一〇五
墨子其他ノ功利說……一〇九
周時代ノ平和論……一一三

四　秦漢以後ノ政治學說……一一八
第三篇　露西亞……一二七
第一章　露西亞及露西亞人……一二七
第二章　國民性……一三九
一　共同生活……一四〇
二　民　政……一四四
三　革命的性習……一四七
四　個人主義……一五三
五　性格ノ不調和……一五六
第三章　政　體……一六一
第四章　政治學說……一七二

國粹主義……一七五
露國社會學者……一七七
無政府主義……一八二
附錄
露西亞ノ革命……一八九

目次終

支那及露西亞

稻田周之助著

第一篇　總說

第一章　支那及露西亞研究ノ方案

支那ト露西亞トノ類比

此ニ題シテ「支那及露西亞」ト云フ、此二國民ヲ對象トシテ、其國體及ヒ國民性ヲ闡顯シ、其ノ政治的變遷ノ由ラ來ル所ヲ明カニセント欲スルモノニ外ナラス。夫レ支那ト露西亞ト、一ハ、歐羅巴ノ最大國家タリ、一ハ、亞細亞ノ古大國タリ、其事物全ク相異ナリ、二國民其事ヲ共ニシタルコトモ亦コレ無シ、而シテ、今乃チ此二者ヲ併セテ、一ノ研究對象ト爲スハ、微カ支吾ノ嫌ナキ能ハス。然レトモ、予ノ之ヲ擇フ、亦其說ナキニアラス。漢人種ト、

「スラヴ」人種ト、其民族的本源甚タ相近ク、其大國民タルコト相同シク、其二十世紀ノ初メニ於テ、大革命ヲ行ヘルコト亦相同シ。二者、其相異ナル點ヲ擧クレハ、事々物々皆相異ナラサル無シト雖モ、其ノ相近ク相同シキモノヲ求ムルトキハ、之ヲ同一ノ學問的範疇ノ下ニ統フルヲ得ル所以ノモノ亦寡カラス。

予嘗テ、政治學叢書第七卷「政治心理學」ヲ刊行シ、又政治學叢書第八卷トシテ「人種問題」ヲ公ニシ、人類ノ政治生活ニ就キ、其精神的理法ト、其物質的理法トノ梗概ヲ擧ク。固ト是レ、粗脚笨手、予自ラ其研究ヲ盡クシタリト爲サスト雖モ、其立言ノ根據ハ即チ此ニ在リ。乃チ此根據ニ依リテ、普ク世界諸國民ノ政治的情形ヲ論評セント欲ス。本書ハ則チ其第一着手トシテ、擇ヒテ支那及ヒ露西亞ヲ取リタルモノニ過キス。然ラハ、之ニ次イテ何國ニ及フヘキカ、予自身モ未タ其見ヲ定メサルナリ。大凡國家及ヒ國民ヲ研究スルノ感興ヲ誘フモノハ、其處ニ、大事故大變易アルニ若クハ無シ。予ノ支那及ヒ露西亞ヲ擇ヒタルハ則チ、其ノ大國家ニシテ、大革命ヲ行ヘルニ是レ由ル。然レトモ人世ノ變故、豈革命ニ限レリト云ハンヤ、今日ノ世界的大戰役ハ、必ス世界的大變故ヲ伴フモノアルヘク、予ハ乃チ其成行ヲ觀テ、予ノ感興ヲ惹クコト最モ大ナルモノヲ擇ヒテ以テ本書ヲ續クノ資ト爲スヘシ。

研究ノ方針

夫レ政治學ハ、學問ノ一科ナリ、學問ハ、純理ヲ以テ其基礎ト爲シ、其實踐適應、窮極ナキニ似タリト雖モ、其理法ハ、即チ一以テ之ヲ貫クヘク、私意私情ヲ以テ之ヲ左右スルヲ許サス。只政治學上ノ研究ハ、多クノ場合ニ於テ、各國民ノ、政治上ノ實生活ニ觸レ、實地問題ニ繫ルノ故ヲ以テ、研究者自身ノ地歩ニ偏倚シ、其周圍ノ情形ノ爲メニ動カサルヽコト無キ能ハス、是レ其ノ最モ愼マサルヘカラサル所タリ。特ニ、今日ハ世界的大戰役最中ニ

學者ノ用意

シテ、世界國民ヲ擧ケテ皆戰爭關係者ナラサルハ無ク、交戰者ノ情、其味方ノ爲ニ說ヲ求メ、其敵國民ノ事物ヲ呪詛スルノ傾ナキ能ハス、是レ千九百十四年八月以後、政治學、社會學、其他人類實生活ニ關スル著書ニ、公平冷靜、理義ニ醇ナル者ヲ求メ難キ所以ナリ。然リト雖モ、學問ハ、宇宙ノ眞理ナリ、文章ハ、百世ノ大業ナリ、人情ノ弱點ヲ解スル者ハ、最モ其心ヲ用フル所以ヲ知ラサルヘカラス。

千九百十四年以來、世間、民族心理、國體政體等ヲ序述スル者、概ネ獨逸ヲ以テ其研究ノ標的ト爲スノ姿アリ、是レ獨逸カ中歐同盟ノ中心ニシテ、世界國民共同ノ敵國ナルヲ以テナリ。乃チ千九百十四年千九百十五年ノ交英佛米諸國ノ學者專門家、說ヲ爲シテ曰ク、此度ノ戰役ハ、「スラヴ」ト「チユートン」トノ爭鬪ナリト、更ニ「チユートン」ハ蒙古民族ニ屬セリト爲シ、之ヲ呼フニHansナル語ヲ以テス。蓋シ、交戰者ノ感情ニ投シ、其敵愾心ヲ皷舞セント欲セハ、其事ヲ人種問題ニ引キ附クルヨリ便ナルハ無キナリ。然レトモ、其所說ハ、則チ學理ニ反スルノミナラス、又甚タ事實ニ違ヘリ。此戰役ノ發端ハ、墺洪國ト塞爾維トノ衝突ナリ。其ノ世界的大戰爭トナルニ及ヒテ、中歐同盟ノ主力ハ、獨逸ニシテ、協商國ノ主力ハ、英吉利ナリ。戰鬪ハ、主トシテ佛蘭西國內ニ行ハレ、露西亞人ハ、却テ甚タ戰ニ力メサルナリ。且人種學上ヨリ之ヲ觀ルトキハ、獨逸ハ、諸人種ノ滙集スル處ニシテ、「スラヴ」ノ血液ヲ混スルコト甚タ多キノミナラス、佛蘭西人ノ血液ヲモ混ス。

事實ヲ證證フヘカラス

人種問題

歷史家ノ言ニ依レハ、三十年戰役後、フレデリツキ大王、其國內ノ人口ノ缺乏ヲ憂ヘテ、盛ニ佛蘭西人ヲ招致ス、當時普魯西人口ノ五分ノ一ハ、佛蘭西人ナリシト云フ。而シテ露西亞亦人種關係頗ル錯綜ヲ極メ、獨逸人若クハ獨逸人ノ子孫、歐羅巴露西亞ニ充溢ス。故ニ假令露西亞ヲシテ味方ノ主力タラシムルモ、此戰役ヲ以テ、露獨間ノ人種關係ニ出ルモノト爲スハ、

當ラサルナリ。且今日我味方ノ結束力ヲ固クシ、相一致シテ其共同ノ敵ニ當ルニ際シテ、妄ニ人種問題ヲ揮撞スルトキハ、却テ、コレカ爲メニ幾多ノ障碍ヲ誘致セサルヘカラス。嘗試ニ英吉利ニ就テ之ヲ云ハンカ、英吉利ノ主一同盟國ハ我日本ニシテ、日英其人種ヲ同クセサルコトハ今更言フヲ須キス、其大英帝國ナルモノハ、全世界ノ異人種ヲ以テ組成スルモノタリ。畢竟英佛米諸國學者專門家カ、人種問題ヲ以テ此戰役ヲ解說シ去ラントシタルハ、一時的幻想ニ過キスシテ、其ノ根蔕ノ據ルトコロナシ、且最近諸國民亦其口ヲ襟ミテ、復タ人種問題ヲ言ハサルナリ。

自由ノ爲メノ戰爭カ

然ルニ最近ニ至リテ、世間、此戰役ハ自由ノ爲メノ戰爭ナリ、Autocracy ニ對スル Democracy ノ爭鬪ナリト爲スモノアリ、英米露諸國人好ミテ相唱和ス。戰役開始當時ヨリ、獨逸ノ軍國主義ハ、世界國民ノ危懼ノ原因タリ、故ニ此軍國主義ヲ打破シテ、以テ天下安堵ノ基ヲ開クヘシト爲ス者アリ、最近ノ專制政治ヲ排スルノ說ト、相依リテ其氣焰ヲ上ケ來レリ。顧フニ、世間ハ獨逸ヲ以テ軍國主義專制政治ノ代表者ト爲スモノ多シ、是レ此言ヲ以テ味方ヲ相激厲スルニ足ルト爲スニ外ナラス。且今年三月露西亞ニ革命アリ、露國民其ロマノフ朝ヲ排シテ、新タニ共和政體ヲ創始セントス革命ハ、何レノ場合ニアリテモ、人世ノ大災厄、新政體肇造ハ、國民ノ至難事タリ、故ニ友邦人民ノ、露國民ヲ慰藉スル所以ノモノ、亦自由平等ノ說ニ外ナラサルナリ。偶マ北米合衆國亦新タニ戰爭ニ參加ス、北米合衆國ハ共和國ナリ、自由ト平等トハ、其傳來ノ信條ナリ、米國民ノ說クトコロト、米國民ノ爲メニ說クトコロト、亦自ラ此ニ存セサルヘカラス。併ナカラ、自由ノ戰爭ト云フハ、全ク戰役開始以來ノ事歷ト相容レサルノミナラス、此論理ヲ徹底スルコトハ、協商諸國民ノ自ラ難スル所ナラサルヘカラス。此戰役ハ、中歐同盟ト協商諸國民ト、其ノ存在ヲ爭フ所ノ戰鬪ナリ。政體、國

英吉利其他ノ君主制

體、政治上ノ主義主張ノ如キハ、其爭題トスル所ニアラス。現ニ協商國ノ主力タル英吉利ハ、君主制ノ醇又醇ナルモノニシテ、其世界的大國家ヲ主宰スルモノハ、英國皇帝ナリ。伊太利、白耳義、塞爾維、羅馬尼、皆君主政體タリ。露西亞モ、去三月マテ、最モ古色ヲ帶ヒタル君主國タリ、我日本帝國ノ君主制、亦此ニ辯スルノ必要ナシ。今日コソ北米合衆國カ戰爭ニ參加シ來リタレ、開戰當時、協商國側ノ共和國ハ、唯一ノ佛蘭西アルノミ。之ニ對シテ、我敵國タル獨逸、墺地利洪牙利ハ、君主制ノ形ヲ存スレトモ、若シ國法上ノ理論ヲ以テ之ヲ云ハヽ、獨逸帝國ハ、一ノ Commonwealth ナリ、普魯西王ハ北獨逸連合ノ Praesidium ナリ、全獨逸成立ノ後ニ及ヒテモ、其地位ハ則チ相同シクシテ、獨逸帝國ノ主權ハ聯邦參事會ニ在リ、是レ國法學者カ、獨逸ハ Monarchy ニアラスシテ、Polyarchy ナリト爲ス所以ナリ。其國會ハ、夙トニ普通選擧制ニ依リ、公選ヲ以テ組織ス。世間獨逸ヲ目シテ、專制政治ト

獨逸ノ共和制

軍國主義

爲スモノ多シト雖モ、是ハ獨逸老帝及ヒ鐵血宰相、幷ニ今日ノ維廉第二世ノ個人的權勢餘リニ强大ナルト、其國民カ官僚政治ヲ喜ヒ、國家萬能主義ニ心醉シテ復タ他志ナキトニ是レ由ル。又軍國主義決シテ獨逸人ノ專有物ニアラス、人種學又ハ民族心理學上ヨリ云ハヽ、今日ノ世界ノ强大國民ハ、皆軍國主義即チ Militarism ニ依リテ其强大ヲ成セルモノタリ。其現狀ニ就テ之ヲ見ルモ、擧國皆兵主義ヲ取ル者、强大海軍ヲ備フル者、其歲計ノ大部分ヲ軍事費ニ投スル者、何レカ軍國主義タラサラン。特ニ此度ノ戰役ニ及ヒテ、交戰者ハ、皆國家ノ存在ヲ維持スルノ必要アル爲メニ、各個人ノ自主自由ヲ顧ミルニ遑アラス、其身體財產ヲ强制シテ之ヲ國家ノ支配ノ下ニ置キ、天下復タ天賦人權自由平等ノ說ヲ以テ之ニ抗スル者ナシ、即チ是レ軍國主義ノ最高調ヲ呈スルモノタリ。軍國主義非ナルカ、君主制不可ナルカ、是非ノ議論自ラ存スヘシ。然レトモ、此戰役ヲ以テ、君主制

ニ對スル民主制、軍國主義ニ對スル非軍國主義ノ爭ナリト爲スハ、事實ヲ誣フルノ甚タシキノミナラス、亦今日ノ事體ト相容レサルノ憾アリ。

今日、予自身亦交戰國ノ臣民タリ、故ニ若シ人種論、自由平等說、若クハ非軍國主義ノ言ニ依リテ、味方ノ結束力ヲ固クシ、其敵愾心ヲ皷舞シ得ヘクンハ、予亦甘シテ俗人ト共ニ其說ヲ爲スヘシ。然レトモ、固ト是レ其時其時ノ流行說ニシテ、一モ其根蔕ナキノミナラス、其効果亦疑シキモノアリ。

且學問的研究ニ從事スル者ハ、最モ一時ノ感情ニ動カサルヽコトヲ戒メサルヘカラス、就中、政治學ノ如ク、人世ノ實生活ト接觸スルコト多キ學問ヲ研究スル者ノ最モ愼ムヘキ所、亦實ニ此ニ在リ。是レ予ノ研究對象ヲ獨逸佛蘭西若クハ英吉利西等ニ求メスシテ、之ヲ戰爭ト殆ト無關係ナル支那、及ヒ協商國中比較的ニ戰爭ニ冷澹ナル露西亞ニ求メ、其思索ノ冷靜ト、其批判ノ自由トヲ保タント殆スル所以ナリ。

人種ト政治

第二章　人種學及政治心理學

本書ハ、支那及ヒ露西亞ノ國體及ヒ國民性ヲ尋繹シ、其政治的變遷ノ由來ヲ明カニスルコトヲ目的トス、其根據ハ、人種學及ヒ政治心理學ニ在リ。

予自身ノ所說ハ、其著「人種問題」及ヒ「政治心理學」ニ詳カナリト雖モ、本章其梗概ヲ擧ケテ、以テ其推理ノ便ヲ圖ルヘシ。

古代希臘哲學者、人種ノ異同ノ、其政治生活ニ影響ヲ及ホスモノアルヲ說キ、爾來交通發達、異人種相接觸スルノ機會多キヲ加フルニ從テ、人種研究ハ常ニ政治研究ト相抱合シテ、其進路ヲ示スモノアリ。近世ニ及ヒテ、人種研究ハ、人類學地質學ニ依リテ、其科學的體貌ヲ具ヒ、政治學ハ、法律學、經濟學、社會學ト相伴フテ、其發達ヲ見メシ、兩者其科ヲ相分チ、其流ヲ相異ニスルカ如クナレトモ、只是レ學問研究者カ、便宜ノ爲メニ、其業ヲ分チタリ

ト云フニ過キスシテ、政治上ノ實際問題ハ、多クハ人種ノ異同ト相關聯スルノミナラス、國體ヲ說キ、國民性ヲ說クモノ、遂ニ遡ホリテ其人種的性情ニ及ハサル無シ。且近年發達シ來レル社會心理學民族心理學ノ如キハ、人種學ヲ以テ其基礎ト爲シ、心理學ノ理法ヲ此ニ適用シテ、以テ其體ヲ成シ、其論理ヲ推シテ、人類政治生活ノ體用ヲ解說セントスルモノニシテ、一度相分派セル人種學ト政治學トハ、此種ノ研究者ノ爲メニ、再ヒ相合流スルノ姿アリ、畢竟二者固ト是レ同根生ノ物タリ、其一ヲ取ルトキハ、其二ヲ捨ツル能ハス。

希臘人ノ人類ノ種屬ニ關スル研究ハ、蓋シヘロドタス、ヒポクラテスノ記述ニ其端ヲ起シ、プラトン、アリストテレス等ノ人類ノ實生活ニ對スル理論ト、相待チテ其體ヲ具フ。古人以爲ラク、人類ノ社會的生活ハ、歲月ト共ニ變遷スルノミナラス、其種屬ヲ異ニスルニ從テ、其社會狀態モ亦相同カ

尙古思想

ラス、其種族ノ幼稚ナルモノニ至リテハ、未タ社會組織ヲ成ササルモノ亦コレ有リ、故ニ歷史以前、社會組織以前ノ人類ノ狀態ヲ研究シテ、初メテ現在ノ狀態ノ由テ來ル所ヲ知リ、及ヒ其ノ進ミ行ク所ヲ推スヲ得ヘシト。

古代希臘人、埃及人、及ヒセミチック人、共ニ、人類原始狀態ハ、十全圓滿ニシテ、最モ幸福ヲ享クルモ世代ヲ重ヌルニ從テ、漸次墮落シテ、澆季ニ赴クモノト爲ス。或ハ云フ、此思想ハ、東方熱帶地ノ聖哲先ツ之ヲ唱ヒ、漸ク西方ニ傳播セルモノナリト。其考證未タ詳カナラサレトモ、支那印度ノ古聖哲、概ネ大古ノ美ヲ稱シ、時移リ世降ルニ從テ、澆季ニ赴クモノト爲スノ傾アルヲ見ルトキハ、少クトモ其思想ノ本源ヲ一ニスルコトヲ推測シ得ヘシ。

進化論

然レトモ、此ノ如キハ、生物進化ノ大原則ト相容レサルノミナラス後世ホッブス、ロック、モンテスキュー等ノ人種的研究ノ步ヲ進ムルニ及ヒテ、各原始人類ハ、無智、怯懦、殘忍ヲ極メ、其境遇亦零丁憫ムヘキモノアルコ

トヲ說キ、人類ハ、其社會組織ノ進步ニ依リテノミ、其幸福ヲ享受スヘキコトヲ明カニス。爾來、民約論者、社會主義者ノ徒、强テ文明ヲ咒詛スルノ說ヲ爲スモ、復タ之ヲ信スル者ナシ。

家族制ト君主制

又アリストテレスハ、本來民主論者ナレトモ、其ノ家族制ヲ說クヤ、家父カ其家族ヲ支配スルヲ以テ其正形ト爲シ、家族制ハ則チ社會ノ基礎ナリト論シ、此ニ父權說(patriarchal rule)ノ端ヲ開キ、父權說ハ、軈テ君主制ヲ解說スルノ根據トナリ、父權說ト祖先崇拜ノ風俗ト相依リテ、君主神權說ヲ生ミ出シ、遂ニ、法皇ト皇帝トハ、天帝ノ意ニ依リテ、人類ヲ支配スルモノト爲スニ至ル。然レトモ、此定說ハ、人種研究ノ進步ト兩立スル能ハサル所以ノモノアリ。乃チ中世以後、歐羅巴人ノ異人種ニ關スル智識增進スルヤ、世間神權ニ基カサルトコロノ君主制アルヲ知ル。例ヘハ、ギニア、モノモタパ、カタイ、ペルーノ如キハ、絕對的專制君主アルモ、彼等ハ、皇帝又ハ法皇ヨリ其權利ヲ承受セルニ非ラス、特ニ、彼等ハ天帝ニ關スル信念スラ有セサルナリ。其人民ニ向テ、何故ニ其君主ニ服從スルヤト問フトキハ、彼等ハ只服從セサルトキハ甚タシキ不幸ヲ招クヲ以テナリト答フルニ過キス。

母系民族

且ホツブスハ、世間母ヲ家長トシテ成立スル所ノ家族制、即チ Matriarchate ノ實例多キヲ說キ、ヘイリンハ、ボルネヲニ、婦女ヲ君主トスルノ民族アリ南部印度、阿弗利加、北亞米利加ニ、母系家族制アルヲ擧ケテ、之ヲ熱帶民族ノ通態ナリト爲ス。母系家族ノ在ル處、必ス非戰的平和民族アリ、共同生活制、土地財產共有制、亦之ニ伴フノ傾アリ。十九世紀ニ及ヒテ、此種ノ研究其步ヲ進ムルニ從テ、アリストテレスノ、父系家族制ヲ以テ人類家族ヲ成スノ唯一ノ正形ト爲スノ說ハ破フルルト同時ニ、彼カ好ミテ說クトコロノ民主共和說ニ、新タナル本源ヲ添附スルニ至ル。

十八世紀中ヘルデルハ世界諸人種ニ就キ、其民族團體發達ノ次第ヲ說キ、

國民性論ノ本源

人種、言語、慣習、相同シキ者、相依リテ政治生活ヲ共ニスルハ、自然ノ法則ニシテ、英雄豪傑ノ力ヲ以テスルモ、之ヲ奪フ能ハスト爲ス。即チ是レ十九世紀ニ於ケル國民性論ノ爲メニ、先聲ヲ上クルモノニシテ、ナポレヲン全歐羅巴ヲ席卷スルノ時ニ當リ、日耳曼諸國。露西亞其他ノ人民、自己ノ國民性ヲ自覺シ、之ヲ以テ佛帝ノ武威及ヒ制令ニ反抗スルノ資ト爲シ、伊太利及ヒ東歐羅巴諸地、亦コレヨリ國民性運動漸ク盛ナリ。是等國民性運動ハ、或ハ成功シ、或ハ失敗ス。然レトモ、運動ノ成敗ハ、其時其場處ノ事情ニ依リテ定マリ、其事敗ルヽモ、其思想ハ則チ奪フヘカラス。近時ノ人種問題ナルモノハ概ネ單純ナル人種論ニアラスシテ、實ハ人種ヲ基礎トシ、他ノ幾多ノ條件ヲ添附スルトコロノ國民性問題タリ。

然リト雖モ、古人ノ人種ニ關スル研究、甚ダ粗笨ヲ極ムルノミナラス、科學上ノ人種論ヲ取リテ、一足跳ヒニ、之ヲ政治問題ノ上ニ利用スルニ專ラナル爲メ、漸ク其本ニ遠サカリテ、還ルヲ忘ル、姿ナキ能ハス。特ニ今日ノ所謂人種問題ナルモノハ、之ヲ人種學ニ照ラシテ、過誤ヲ含マサルモノハ甚タ稀レナリ。其ノ國體論國民性論ニ至リテハ、多クハ是レ便宜論ニシテ、其學問的基礎ヲ缺クノ憾ナキ能ハス。佛蘭西人エミル、ボウトルーカ其近著「哲學及戰爭」ニ於テ、國民性ヲ解說シテ、其ハ必スシモ同一人種タルヲ要セス、一定ノ人類カ、永ク共同團體ヲ維持スルトキハ、假令物質上ハ、互ニ其種屬ヲ相異ニスルモ、其精神上ノ狀態ヲ相同クスヘク、之ヲ目シテ心理上ノ同一人種ト爲スヲ妨ケスト爲シタルハ、較々牽强附會ニ墜ツルカ如クナレトモ、今日ノ現實問題ヲ解說スル爲メニハ、是レ亦已ヲ得サルノ辯ナルヘキカ。

嘗試ニ、予自身ノ人種ニ關スル研究ノ一端ヲ擧ケンカ、人類カ、陸上ニ於テ人體ヲ具備シテ、生育セル事跡ハ、地質學上ノ第三期ニ遡ホリテ之ヲ求ム

人種問題

ルコトヲ得ヘシ。地質學者ノ說ニ依レハ、第三期中、地球ノ表面平坦ニシテ、高山ナク、氣候亦溫暖ニシテ、赤道直下モ、兩極モ、殆ト其溫度ノ差異ヲ見サル時代アリ。此時ニ當リテ、今日ノ印度洋ハ、一ノ陸土タリ、暫ク之ヲ名ケテ印度阿弗利加間ノ大陸ト爲ス、即チ人類發蹤ノ地ナリ。人性遷移ヲ好ム、其種屬蕃殖スルニ從テ、東西南北、其嚮フトコロヲ窮メ、陸土盡クルトキハ、則チ水ヲ涉リテ行ク、全地球面、人類ノ至ラサル所ナシ。既ニシテ地殼隆起時代トナリ、高山大嶽、相臨ミテ突起シ、地球面ノ一部ハ漸次寒冷ヲ加ヘ、他ノ一部ハ炎熱益々加ハリ、此ニ地表ノ大阻隔、大不平均ヲ來タシ、剩ヘ、第三期末ヨリ第四期ノ前紀ニ涉リテ、大冰期アリ、冰層北方ヨリ起リテ、漸次擴大シテ南方ニ及フ、此時ニ當リテ、歐羅巴及ヒ亞細亞ノ陸土ノ大部分ハ、數千尺ノ堅冰ニ壓セラレタルコトアリ。此大冰期ハ、今ヨリ二十萬年前ニ始マリ、五萬年前ニテ繼續シタレトモ、此大冰期間ニ、四回又ハ五回地球面ノ溫度昇リタルコトアリ、溫度高キヲ加フルニ從テ、冰層減退ス、之ヲ名ケテ中間期ト爲ス。此大冰期中、人類ハ、一旦ハ歐羅巴及ヒ亞細亞ノ陸土ノ大部分ヨリ驅逐セラレテ南移シ、冰層減退スルノ時ヲ以テ、復タ北進シ、或場合ニハ、其ノ遁ケ後レタル者、冰層ニ圍マレ、地角山隅ニ群居シテ、其生息ヲ保ツ、即チ是レ人類團體生活ノ起源ニシテ、此間ニ、火ヲ用フルコトヲ知リ、衣服ヲ着クルコトヲ悟リ、又言語ヲ用フルコトヲ知ル、所謂石器時代ノ文明ナルモノノ濫觴亦此ニアリ。人類カ他ノ動物ニ比シテ優越セリト云フ第一要件ハ、其ノ器械ヲ用フルノ點ニアリ、而シテ、最モ幼稚ナル民族ノ、先ツ用フル所ノモノハ石器ナリ、既ニシテ、銅若クハ銅ト他ノ金屬トノ合金ヲ用ヰ、遂ニ鐵器ヲ用フルニ及ヒテ、今日ノ文明ノ規模ヲ成セリ。

地質學者ノ言フ所ヲ以テスレハ、歐羅巴ハ、大冰期時代ニ於テ、冰層ノ本源

地ナルヲ以テ、所在人類ハ、冰ノ爲メニ驅リ去ラレサルヘカラス、其冰層ノ減退スルニ從テ、歐羅巴ニ進入シタル者ハ、阿弗利加人ニ外ナラス。當初歐羅巴大陸ニ棲遲シタル者ハ石器時代ノ古民族ナリ。其後、阿弗利加ニ發育シタル民族ノ北方ニ遷移スルモノ頻々、其中二大經路ニ由ルモノ、其徵證最モ顯著ナルアリ。乃チ其一ハ、地中海沿岸ヨリ進ミテ、歐羅巴ノ南西部ニ入リ、其二ハ、東方ヨリ迂回シテ、タニユーブ地方ヨリ北歐羅巴ニ入ル、此二者共ニ阿弗利加人ナリ。其後、亞細亞大陸ヨリ進ミテ、歐羅巴ノ東北諸地ニ入ルモノ甚タ多シト云フト雖モ、其時代遙カニ後クレ、其原住地モ、亞細亞ノ西部ト云フニ止マリ、其ノ如何ナル經路ニ由リテ、其處ニ移リ行キタルヤヲ詳カニセス。只地質學者、人種學者ノ所說ヲ綜合スルトキハ、ヒマラヤノ山頂、西藏ノ高原、皆水成層ヲ戴クヨリ推ストキハ、其ノ嘗テ水底ニアリシコトヲ證スヘク、第三期中、地球表面平坦ナルノ時ニ當リ、人類其蹤ヲ印度阿弗利加間大陸ニ發シテ、遷移ヲ開始ス、亞細亞大陸ハ、則チ其ノ最モ近ク且最モ行キ易キタリ。地殼隆起時代以後、高山大嶽相阻隔シ、氣候ノ差異亦甚タシキ爲メ、所在人類互ニ相隔絕シタリト雖モ、亦以テ多數人類ノ貯藏所タルニ足ル。冰期以後、先ツ各方面ニ人類ヲ移出シタルモノヲ、阿弗利加ナリトセハ、其後ヲ承ケテ、人類遷移ノ本源タルモノノ、亞細亞大陸タル、亦自然ノ數ニシテ社會學者及ヒ歷史家カ、亞細亞ノ中心ニ、强大民族ヲ養成スルノ地アリ、其民族交互ニ世界ノ本舞臺ニ出テ大作爲ヲ現ヌスコトヲ說クハ、即チ此事實ニ就テ、其言ヲ立ツルモノニ外ナラス。

今日人種ノ異同ヲ辨スルモノハ、第一ニ、其皮膚毛髮ニ由リテ分類シ、第二ニ、其頭顱ノ長短ニ由リテ區別シ、第三ニ、其言語、慣習、風俗ニ由リテ、其種屬ヲ判ツヲ常トスレトモ、是ハ一ニ研究ノ便宜ニ依ルニ過キスシテ、人類生

育ノ初メヨリ、此ノ如キ差別アリト云フニアラス、亦今日ノ分類法ヲ未來永劫支持シ得ヘシト爲スニアラス。顧フニ、人類其形體ヲ陸上ニ現ハシタル形跡ヲ、第三期ニ遡求シ得ヘシトセハ、其ヨリ以後、既ニ二十有餘萬年ヲ閱ミシ、其間、人類自身ノ進歩ヲ重ヌ。人類ハ一元ナリ、其印度阿弗利加間大陸ニ生育セル者ハ、其體貌畧ホ相同シカリシヤ言ヲ待タスト雖モ、遷移又遷移、其境遇ヲ異ニシ、其周圍ノ事物相同カラサルニ從テ、其身體上及ヒ精神上ニ幾變化ヲ來タサヽルヘカラス。前述人種異同ヲ辨スルノ諸方法ノ如キハ、此變化ノ跡ニ就テ、之ヲ云フモノニ外ナラス。人種ヲ、皮膚毛髮等ノ色ニ依リテ分類シ、白人黑人等ノ差別ヲ爲スハ、今日最モ普ク行ハルヽ所ナレトモ、Blumenbach ハ、人類ハ、本來白皙ナリ、其ノ阿弗利加ニ在ルモノ黑色トナリ、亞細亞ニ在ルモノ黃色トナルハ、主トシテ地上ノ光熱ノ作用ニ由ルト爲ス。且彼ハ、各人種ノ頭顱ニ就キ、比較研究ヲ試ミテ、從來ノ人種學者人類學者ノ過ヲ正スコト甚タ多シ。而シテ Ridgeway 亦彼ト等シク、人類ノ形象ハ、主トシテ周圍ノ事物ノ影響ニ依ツテ變化スルモノト爲シ、人類學者カ、各人種ノ頭顱ハ一定不動ナリト爲スノ說ヲ打破シ、等シク猶太人ト雖トモ、歐羅巴猶太人ノ頭顱ハ、亞米利加猶太人ノ頭顱ヨリモ短カク、シシリー人ハ長頭顱ナリト云フモ、其ノ亞米利加ニ生レタル者ハ、歐羅巴ニ生レタル者ヨリモ短ク、ボヘミヤ人洪牙利人ノ頭顱ノ形ハ、漸次變化シツヽアリ、人類學者ノ所謂 Dolichocephalic (長頭顱)及ヒ Brachycephalic (短頭顱)ノ差異ハ、畢竟其ノ居ル處ノ土地ノ影響ヲ受クルモノニ外ナラス、人類ノ身長ノ如キハ、土地及ヒ生活狀態ニ依リテ伸縮スルモノナリト主張ス。若シ其レ言語慣習風俗等ニ至リテハ、固ト是レ心理上ノ現象ナリ、其形體相異ナルモノヽ間ニ、其心理現象ノ統一ヲ見ルコトク、其形體相同シキモノヽ間ニ、其心理現象ノ差異ヲ見ルコトアリ。マックス、

ミユーラー、フレデリツキ、シユレーゲル等、專ラ言語ニ依リテ人種ヲ區別セントスルモ、血統種族全ク相異ナルモノニシテ、同一語系ニ屬スルモノ多キハ、爭フヘカラサルノ事實ニシテ、所謂アリアン人種ナル語カ、多數ノ異人種ヲ包容スルヲ見テ之ヲ知ルヘシ。

而シテ、其心理上ニ屬スルモノハ、予ノ所謂政治心理學ニ基イテ之ヲ解說スルノ外ナシ。夫レ人類ハ、人々其個體ヲ以テ生存スルト同時ニ、相集團シテ一體ヲ成ス。其個體カ有機的ナル如ク、其團體モ亦有機的ナリ。人類心理作用ノ本源ハ、其個體ニ存スルヤ論ナシト雖モ、其發達ハ、一ニ其團體生活ニ是レ由ル。地質學者及ヒ人種學者ノ攻究スル所ニ依レハ、人類本來ノ生活狀態ハ、非社會的ナリ、其ノ集合生活ヲ始ムルハ、蓋シ氷期ノ末ニアリ。氷期末、若干人類相集リテ其日ヲ送ルノ時ニ及ヒテ、初メテ言語アリ、言語アリ則チ人々互ニ其意思ヲ相通シ、意思相通シテ此ニ初メテ社

會生活ノ發達ヲ見ルヲ得、人類カ、社會的動物タリ、社會カ有機的組織タルノ主動力ハ言語タリ。今日ノ生物ニシテ、社會生活即チ有機的共同團體ヲ成スモノ、獨リ人類ニ限レルニアラス、從テ、其團體組織ヲ解說スルニ、物質的理法ヲ以テスルヲ妨ケスト雖モ、人類ノ社會生活ハ、則チ主トシテ其心理作用ニ由ルモノ多ク、其政治的進化ノ行程ハ、專ラ其政治心理ヲ取リテ之ヲ解說セサルヘカラス。

政治心理學ノ論理ヲ以テ之ヲ云ハヽ、人類ハ、個體トシテ存在スルト同時ニ、家族、民族、國民等ノ有機的團體トシテ存在ス。個人カ、生命ノ主體タル如ク、家族、民族、國民等、亦生命ノ主體タリ。其レ既ニ生命ノ主體タリ、各々其固有ノ意思ナカルヘカラス、團體意思ハ、個人ノ心理機關ノ中ニ存スルモ、個人ノ意思ニアラスシテ、團體ノ意思ナリ。個人ハ、物理上ニモ、將タ心理上ニモ、團體ノ細胞タリ。此ニ團體アレハ、則チ此ニ團體意思アリ、團體

意思ハ、假定ニアラスシテ、實在ナリ。佛蘭西人ガブリール、タルド以爲ラク、社會ハ即チ模倣ナリト、其說ニ曰ク、人性宣傳ヲ好ミ又模倣ヲ好ム、社會萬般ノ事、皆是レ宣傳ト模倣トノ製作物ナリ、宣傳力ニ强弱アル如ク、模倣性ニ利鈍アリ、社會ノ現象ト其轉化トハ、一ニ此關係ヲ以テ之ヲ解說シ得ヘシト。露西亞社會學者 Mikhalovsky ハ、社會的勢力ハ、印象、宣傳、模倣ノ三者ナリト爲ス、彼ハ本來個人主義ヲ取リ、社會有機體說ヲ排シ、英雄崇拜論ヲ嫌フノ人ナルヲ以テ、其ノ宣傳ノ上ニ、更ニ强大ナル力、即チ其周圍ノ事物ヨリ受クル所ノ印象ヲ置キ、之ヲ以テ團體心理構成ノ第一要件ト爲ス、彼ノ言フトコロハ、露國人一流ノ極端ニ馳スルノ嫌ナキニアラスト雖モ、其ノ宣傳模倣ノ外ニ印象ヲ加ヘタルハ、洵ニ語テ詳カナルヲ得タリト云フヘシ。夫レ言語慣習風俗等、皆模倣ニ依リテ成ルヤ言フマテモナシ、立憲國ニ於ケル國民意思公議輿論等、皆一定ノ指導者アリ其ヲ宣傳シ、民衆此ニ其心ヲ動カスコトニ依リテ形成ス。指導者ハ、英雄タリ賢哲タルコトアリ、野心家煽動家タルコトアリ、民衆、亦智識階級ヨリ無智無責任ナル群衆ニ至ルマテ、其々等差アリ、其時其處ニ於ケル周圍ノ事物、亦其心理現象ヲ形クルニ與カリテ力アルヤ論ナク、其心理現象ニ永續性ヲ有スルモノアリ、一時性ナルモノアリ、其波及スル範圍モ亦廣狹一ナラス。之ヲ要スルニ、家族民族及ヒ國民等、人類團體生活ノ體用ハ、一面ヨリ之ヲ見レハ總テ是レ心理的現象ナリ、物理的現象ト心理的現象トヲ併セテ之ヲ研究シテ、此ニ初メテ其完體ヲ擧クルヲ得ヘシ。

以上人種學及ヒ政治心理學ノ梗概ヲ擧ク、其說クトコロハ甚タ簡ニ過クルカ如クナレトモ固ト是レ次篇支那及ヒ露西亞ノ事ヲ論スルノ根據ヲ明カニスルニ外ナラス。顧フニ一ノ國民ヲ對象トシテ、其政治的生活ノ來歷ヲ研究スルニハ、必スヤ其根據ヲ物理的及ヒ心理的要素ニ求メサル

ヘカラスト雖モ、其物理的根據即チ人種學上ノ研究未タ詳カナラス、其心理的根據即チ政治心理ノ體統甚タ明白ヲ缺クモノ多シ、是レ此種ノ研究ヲ難シト爲ス所以ニシテ、ウイルヘルム、ヴント畢生ノ力ヲ民族心理ノ研究ニ傾倒シテ、只未開人種幼稚民族ヲ以テ其研究資料ト爲スニ止マリ、エミール、ブートミー[英國民政治心理]及ヒ[米國民政治心理]ノ著アリト雖モ、其名ハ其實ニ伴ハサルノ憾アリ。近年、各國民ニ就テ、其國民的精神若クハ民族心理ヲ序述スルモノ多シト雖モ、猶ホ未タ粗笨ノ譏ヲ免カレサルモノヽミ、蓋シ其物理的研究、心理的研究、共ニ尙ホ未熟ナル上ニ、一人ニシテ其ヲ兼ネ修ムルコト更ニ難キニ是レ由ラサルヘカラス、予ノ此著ノ如キハ、只自ラ其力ヲ致スト云フニ過キスシテ、其不完全ナルコトハ、予自身ノ先ツ認ムルトコロナリ。

第三章　政治的行程及革命

本書、支那及ヒ露西亞ヲ取リテ其研究對象ト爲ス、是レ此二國民ノ心理的體統ニ、相關聯スルモノアリ、相類推スヘキモノアルノミナラス、此二者ハ、則チ近時ニ於ケル革命國ニシテ、其政體ノ轉變極マリナキ點ニ於テモ、之ヲ併セテ論スヘキ所以ノモノアルヲ以テナリ。

古來政治ヲ說ク者、皆政體ニ尙フトコロハ、其ノ固定性(Stability)ヲ有スルニアリト爲ス。蓋シ人性其堵ヲ安スルヲ喜フ、政體ニシテ、變革常ナキ時ハ、家々人々、常ニ其心ヲ安シ其業ヲ定ムル能ハサルノ虞アルヲ以テナリ。然リト雖モ、固定ト曰ヒ、變革ト曰フモ、畢竟程度問題ナリ。國家ノ制令ハ、朝暮ニ改易スヘカラス、然レトモ、人事ハ、時々刻々ニ新タナリ、國政獨リ舊ニ依リテ移ラサルヲ得ヘキカ。希臘古哲、既ニ政體循環ノ說アリ、近世政

治學者、亦政治思想變遷ノ次第ヲ闡顯スルニ務ム。乃チ大局ヨリ之ヲ觀ルトキハ、政體ハ、固定スヘキモノニアラスシテ、循環シ又ハ變遷スヘキモノタリ。其ノ循環又ハ變遷ハ、漸ヲ以テ至ルヲ常態ト爲シ、其ノ急劇ナルモノヲ指シテ革命ト爲ス、革命ハ變態ナリ、各國民ノ政治史ハ、則チ此常態若クハ變態ノ記錄ナリ。

政治循環說

希臘人ノ政體ノ循環ヲ說クヤ、極メテ簡單ナリ。乃チ以爲ラク、政體ノ最モ單純ナルモノヲ元首專制ト爲ス、而シテ專制ハ暴虐ニ流レ易ク、且元首時ニ統治ノ能力ヲ缺クコトアリ、於是乎、貴族政治、即チ特殊階級政權ヲ專ラニスルニ至ル、然レトモ、貴族政治ハ階級的專橫ニ陷リ易ク、特ニ一般民衆ト衝突ヲ引起ストキハ、貴族階級ハ遂ニ民衆勢力ノ爲メニ其政權ヲ奪ハル、而シテ民衆政治ノ流弊ハ、亂民政治トナリ、無政府狀態ニ陷ルニアリ、民衆、無政府ニ苦ムノ極、遂ニ强有力者ヲ推シテ爲政者ト爲シ、此ニ元首專制ノ故ニ復ス、三政體、各々其存在ノ理由アリ、其長所アルト同時ニ、其短處ヲ含ムヲ以テ、其一窮スレハ、他ヲ以テ之ニ代フ、其循環極リナシト。希臘人ノ見ルトコロノ國家ハ、大ハ人口二三千人、小ハ人口二三百人ヨリ成ル所ノ、都市又ハ部落ナリ、其政治組織ノ如キハ、旦暮ヲ以テ變易ス、是レ其ノ簡々政體循環說ヲ爲ス所以ナリ。然レトモ、彼等猶ホ且政體ノ數々變スルハ其國民ニ不利ナリト爲シ、混合政體ノ說ヲ出スニ至ル、混合政治トハ、元首專制政治ヲ代表スル所ノ君主ト、貴族政治ヲ代表スル所ノ元老院ト、民衆政治ヲ代表スル所ノ衆議院トヲ併セ存シテ、共ニ其事ニ當ラシメ、互ニ相箴制シテ其流弊ヲ相防キ、且政治ノ固定性ヲ保ツヘシト爲ス、其言古樸ナリト雖モ、亦甚タ後世ノ立憲政治ノ要旨ト相適フモノアリ。

混合政體

近世ノ學者ニシテ、極メテ大膽ナル人世觀ヲ有スル者ヲ、ヘーゲルト爲ス。彼ノ說ニ依レハ、人類社會ニハ自ラ個人ノ意思ヲ超越シタル世界的精神

世界的精神ノ更代

(Weltgeist) アリテ存シ、世界ノ歴史ハ、此世界的精神ヲ代表スル者ノ働ク所ノ行程ニシテ、一ノ代表者其能事ヲ終ルトキハ、他ノ新タニ世界的精神ヲ代表スル者、出テ之ニ代リ、其事ニ當ル、人世ノ變遷、國家ノ興亡、亦此狀態ニ外ナラスト、其言迂大ニ過クルカ如クナレトモ、亦政治心理ノ爲メニ光燄ヲ上クル所以ノモノアリ。又 joseph von Görres カ、其著「獨逸及革命」ニ於テ說ク所ヲ要約スレハ、彼ハ國家內ニ、君治的分子ト民政的分子ト併セ存スルハ、猶ホ個人ノ身體及ヒ心理ニ、首腦ノ統制ノ下ニ存スルトコロノ主動力ト、身體各部ニ存在スルトコロノ自動力ト、併セ存スルカコトキモノアリ、國家カ、或ハ君主制タリ、或ハ民主制タルハ、畢竟國家自ラ固有スル所ノ分子ノ作用ナリ、從テ、君主制ノ下ニ、圓滿ナル民政ノ發達ヲ期待シ得ヘシ、政治ノ眞諦ハ、君治主義ト民政主義トノ、適當ナル調節ヲ保ツニアリ、國民ハ、君主制ノ下ニ、完全ナル自由ヲ享有シ得ヘシト。言フ勿レゴエルスノ說ヲ陳腐ナリト、百年後ノ今日ニ於ケル英吉利人ハ、現ニ大英帝國トシテ、民政ヲ說キツヽ、自ラ其解說ヲ爲スニ苦シムノ態アリ。

君治ト民政トノ共存

四時代說

又ゴエルスハ、人ノ幼年時代、少年時代、壯年時代、老年時代ニ於テ、各々其意氣經行ヲ異ニスル如ク、國民ニモ、幼少壯老ノ時代思想アリ、各々其政治的特兆ヲ呈スルモノアリト爲ス。曰ク、幼者ハ、急進的ニシテ、夢幻ニ耽リ、最モ英雄ヲ崇拜ス、此時代ノ國民ハ、自由ヨリハ寧ロ平等ヲ愛シ、貴族若クハ特殊階級ノ政治ヲ排シテ、獨裁君主ヲ迎フルノ姿アリ、第二時代ハ、專ラ自由自治ヲ尙ヒ、第三時代ハ、保守ヲ主義トシ、實利實益ヲ重シ、其發達進步ニ滿足ス、第四時代ハ、政治上ノ老成期ニテ、形式的國家制ニ信賴シ、其體統ニ服從シテ已ムト。其言餘リニ抽象的ナリト雖モ、政治心理ノ研究ノ爲メニ資クル所甚タ大ナリ。其後、オーギユスト、コムトノ三時代說アリ。曰ク、人類精神的發達ノ行程ハ、之ヲ三段ニ分ツヘシ、其第一ハ、神學的若クハ假想的時代、第

三時代說

二ハ、形而上的若クハ抽象的時代、其三ハ、實證的若クハ科學的時代ナリ、之ヲ政治上ニ徵スルニ、十三世紀末マテハ、神權政治即チ第一期ニ屬シ、十四世紀ヨリ十八世紀ヲ通シテ、實體的政治即チ第二期ニ屬シ、十九世紀ハ即チ實證的時代ニシテ、實利ヲ旨トスルノ政治ヲ見ルニ至レリト。是等十九世紀學者ノ所說ハ、遂ニ希臘學者ノ政治循環說ノ範疇ヲ脫シ得サルカ如クナレトモ其研究資料ノ豐富ナルト、大國家ノ大事故ニ關スル經驗多キトハ、希臘時代ニ比シテ、霄壤ノ差アリ。且ヘーゲル以來、學者皆進化論ヲ根基ト爲シ、心理學ヲ以テ之ヲ經緯ス、是レ人類政治的行程ニ關スル學說ノ、愈出テ愈精シキ所以ナリ。

以上、古今ノ學說ヲ綜合スレハ、人類ノ政治狀態ハ、變易極リナキヲ以テ定則ト爲シ、事物ニ固定性アルヲ尙フハ人ノ情ナリト雖モ、世間永久不變ノ政治ナルモノハ有リ得ヘカラス。夫レ國家ハ生命ノ主體ナリ、國家自身

國家ハ生命ノ主體ナリ

ノ內容ニ新陳代謝作用アリ、營給發育作用アリ、世間自己ノ存在ヲ保ツノ意思能力ヲ具有スルコト國家ニ若クモノ無シ、是レ國家ヲ不死ノ生命ヲ有スルモノト爲ス所以ナリ。實際上、古來ノ民族國民又ハ國家ニシテ絕滅其形ヲ留メサルモノハコレ有ルヘシト雖モ、是ハ天災地變又ハ外敵ノ爲ニ、不自然ニ其生命ヲ奪ヒ去ラルヽモノニ過キスシテ、若シ其自然ノ法則ニ由ラシメハ、國家ハ不滅體ナリ。單細胞生物ハ、火熱ヲ加ヘ、又ハ劇藥ヲ注キテ、之ヲ殺スコトヲ得ルモ、彼自身ヲ、自然ノマヽニ存スルトキハ、其死期ナキナリ、國家ヲ不滅體ナリト云フノ理、亦此ニ同シ。只國家ヲ構成スルトコロノ人類ハ、個人トシテハ、其生命ニ限リアリ、且人世日常ノ事、半ハ其國家的存在ニ利アラサルノ傾アリ、是レ國家自身ノ新陳代謝作用及ヒ營給發育作用ニ依リテ、自ラ保タサルヘカラスト爲ス所以ナリ。乃チ政治ノ變易ハ、此新陳代謝營給發育ノ理法ト相適ハサルヘカラスシテ、國

家カ其不滅ノ生命ヲ保ツ所以亦實ニ此ニアリ。

政治上ノ通用語、改革及ヒ革命ノ二者ヲ相分ツ、然レトモ、二者共ニ政治的變易ノ行程ニシテ、只後者ハ、前者ニ比シテ、其事急劇且亂暴ナリト云フノミ。夫レ政治ハ力ナリ、國家構成分子中ノ强大ナル意思能力ヲ有スルモノ、其全體ヲ支配ス、政治的變易ハ、他ナシ、此强大勢力ノ要求ヲ滿タスモノタリ。ヘーゲルハ、國家ヲ以テ、神ト世界トノ中間ニ立チテ、其意思ヲ體現スルモノニシテ、國民的共同意思ヲ實力化シテ、此ニ初メテ其功ヲ全クスヘシト爲シ、爾來其學說ヲ取ルモノ、遂ニ實力即チ政治ナリト解スルニ至ル。實力說ハ、最近學問界ニ喜ハレサレトモ、政治ハ力ナリト云フコトハ、拒否スヘカラス。其レ既ニ力ナリ、强大勢力ヲ取リテ、政治ノ基礎ト爲スハ、當然ノ事タリ。從テ、爲政者ニシテ、若シ强大勢力ノ何レニ存スルカヲ知ラス、又其要求ヲ誤解スルトキハ、如何ナル政治的改革モ其効ナシ、若シ

又、强大勢力ヲ排除シ壓服スルニ力ムルトキハ、却テ革命ヲ招致ス、革命亦人世ノ自然作用ノ一タリ。

然レトモ、革命ハ、固ト是レ非常ノ事ナリ、大危險ヲ冒シ、大犧牲ヲ供シテ、而シテ其政體ヲ變易スルコトヲ求ムルモ、或ハ過キ或ハ及ハス、時トシテハ、政治ノ退步ヲ見ルコトアリ。譬ハ猶ホ腹心ノ病アル者ノ爲メニ外科的大手術ヲ施スカコトシ、幸ニ其功ヲ奏スルトキハ、藥石効ナキ者ヲシテ萬死ニ一生ヲ得セシムヘシト雖モ、奏効ハ常ニ期スヘカラス、時トシテハ、其病根ハ除キ得ルモ、其人衰弱ノ爲メニ倒ルヽコトアリ。只其人、健强ニシテ、生活力ニ富ミ、其醫、學術ニ長シテ、施置宜シキヲ得ル塲合ニ於テノミ、其功ヲ成スヘキナリ。國家亦同樣ナリ、政體ハ、穩當ナル改革ニ依リテ漸次之ヲ變易シ、革命ナクシテ其目的ヲ達スルニ若カス、若シ已ヲ得スシテ革命ヲ行フモ、其國家ノ基礎鞏固ニシテ、其國民生氣ニ富ミ、革命主動者亦先

見ノ明アリ遠大ノ識アリ、其道ヲ撰ヒテ其ノ宜ヲ得テ、初メテ政治的進歩ヲ贏チ得ヘシ。十八世紀末ノ佛蘭西大革命ハ、世界政治史上、最モ大規模大仕掛ナル出來事ニシテ、世間革命ヲ談スル者、先ツ之ヲ取リテ以テ其依準ト爲ストコロナリ、然トモ佛國大革命ハ、政治上ニハ大失敗ニシテ、佛國民ハ、其累世ノ王朝ヲ廢シテ、久キニ渉ル大混亂ヲ招致シ、遂ニコルシカノ一流氓ニ帝冠ヲ捧ケ、其武斷政治ノ下ニ生命財產ヲ提供シテ已ミタリ。只革命中、佛國ノ土地制度ヲ改革シテ、農業隆興ノ基ヲ開キ、外患ニ餘儀ナクサレテ、徵兵制ヲ布キ、大軍國ノ規模ヲ成シタルノ二事ハ、甚タ稱揚スヘク、佛蘭西カ世界ノ强大國タルヲ得ルノ本源ハ、實ニ此ニ存セリ。他ノ諸國、革命ノ實例甚タ多ク、十九世記初ヨリ千八百四十八年ニ至ル間ハ、革命時代ト云フヲ得ヘシト雖モ、其ノ能ク功ヲ成セルモノハ、殆ト見出スヘカラス。

世間多クハ革命トハ、君主專制政治カ立憲政治トナリ、君主制カ變シテ共和政治トナルコトヲ指スモノト爲スカ如クナレトモ、是ハ俗見ナリ。革命トハ、暴力ヲ以テ、國家統治權ヲ爭奪スルノ謂ナリ。一ノ政體ヨリ他ノ政體ニ變スル塲合、固ヨリコレ有リ、然レトモ一ノ君主制ニ代フルニ他ノ君主制ヲ以テシ、一ノ共和政府ニ代フルニ他ノ共和政府ヲ以テスル塲合ニ於テモ、政治的變革ノ常經ニ由ラスシテ、暴力ヲ以テ之ヲ行フモノハ、皆革命ナリ。舊時、君王侯伯間、常ニ革命騷動アリ、今日トテモ、墨其古其他ノ共和國ニハ、常ニ革命ヲ傳フルモ、其ノ能ク國民ノ自由ヲ伸張シ、幸福ヲ增益シ得タルモノ果シテコレ有リヤ。且革命的暴力ハ、必ス革命的變態心理ヲ之ニ伴フ、人心常態ヲ失フトキハ其成敗ヲ問フニ遑ナキノミナラス、其利害得失ヲ計ルモノスラコレ有ラス、是レ多クノ革命カ、失敗ニ終ル所以ナリ。本書ハ支那及ヒ露西亞ノ古今ヲ通シ、一切ノ政治的體用ヲ擧ケ

テ之ヲ研究對象ト爲スモノナレトモ、二國共ニ世界ノ大國家ヲ以テ新タニ革命ヲ行ヘル事實アリ、從テ尋繹推窮、自ラ革命ノ事ニ及フモノ多キハ、時情己ヲ得サル所ナリ。只支那ハ千九百十二年二月十二日ヲ以テ、清朝ヲ排シテ、共和政體ヲ創始シタリト云フモ、爾來六年ヲ閱シテ其政治組織未タ成ラサルノミナラス、革命騷動頻々、天下其歸適スル所ヲ知ル者ナシ、露西亞ハ、今年三月中旬、ロマノフ家皇政ヲ廢シ、新タニ共和政體ヲ肇造シタリト稱スルモ今日猶ホ其體統ノ見ルヘキモノ無シ、從テ二國民革命ノ成敗ヲ論スルハ、蓋シ數十年ノ後ヲ待タサルヘカラス。

第二篇　支　那

第一章　支那及支那人

今日世間、亞細亞大陸ノ東ニ於ケル一大國家ヲ呼テ支那ト稱ス、併ナカラ、是ハ其國民自ラ命スルトコロノ名稱ニアラサルナリ。史記列傳、騶衍ノ地理說ヲ載ス、彼ハ其國ヲ名ケテ中國ト爲シ中國ハ即チ赤縣神州ニシテ、天下ノ八十分ノ一ヲ占メ、中國ノ外ニ、赤縣神州ノ如キモノ九アリト云フ、其語閎大不經、殆ト其ノ據ルトコロヲ知ル能ハスト雖モ、中國カ、支那自身ノ古稱ナルハ、之ニ依リテ知ルヲ得ヘク、今日支那人自ラ中國ト稱シ、中華ト稱スル、其ノ由テ來ル所亦明白ナリ。

夫レ支那ハ、支那人自ラ命スルトコロノ國名ニアラス、乃チ外國人ノ稱呼ヲ取リテ「之ニ當ルニ、漢字「支那」ヲ以テシタルモノニ外ナラス然ラハ支那

ノ語ノ原ツクトコロ何ニアリヤ、西洋紀元前七百年代、希伯來ノ大豫言者Isaiah ノ書中ニ、these from the land of sinim ナル語アリ、多クノ專門家ハ、之ヲ以テ、支那ノ地名ノ、初メテ古文書ニ見ハルヽモノト爲ストコロナレトモ、希臘文舊約全書ハ、之ヲ以テ波斯ヲ指スモノト爲ス、蓋シ、當時埃及ト亞細亞東方トノ交通ハ、專ラ波斯ヲ經由シテ行ハレタルヲ以テ、東方ヲ指シテ波斯ト爲スモノナルヘシ。又古時サマルカンドカ、東西交通ノ要路タルヤ、西人其地ヲ呼ヒテChinト稱ス。其他古人、バレスタインノ南ニ於ケル砂漠ヲJin. Sin. Zin若クハSinaiト呼フモノアリ。畢竟、古人ノ地理ニ關スル觀念明白ヲ缺クヲ以テ、亞細亞東方ノ國土ト、其ノ交通ノ要路トヲ混視シ、之ニ附スルニ同一名稱ヲ以テシタルモノニ外ナラスシテ、其ノ指ストコロハ則チ一ナリ。從テ、支那ノ語源ハ、是等古代西人ノ稱呼ニ出ルヤ疑ヲ容レス。而シテ印度ノ佛敎徒カ、其「サンスクリット」ニテ之ヲ記スニChih-naナル文字ヲ以テスルニ及ヒテ、支那ナル漢字ト其發音甚タ相近キヲ見ル。或ハ曰ク、佛敎徒ノ用フル所ノ文字ハ、西人ノ稱呼ニ由ルニアラスシテ、秦即チch'inヲ音譯セルモノナリ、秦始皇、支那ノ封建割據ノ舊形ヲ打破シテ天下ヲ一統ス、是レ印度人ノ其國ヲ目シテ秦ト爲ス所以ナリト。然リト雖モ、是ハ牽强附會ノ譏ヲ免カレス、何トナレハ、佛敎カ支那ニ入リタルハ、漢代ニシテ、秦時ヲ距ルコト既ニ遠ク、印度人、故ラニ遡ホリテ秦ヲ稱スルノ理由ナケレハナリ。

今日ノ支那ハ、其面積三百九十萬方哩、其人口三億二千萬トイフ世界的大國家ニシテ、其歷史亦極メテ古ルキヲ以テ、其國民ハ、決シテ單一人種ニアラサルヤ論ナシト雖モ、本章ニ序述スル所ノモノハ、支那國民ノ主要分子タル漢人ノ、人種研究ノ概要ナリ。漢人ノ本源ト其來歷トヲ擧クルトキハ、自ラ支那人ノ何者タルコトヲ解說スルヲ得ヘシ。漢人ハ、西方ニ其蹤

ヲ發シ東漸シテ支那ノ地ニ遷リ來ル。漢人以前、支那ニ多クノ先住民族アリ、其社會組織不完全、其文明亦甚タ低卑ナリ。故ニ漢人此ニ入リ來リテ、之ヲ緩撫シ、之ヲ同化ス、其ノ強テ抵抗スルモノハ、戰テ之ヲ驅逐ス。漢人ハ最モ同化ニ長シ、戰爭ヲ喜ハス、然レトモ、其ノ已ヲ得サル場合ニ於テノミ、兵ヲ用フ。支那ノ最古代、戰役甚タ稀レナリ、只黃帝、蚩尤ト涿鹿ノ野ニ戰ヒ、堯舜、苗族ヲ驅逐スルニ力ムル等、僅カニ其一二ヲ紀スルモノアリ。蓋シ漢人ノ本性、異人種ニ對シテ、人種的爭鬪ヲ爲スヲ欲セサル者タリ。」今日ニ於テ、漢人ノ人種的本源ヲ稽フルハ、甚タ難シ。漢人ハ、比較的ニ豐富ナル歷史ヲ有シ、其歷史以前ノ事ハ、其ノ神話傳說ニ之ヲ求ムヘシト雖モ、專門家ノ研究ニ依レハ、世界諸民族ノ有スルトコロノ、歷史以前ノ神話傳說ナルモノハ、多クハ有史時代ニ及ヒテ製造セルモノニ屬シ、民族自身ノ來歷ヲ神秘ニシ文飾シテ、以テ後人ニ誇ラントス、其事概ネ舖張甚タ信スヘカラス、且諸民族ヲ通シテ、其ノ外ヨリ遷リ來レルコトヲ蔽ヒ匿クスニ力ムルノ傾アリト云フ、支那ノ古史古傳說ヲ尋譯スルモノ、亦此感ナキ能ハス。

且漢人ノ人種的關係ヲ研究スルモノハ、支那人ニアラスシテ、歐羅巴人ナリ。歐羅巴人必スシモ漢人研究ノ便宜ニ富メルニアラス、只人種一元論ヲ基礎トシ、神學上ノ古文書及ヒ言語學ヲ根據トスルトコロノ人種研究ニ依リテ、之ヲ推スト云フノミ。乃チ神學上ノ古文書ヲ根據トスルモノハ曰ク、漢人ハバビロンノ文明ヲ繼承スルトコロノ古民族ニシテ、ハミチツク系ニ屬ス、則チノアノ子ジャフエットノ子孫ナリ。彼等ハバベル、ヨリ分離シテ、東ニ向テ遷移シ、中央亞細亞ニ多クノ歲月ヲ送リテ後、進ミテ支那ノ地ニ入リ、黃河ノ上流、山西ノ地ニ定着シテ、其基ヲ開キタリト。其ノ支那ニ入ルノ經路ニ就テ、二說アリ、其一ハ Dr. Legge 等ノ主張スル所ニ

シテ、漢民族ハ、黑海トカスピアン海トノ間ヨリ出發シテ、一ハ北方アルタイ山脈ヲ越エ、一ハ南方タウリツク山地ヨリ進ンテ、黃河畔ニ達シ、北緯四十度乃至四十五度ノ間ニ其居ヲ占メタリト爲シ、其二ハ、Dr. Edkins 一派ノ議論ニシテ漢民族ハタルタリーヨリ甘肅峽西ニ入リ、其ヨリ河南直隸諸地ニ進ミタリト爲ス。今人多クハ、第一說ヲ取ルモノヽ如シ。而シテ二說何レヲ取ルモ、漢人、支那ノ地ニ於テ、其面目ヲ見ハシタルハ、黃河上流ノ地タルコトニ於テ相一致シ、周時代ニ及ヒテ、僅カニ其版土ヲ黃河ト楊子江トノ中間ニ擴クルヲ得タルニ過キス。

而シテ Max Müller 及 Niebuhr 等ハ、言語學上ヨリ遡求シテ、漢民族ハ、バビロン平原ニ其蹤ヲ發シタルコトヲ論證シ、Edkins ハ、其言語ノ單綴音(Monosyllabie)ナルコトヲ根據トシ、Dr Faber ハ、支那文字カ象形ヨリ起リタルコトヲ說キ、康熙字典ニ收ムルトコロノ四萬字ノ原字形ハ、百ニ滿タス、其

ノ字源ハ、二百十四ニ止マル、此原字形及ヒ字源ハ、則チ漢民族ノ歷史以前ノ來歷ヲ自ラ語ルモノナリト爲ス。

以上、經典古文書、若クハ言語學上ヨリ說キ來ルトコロノモノハ、餘リニ簡單ニシテ、人種的研究トシテハ、甚タ不十分ナリト云ハサルヘカラス。他ノ一面ニハ、人類學者カ、漢人ヲ、其骨格體貌等ヨリ研究シテ、其ノ蒙古人種ノ一タルコトヲ論說スルニ力ムルモ、此種物理的研究ハ、現在ノ事實ニ就テ、其ノ知リ得ル所ヲ盡クスニ過キスシテ、其進化ノ本源ニ遡ホリ、人類發達ノ次第ヲ尋ネテ、逢源會委ノ功ヲ全クスルニ由ナシ。然レトモ、人種的研究ノ明白ヲ缺クハ、豈獨リ漢人ニ於テノミ然ランヤ、他ノ民族、他ノ國民ニ就テ之ヲ求ムルモ、亦同樣ニテ、今日ニアリテハ、只大體ヲ擧ケテ其要ヲ約スルニ止ムルノ外ナシ。

今日、支那人民ノ大部分ヲ占ムルモノハ、漢人種ナリ。其先住民族タル苗

族ノ如キハ、今僅カニ南西邊陬ノ地ニ於テ、其生息ヲ留ムルニ過キス。然レトモ、漢人種ノ支那ニ入ルヤ家族團體ヲ基礎トシテ、其社會ヲ成ス。

家族制

漢人種ハ、本來個人主義ナリ、平和主義ナリ、且平和的民族ハ、一タヒハ必ス「トーテミズム」ノ下ニ立チ、母ヲ家長ト爲シ、母系家族制ヲ形クリ、同家族相婚セスシテ、一ノ「トーテム」ハ、必ス他ノ「トーテム」ト婚姻ス、此通則ハ、即チ之ヲ支那ノ古族ニ之ヲ求ムヘクシテ、莊周カ、神農ノ世、民其母ヲ知リテ其父ヲ知ラス、麋鹿ト共ニ處リ、衣食足リテ相害スルノ心ナシト云ヘルハ、母系家族ノ非戰的生活ヲ畫キ出セルモノナルヘシ、又同姓相婚セサルハ、漢人ノ古俗ナリ、乃チ、漢人ハ、好ミテ其先住民族ト相婚シタルヤ論ナク、漢民族ノ祖先ハ、西方ヨリ遷リ來レリト云フモ、其ノ支那ノ地ニ入リテ、先住民族ヲ同化スルノ間ニ於テ、血液ノ大混淆ヲ招キタルヤ言ヲ待タス、有史以後、漢人蠻夷ト相特異スルニ及テモ、晉ノ獻公ハ、驪戎ノ女ヲ娶リ、秦ノ穆公ハ

血液混淆

其女ヲ戎ニ嫁シ、漢代以來、其公主ヲ匈奴其他ノ異民族ニ嫁シタルノ例甚タ多キヲ見ルモ、漢人種ノ世界主義ハ、其民族的本能ニ出ツルモノヽ如シ。

塞民族

此ニ漢民族ノ人種的關係及ヒ其政治的歷史ヲ解說スル爲メ、其對照トシテ、塞民族ノ梗概ヲ擧ケサル可ラス。塞民族トハ、蒙古韃靼人種（Mongolo-Tartar）ノ總稱ナリ。人種學者ハ、黃色人種ヲ、蒙古韃靼人種、及ヒ西藏支那人種ノ二ニ分チ、漢人ハ則チ此後者ニ屬ス。其ヲ西藏支那人種ト云フハ崑崙ノ表、即チネパール高原ヨリ發シテ、支那ニ進ミタルカ爲メナリ。蒙古韃靼人種ハ、阿爾泰ノ陽ヲ根據ト爲シ、天山北路、賀蘭山北部、及ヒ中央亞細亞ニ發達セル、世界的强大民族ナリ。支那人ヨリ之ヲ見ルトキハ、其地北方塞外ニ在リ、故ニ之ヲ名ケテ塞族ト爲ス、古時玁狁ト曰ヒ、獯鬻ト曰ヒ、匈奴ト曰フモノ、皆此塞族ヲ指シ、突厥、回紇、鮮卑等、皆此民族ニ屬ス。支那

春秋時代以來ノ歷史ノ大部分ヲ占ムルモノハ、則チ此塞民族ト漢人種トノ爭鬪ナリ。然レトモ、塞民族即チ蒙古韃靼人種ノ舞臺ハ、獨リ此ニ止マラスシテ、其ノ歐羅巴ニ侵入セル者ハ、北歐羅巴ヲ席卷シテ、羅馬ヲ壓迫シ、露西亞ノ地ハ、長ク其支配ノ下ニ在リタリ、印度、亦一タヒハ其ノ領土タリ。此人種ノ一派タル突厥ハ、中央亞細亞ヨリ進ミテ、波斯、阿富汗ヲ畧シ、サマルカンドニ移リ、遂ニ東羅馬帝國ヲ亡ホシテ、自ラ土耳其帝國ヲ建ツ。乃チ彼ノ事跡ハ、獨リ支那ニ止マラスシテ、亞細亞、歐羅巴ヲ通シテ其歷史上ノ大立物タリ。

漢塞兩民族ノ異同

塞民族ハ、亞細亞ニ於ケル諸民族ニ比シテ、其色相ニ、共通ノ點多キヤ論ナシト雖モ、其ノ相特異スヘキ點、亦寡カラス、就中、其特異ハ、物理上ヨリハ、寧ロ心理上ニ於テ之ヲ見ルノ實アリ。顧フニ、亞細亞ノ高原ニ其蹤ヲ發シタルモノ、二三ニシテ足ラス、蒙古人、漢人、及ヒ「スラヴ」ノ如キ、皆亞細亞民族ナリト雖モ、其居ル處相異ナリ、其周圍ノ事物相同カラサル爲メニ、其進化ノ方嚮ヲ異ニセルモノナルヘク、漢人ト「スラヴ」トノ間ニ、物理上ノ相違ノ點甚タ多クシテ、心理上ノ共通點甚タ多キニ對シテ、塞民族ト漢人トハ、其物理上ノ色相相同シクシテ、心理上ノ行徑全ク相異ナルハ、研究者ノ最モ興味ヲ感スル所タリ。言語學者ハ、蒙古韃靼人ヲ目シテ、阿爾泰語族ト爲シ、其言語文字ノ系統、全ク漢人種ト相同カラスト爲シ、社會學者ハ、漢人種カ平和ヲ好ミ、個人主義ヲ取リ、虛無淡泊ヲ愛スルニ對シテ、蒙古韃靼人種ハ、好戰民族ニシテ、軍國主義ノ下ニ團結シ、進取侵畧ヲ以テ其能事ト爲スコトヲ論證ス。而シテ、塞民族ハ、朔北荒寒ノ地ニ偃蹇スル間ハ、粗獷頑强能ク其特性ヲ保ツモ、一タヒ暖地ニ出テ、文明ニ浴スルトキハ、其化醇極メテ速ナルタケ、其腐敗墮落亦極メテ速カナリ。彼等ハ決シテ文化ノ素質ヲ缺ケルニアラス、其ノ支那ニ入リテ榮華ヲ極ムルモノハ、忽チニシテ支

那ノ文藝美術ヲ理會ス、又宋時代回鶻隆盛、天山南北路ヲ併合シテ、其國ヲ成スヤ、波斯文學大ニ行ハレ、十世紀ヨリ十二世紀ニ渉リテ、其盛ヲ極メ其ノ土耳其ニ國セルモノ、亦忽チ西歐文明ニ心醉ス。然レトモ、此民族ノ特性ハ、其實力的行動ニアリテ存シ、泰平ノ文明ヲ追フハ、其長所ニアラサルニ似タリ。

兩民族ノ關係

塞民族ト漢人種トノ接觸ハ、春秋時代ニ其端ヲ起シ、秦時、兩者ノ間大阻隔アリ、漢高祖、南匈奴ト親和シ、其公主ヲ冒頓ニ娶ハセ、是ヨリ南匈奴ノ子孫、劉姓ヲ稱シテ、常ニ支那內地ニ毘連ス。道、涼、夏、魏、皆塞民族ナリ。其他塞民族ニシテ、支那內地ニ入ルモノ、十有餘族ヲ算ス。是等塞人種ハ、或ハ漢人ヲ助ケ、或ハ自ラ國ヲ成シテ、常ニ支那歷史上ノ大原働力トナリ、元朝カ、蒙古韃靼ノ全盛舞臺タルコトハ、何人モ能ク知ル所ナリ。最近ノ清朝ハ滿洲民族ナリ、滿洲民族ハ、燕ト呼ヒ、鮮畢ト稱シトングス族ト曰ヒ、之ヲ一般蒙古韃靼人種ト特異スルカ如クナレトモ、地理的關係ヲ察スルモ、滿洲ニ特殊人種アリテ棲息セルコトヲ想像シ得ス、且滿洲カ、長ク匈奴ノ支配ノ下ニ在リテ、混血盛ニ行ハレ、其後ニ至リテ、突厥民族ト滿洲人トノ間ニ大混血行ハレタリト云ヘハ、人種上、之ヲ以テ塞民族ニ屬スルモノト爲スヲ當レリトス。

支那ニ於ケル塞民族ノ特色ハ、其ノ回教徒タルニ依リテ、一層顯著トナレリ。塞民族ハ、波斯其他西方諸國民ト、接觸スルノ機會最モ多キ爲メニ、其「マホメツト」教ヲ奉スルコト最モ早カリシハ、自然ノ數ナリ。特ニ新疆ノ北ニ大食民族アリ、亞刺比亞人波斯人及ヒ突厥民族ノ混種ナリ。彼等其中介者トナリテ、此宗教ヲ塞民族ニ傳播ス。唐太宗「マホメツト」教ヲ迎ヒ入ルヽニ及ヒテ、清眞寺、全國內ニ普ネク、其信徒ハ、主トシテ塞民族ナリ。蓋シ「マホメツト」ノ軍國主義的教理ハ、最モ塞人種ノ民族性ト相投合スル

モノアリ、遂ニ其根蔕ヲ此ニ固クシタルモノナルヘシ。其ノ信徒カ多クハ回紇ナルヲ以テ、支那人之ヲ呼ヒテ回教ト稱ス。

乃チ支那ハ西藏支那人種ヲ本幹ト爲シ、之ニ加フルニ蒙古韃靼人種ヲ以テシテ、其國ヲ成シ、其人民ノ衆多ナル割合ニ、其人種ハ單純ナリ。且數千年間、外國トノ交通甚タ稀疎ナリシ爲メ、所在人民、同化作用行ハレ、其人種的本源相異ナルモノモ、遂ニ其特異スヘキ所以ノモノヲ失フニ至ル。然レトモ、前述ノ如ク、回教徒今猶ホ特色顯著ナルアリ、西南地方ハ、先住民族タル苗族ノ後裔アリ、宋時代、猶太人十七家族支那ニ入リ來リ、今日其遺類湖南省開封府ニ現存ス。ネストリアン僧侶ハ、最モ早ク、支那ニ來レル事實アリ。又元朝、西人ヲ任用スルコト甚タ多カリシヨリ推ストキハ、外國人ノ血液ノ混入コレ無シト云フヘカラスト雖モ、大體ヨリ言ハヽ、支那ハ漢人種ノ支那ナリト云フヲ妨ケス。

國民性ノ定義

第二章　國民性

從來支那人ノ國民性ニ關スル解說、甚タ區々、或者ハ、支那人民ヲ以テ、最モ偏固ナル國民性ヲ有スルモノト爲シ、或者ハ其正反對ニ、支那人ニ國民性ナルモノ無シト、稱ス。前者ハ、專ラ支那人ノ體格言語風俗ノ甚タ他ノ國民ト相異ナルモノアルヲ見テ、之ヲ肯定シ、後者ハ、其國土廣大、其人民衆多、其言語風俗亦相同シカラス、且一國民タリト云フ感想ヲ缺クモノアリト爲シテ、之ヲ否定ス。然レトモ、二者、共ニ之ヲ語テ、未タ詳カナラサルノ憾アリ。

夫レ國民性トハ、多數人民間ニ具存スルトコロノ、一ノ國家ヲ成スヘキ、心理的要件ノ謂ナリ。人種、言語、慣習、宗教、及ヒ政治的事歷ハ、其心理的要件ノ基礎タルヘキ、物理的基礎ナリ。是等物理的基礎ノ上ニ、一ノ必要條件

ヲ加ヘテ、此ニ初メテ、國民性ト稱スルヲ得、一ノ必要條件トハ何ソヤ、曰ク其多數人間、共ニ一國民ニシテ、一ノ國家ヲ成スヘシトイフ信念ヲ有スルコト、是レナリ。今日國民性ヲ說クモノ概ネ汲々トシテ、其人種、言語風俗慣習等ノ異同ヲ辨スルカ如クナレトモ、是ハ本來ヲ顚倒セルモノタリ。一ノ國家ヲ成スモノ、其人種言語等ノ單一ナルニ若クハナシ、併ナカラ、人種言語同一ナルモノ、必スシモ其政治的事跡ヲ同クセス、又必スシモ一ノ國家ヲ成ササルヘカラストイフ信念ヲ有スルモノト爲スヘカラス。之ニ反シテ、二以上ノ人種、相依リテ、一國民性ヲ成スモノ、其例甚タ多ク、若シ人種學上ヨリ云ハハ、總テノ國民ハ、皆人種的複合體ナリ、言語相通セサル者ニシテ、一ノ國家ヲ成ス、亦甚タ其實例ニ富ムトコロナリ。

此見地ヨリ觀ルトキハ、支那人民ニ、一ノ國民性アルコトハ、決シテ否定スヘカラス。只今日支那國內ノ事物、雜駁ヲ極メ、其歷史モ、亦甚タ錯綜セルモノアリ、今乃チ是等ヲ悉ク列擧シテ、即チ是レ支那人ノ國民性ナリト云ハハ、其言遂ニ空疎ニ流レサルヘカラス。故ニ予ハ此ニ支那人ノ主體タル漢人種ノ本來ノ特性ヲ基準ト爲シ、其變遷ノ次第ヲ述ヘテ、以テ支那人民ノ國民性ノ解說ヲ試ミシト欲ス。

人種學上、漢人ハハミチック系ノ古民族ニシテ、バビロンノ文明ヲ繼承セルモノタリ。其ノ長ク中央亞細亞ノ地ニ躑躅スルノ間ニ於テ、故鄉トノ連絡ヲ失ヒ、且他ノ同系諸民族ト異リタル進步ヲ爲シタルヤ論ナシト雖モ、一タヒ支那黃河上流ノ地ニ定着スルヤ、其文化ノ、先住民族ニ比シテ甚タ優ルモノアリ、漢人種ハ、本來平和的民族ナリ、其文化ヲ宣傳シ、異民族ヲ同化スルコトヲ以テ其務ト爲ス。此間亦漢人種特有ノ文化ノ煥發スルアリ、周代ニ於テ、其頂天ニ達ス。夏殷周三代ハ、支那ニ於ケル漢人種ノ獨舞臺ナリ、從テ漢人ノ國民性ヲ尋繹スルモノハ、必ス先ツ遡ホリテ、周代及

ヒ其以前ノ事ヲ以テ其出發點ト爲サザルヘカラス。

漢人ノ國民性中其ノ政治上ノ關係極メテ重要ナルモノニ就キ以下其要ヲ擧ク。

一、平和的民族

今日人種學民族心理學ヲ說ク者、諸人種ノ特性ニ依リテ、之ヲ好戰的(militarism)ト非戰的即チ平和的トノ二ニ分ツ。夫レ爭鬪性モ、親好性モ共ニ人類固有ノ本能ニ出テ、其社會的生存、亦絕對的ニ爭鬪ヲ斷ツ能ハサル如ク、又絕對的ニ親好ニノミ是レ由ル能ハサルヤ論ナシ、只大體ヲ取リテ、其ノ傾クトコロヲ觀、二者何レヲ主トスルカニ依リテ、之ヲ分類スルト云フノミ。此分類ニ從フトキハ、漢人種ハ、平和的民族ナリ、其性甚タ戰ヲ好マス、平和無事ノ間ニ於テ、個人的康寧ヲ保タントス、支那ノ古記傳說、文ヲ尊

ヒ武ヲ卑シミ、仁愛ヲ以テ人世ノ最上ノ道德ト爲シ、謙虛退讓ヲ以テ倫理ノ大本ト爲ス。漢人固ヨリ戰ハサルニ非ラス、只己ヲ得スシテ戰フモ、其要ハ、和親又ハ同化ヲ全クスルニアリ。漢人ノ支那ニ入ルヤ、所在先住民族アルモ、之ヲ討伐スルヲ避ケ、專ラ親和主義、同化政策ヲ取ル。古記、黃帝蚩尤ト涿鹿ノ野ニ戰ヘルコトヲ記ス。蓋シ此先住民族頑抗相容レサル爲メニ、已ヲ得スシテ干戈ヲ用キタルモノニ外ナラス、又堯舜時代、三苗排除ニ力メタル形跡アルモ、是レ亦苗族同化ヲ肯セサル爲メニ、之ヲ驅逐セルモノニ過キス。

支那歷史、戰爭ヲ記スルコト甚タ多シ、併ナカラ其戰鬪ハ頗ル緩漫ニテ、他ノ好戰民族ニ於テ見ルカ如キ、深刻峻烈ナルモノアルヲ見ス、且假令戰フモ、爭鬪ハ其志ニアラス。春秋時代戰國時代ハ、支那ニ於ケル戰爭時代ナリト稱スルモ、當時ノ聖哲皆濱武ヲ排シ、平和ノ尙フヘキコトヲ云ハサル

ハ無シ。春秋時代、襄公二十六年、宋ノ都ニ晋楚以下十四國ノ君主宰相ヲ會シテ、弭兵ノ盟約ヲ取結ヒタルハ、後世ノ萬國平和會議ノ爲メニ其先聲ヲ上クルモノタリ。墨子ハ、其兼愛主義ヲ基礎トシテ平和論ヲ主張シ、其ヲ天下ニ宣傳スルノミナラス、自ラ仲裁和解ニ努メ、又宋榮子ハ爭ハサルコトヲ以テ其主義ト爲シ、戰爭ヲ止ムル爲メニ、終生盡力ス。秦始皇天下ヲ一統スルヤ、長城ヲ築イテ外寇ヲ絕チ、天下ノ武器ヲ銷シテ內亂ノ根ヲ斷タントシタルヲ見ルトキハ、彼スラ平和主義ヲ奉スル者ト謂フヲ得ヘシ。

二、家族制民族

漢人種ニ嘗テ「トーテミズム」ノ下、母系的家族制ヲ成シタル形跡アルコトハ、前章ニ云フトコロノ如シ。併ナカラ其歷史ニ見ハルルニ及ヒテハ、既ニ父系家族制タリ、男子ヲ家長ト爲シ、其血統ヲ重シ、家系ヲ尊ヒ、祖先崇拜

家族制

ヲ以テ論理道德ノ第一要件ト爲ス、家ハ則チ支那人ノ團體生活ノ基礎ニシテ、又其單位ナリ。漢人種ノ觀念ヲ以テスレハ、國家ノ如キハ、家族ノ聯合體ニ過キス。故ニ其倫理道德ハ、父子關係ヲ以テ基礎ト爲シ、其ノ主權者ニ對シ、若クハ國家ニ對スルモノハ、第二段ノ規制タリ。漢人種ハ、子ハ親ニ對シ、自然的ニ且絕對的ニ服從義務アリト云フモ、其君主ニ對シテハ、然ラスシテ、時ニ去就ノ自由ヲ說クモノスラコレ有リ。又親ノ喪ニ中ルモノハ一切ノ國務ヲ免カレテ、其喪ニ服スル如ク、彼ニアリテハ、倫理道德ハ家族本位ニシテ、國家本位ニアラサルナリ。

家族的國家

支那最古ノ國家ハ、家族的國家ナリ。夏殷周ノ古史上、或ハ會スルモノ一萬國ト曰ヒ、或ハ五百諸侯六百侯伯來リ會スト曰フハ、畢竟此家族國家ノ家長ヲ集メタルモノニ外ナラス。孟子カ、天子之制、地方千里、公侯皆方百里、伯七十里、子男五十里ト云ヘルハ、此家族的國家ノ較々長大セルモノヲ

指スヤ論ナク、又其ノ爲政不難、不得罪於巨室巨室之所慕、一國慕之、一國之所慕、天下慕之ト爲スヲ見テモ、巨室即チ大家族ノ勢力ノ、甚タ强大ナルコトヲ推知スヘシ。

支那ハ、家族國家ヨリ、封建國家トナリ、秦以後大一統ノ國家ヲ見ルモ、社會ノ單位タル家族制ハ、依然トシテ其勢力ヲ保存シ、大家族即チ貴族名門ノ權勢益强大ナリ。六朝時代ハ則チ大家族政治ト云フヲ得ヘク、東普ノ王謝二家政權ヲ握リ、博陵ノ崔氏、范陽ノ盧氏、最モ顯ハレ、唐時天子タル李氏ハ、其門地崔氏ノ下ニアリト稱ス。六朝以來、譜學ナルモノアリテ、家系ノ研究ヲ以テ、其專門ト爲ス。

漢人種ノ家族制民族ナルコトハ、其國家ノ有機的組織ヲ阻碍スルモノ無シトセサレトモ、其國ニ、易姓革命相續キ、擾亂斷エサルニ拘ハラス、支那人民、平然トシテ其國民性ヲ維持シ來レルハ、是レ亦社會ノ單位タル家族制アリテ、其存續ヲ保チタルニコレ由ラサルヘカラス。

個人主義
利己主義
享樂主義

三、個人主義

個人主義ハ、國家主義又ハ共同主義ト相對シテ云フトコロノ語ナリ。人類各々自己ノ存在ヲ主張セサルハ無ク、此意義ヨリ云ハハ、總テノ民族ハ皆個人主義ナリト爲ササルヘカラス。只比較的ニ云フトキハ、或者ハ、個人ヲ本位ト爲シ、利己主義、享樂主義ニ專ラナルニ對シテ、他ノ者ハ、其有機的團體ヲ本位ト爲シ、義勇奉公及犧牲的忍苦ヲ尙フトイフ區別アリ、支那ノ漢民族ハ、前者ニ屬シ且、其極端ニ馳スル者タリ。

其レ既ニ漢人種ヲ以テ、家族制民族ナリト爲ス、而シテ、更ニ其ヲ個人主義ヲ取ル者ト爲スハ、矛盾ナラスヤ、然レトモ、其ハ爭フヘカラサルノ事實ナリ、漢人ノ家族制ハ、個人主義ト竝ヒ存シテ、相掩フ能ハサル所ナリ。人類

團體ヲ結ヒテ、其生存ヲ保ツコトハ、其本性ニ出テ、如何ナル民族モ、何等カノ團體組織ヲ有セサルナシ。只好戰的民族ハ、奮鬪進取、他ヲ倒シ自ラ大ニスルコトヲ求メテ饜カサル爲メ、小團體ヨリ大團體ニ進ムニ急ナルノミナラス、其個人的要求ヲ團體的要求ノ犧牲ト爲スニ躊躇セス、是レ個人主義ト、軍國主義トノ、兩立セサル所以ナリ。然ルニ平和的民族ハ之ニ異リテ、其團體組織ハ、同血族營給自足ノ目的ヲ全クスルニ止リ、强テ其ヨリ以上ヲ求ムルコトナク、家長ハ、其個人的慾求ヲ滿タスノ外ニ作爲セス、是レ平和的民族カ、其個人主義ヲ基礎トスルトコロノ家族制ヲ株守シテ移ラサル所以ニシテ、個人主義カ、專ラ非戰的民族ノ間ニ存スルノ理由、亦此ニアリ。

漢人種ハ、個人主義ナルト同時ニ、享樂主義ナリ、彼等ノ人世觀ニ依レハ、人ハ其自然ノ快樂ヲ全クスレハ則チ足ル、故ニ漢人種ノ思想ヨリ湧出シタル老子莊子列子等ノ哲學ハ、個人主義自然主義ヲ、極度マテ發暢シ、之ニ加フルニ享樂主義ヲ以テシタルモノニシテ、之ヲ解スルモノハ、或ハコレヲ無政府論ト爲シ、或ハコレヲ共產主義ト爲シ或ハコレヲ非軍國主義非文化主義ト爲ス。後世ノ思想ヲ以テ之ヲ解說スレハ、是等支那古哲ノ言フトコロハ、遂ニ斯ク斷セサルヘカラスト雖モ、是レ亦漢人種ノ素質ノ然ラシムル所ナリ。

四、民政

漢人種ハ、個人主義ノ下ニ、其家族制ヲ保持ス、當然之ニ伴フモノハ、其民政思想ナリ。支那ノ古來ノ社會單位ハ、家族制ナリ、家族ハ、家長之ヲ體表ス、其家長ハ、則チ個人主義ヲ極度マテ徹底セント欲ス。彼等ノ頭腦ノ裏ニハ、固ヨリ今日ノ立憲政治又ハ共和政體ナル觀念ヲ有セス、只主權者ノ絕

對的統制ヲ受ケ國家ノ爲メニ、其個人的慾求ヲ犧牲ニスルコトハ、全ク彼等ノ意量ノ外ニアリ。

古代支那人固ヨリ君臣ノ關係ヲ云フコト多シト雖モ、彼等ハ之ヲ以テ父子夫婦兄弟トイフカ如キ自然的關係ト爲サスシテ、却テ、國家ヨリ離脱シ、君主ト絶緣スルコトヲ以テ、最モ高尚ナリト爲スノ風アリ。周易蠱上九、不事王侯、高尚其事ト云フカ如キハ、明カニ君主制若クハ國家主義ト相容レサルモノナリト雖モ、彼等ハ平然トシテ之ヲ信シテ怪マス。又古代支那人ノ觀念ヲ以テスレハ、帝王ハ、只民望ニ餘儀ナクサレテ、其地ニ立ツモノニシテ、君主自身、此ニ執着スルカ如キコトアルヘカラス。堯舜ノ禪讓ハ、當然ノ事タリ、殷湯周武ノ其君ヲ放伐セルモ、亦咎ムヘカラスト爲ス、是レ漢人種ハ、民主主義ノ最モ醇ナルモノナリト云フ所以ナリ。

之ヲ實際ニ徵スルニ、支那古代ニ、其ノ君主制ナルモノハ存在セス、其ノ帝

非國家主義

ト曰ヒ、王ト曰フモ、畢竟、家族的國家ノ盟首ニ過キス。只秦始皇天下ヲ一統スルニ及ヒテ、初メテ帝政ノ體ヲ具ヒ、漢代ニ至リテ、能ク其規模ヲ成シタレトモ、支那人民ニ、君主制ノ確信ハコレ無シ。漢代、儒者黄生轅固生ト、景帝ノ面前ニ於テ、湯武放伐ノ是非ヲ爭論ス、景帝之ヲ遮リテ曰ク「食肉、不食馬肝、不爲不知味、言學者、無言湯武受命不爲愚」ト司馬遷、之ニ附言シテ曰ク、是後學者莫敢明受命放伐者ト、知ルヘシ漢人種ハ遂ニ君主制ヲ理會シ得サル民族ナルコトヲ。

五　共産主義

大凡、平和主義ノ下ニ、家族制ヲ立ツルモノ、必ス共同生活組織ヲ有セサルハ無ク、土地共有制、共同耕作制ノ如キハ、畢竟、此共同生活組織ノ事物ノ上ニ現ハルルモノニ外ナラス。

井田制

支那古代ニ、土地共有制、共同耕作制アリシコトハ、其ノ井田制アルニ依リテ、之ヲ證スヘシ。井田ハ、村落共有地制ナリ、一定ノ地域ヲ區劃シテ、所屬衆民之ヲ分有シ、三年毎ニ之ヲ交換ス。耕地ノ三分ノ一ヲ萊ト爲ス、萊トハ、不耕地ノ謂ニシテ、耕作業幼稚ナル時ニ當リテ、其地力ノ盡クルヲ防ク爲メニ、其耕地ノ一部ヲ休耕シ、一年ノ後之ヲ耕シ、他ヲ不耕地ト爲ス。支那ノ井田ハ、露西亞ノ mir 及ビ Artel 古代日耳曼人ノ共同耕作地抽籤分割法ト相比スヘク、露人其村落土地共有制ヲ以テ「スラヴ」ノ誇リト爲スコトク、支那人亦井田ヲ以テ古聖先王ノ美法ト爲ス。然レトモ、是レ偶々其農業ノ幼稚ナルヲ證スルノミナラス、又其人民ノ腦底ニ共産主義ヲ藏スルコトヲ證スルモノタリ。

支那井田制廢レテ後ニアリテモ、土地私有制ナク、唐時代ニ及ヒテモ、天下ノ耕地ハ皆朝廷ノ有ナリト爲シ、班田制ヲ設ケ、人口ニ割リ當テテ、土地ヲ

共同生活

分配シ、農民ヲシテ之ヲ耕作セシム。其地租ト名クルモノハ、租稅ニアラス、又地代ニモアラスシテ、實ハ收穫分配法(productSharing)ナリ。又長髮賊亂中、賊徒南京ヲ占領シ、城内ノ人民ヲ徵集シテ、共同生活ヲ營マシメタルコトアリ。其事ハ、幾クモナクシテ失敗ニ終リタリト雖モ、支那人ニハ、其身體財産ヲ擧ケテ、共同生活ノ下ニ置クヘキ素因アルヲ推知スヘシ。

個人主義ノ下ニ、共産主義アリト云フハ、一應矛盾相容レサルニ似タリト雖モ、平和ヲ好ミ、進取ニ懶ル民族ニアリテハ、共同棲息ハ、其康寧自足ヲ得ルノ最捷徑ナリ。尤モ他ノ一面ヨリ之ヲ觀ルトキハ、天下何レノ民族モ、其原始時代ニ於テハ、土地ニ對スル所有權ヲ認メス、其農業稍發達スルニ及ヒテモ、土地ハ共有若クハ公有タリ、耕作ハ共同作業タリ。故ニ其所在人民ニ奮鬪進取ノ氣象ヲ缺キ、其康寧自足ニ甘スルモノハ、長ク此狀態ニ留リテ移ラサルヤ論ナク、漢人種又ハ「スラヴ」民族カ、土地共有耕作共同ヲ

喜フハ、即チ偶々其民族的進歩カ、一定ノ程度ニ留リテ、移ラサルカ爲ナリトモ解シ得ヘシ。且個人主義民政主義ヲ取ルモノニシテ、其社會ノ平和ヲ保持セント欲セハ、互ニ公平無私ヲ明カニシテ、其爭奪ノ根ヲ絶タサルヘカラス、籤ヲ抽テ耕地ヲ分チ、年限ヲ定メテ其ヲ交換スル、皆平等主義ニ依リテ內部ノ調和ヲ保ツ所以ニ外ナラスシテ、其ノ農業ノ進歩ヲ圖リ、富資ノ增益ヲ求ムル所以ニアラサルヤ論ナシト雖モ、國家主權ニ依ラスシテ自ラ治ムルノ工夫、亦此間ニ存ス、今日ノ無政府論者社會主義者ノ共同生活論、共產制度說、亦コレニ過キサルナリ。

以上擧クル所ノ五者、固ヨリ未タ支那漢人種ノ國民性ヲ盡クセリト云フヘカラスト雖モ、其ノ政治ト直接ノ關係ヲ有スルモノハ、蓋シ此ノ如キニ過キス。而シテ漢人種ハ、個人主義ナリ、享樂主義ナリト云フモ、時ニコレト相異ナル所ノ現象ヲ示スコトアリ。且世間或ハ、支那人ハ冷澹ナルカ如クニシテ熱烈ナルコトアリ、怯懦ナルカ如クシテ勇猛ナル者亦コレ有リトチ、其矛盾ヲ擧クルモノアリト雖モ、國民性ニ關スル推理ハ、大體ヲ取リテ其要ヲ示スニ過キスシテ、個々ノ異例アルヲ拒マス。特ニ漢人種其他支那人民ノ如ク、多クノ年代ヲ閱ミシ、各人種間ノ混血盛ニ行ハレタルモノニアリテハ、生物遺傳ノ法則ニ依リテ、種々ノ變態ヲ見ルコトアルハ、寧ロ當然ノ事ニシテ、毫モ怪ムニ當ラス。

若シ國民性トハ、他ノ國民ト特異スヘキ、民族的狀態ナリト云ハハ、世間支那人民ホト、他ト特異スヘキ條件ヲ具フルモノハ、蓋シ稀レナリ。是レ漢人種ヲ主體トスル支那人民ノ、其本來ノ性情ノ然ラシムルトコロナリト云フト雖モ、抑モ亦此東亞細亞ノ廣大國土カ、歐羅巴ノ强大民族ノ交涉ノ外ニ立チタルコトモ、亦其一大原因タラサルヘカラス。

支那ノ古來ノ歷史ハ、西藏支那民族ト、蒙古韃靼民族トノ爭鬪ノ事跡ナル

支那人ト外國トノ關係

コト、既ニ序述スル所ノ如シ。然レトモ此兩民族ハ、固ト同根生ノ物タリ、畢竟兄弟ノ關係ヲ有スルモノニ外ナラスシテ、支那人民ハ、歷史上、殆ト他人トノ交渉ヲ有セサルナリ。西洋紀元百六十六年、羅馬帝マルカス、アントニヌス、其使節ヲ後漢桓帝ニ致シテ其交ヲ修ム。茶カ、西方ヨリ輸入栽培セラレタルハ、第四世紀以後ノ事タリ。又希臘人カ支那ヨリ養蠶ヲ傳ヘタルハ、ジヤスチニアン時代ナリト稱スルヨリ推ストキハ、東西間、多少ノ交通アリタルヲ疑ハスト雖モ、政治上ノ干繫ハコレ無シ。千五百九十六年、英國女王エリザベス、其使節ヲ支那ニ致シ、千六百三十七年、英人ワッデル、廣東城内ニ其國民若干人ヲ移植シタルハ、近世ニ於ケル、支那門戸開放運動ノ起端ナルヘク、十六七世紀間、和蘭、葡萄牙等、交々支那經營ニ着手シタリト雖モ、僅カニ邊境ニ觸レタリト云フニ止マル、故ニ支那ト歐羅巴諸國民トノ接觸ハ、十九世紀中葉以後ノ事ト云ハサルヘカラス。

哲學及ヒ宗教

漢人種ハ固ト天地山川諸物ヲ禮拜シ、最モ皇天上帝ヲ尊ヒ、又其祖先ニ神事ス、即チ是レ漢民族固有ノ宗教ナリ。其ノ宗教ニ求ムルトコロハ、則チ禍害ヲ免レ、幸福ヲ招キ、及ヒ其恩惠ヲ感謝スルニアリ。其ノ甚タ迷信強ク、又慾求極メテ盛ナルヤ、各種ノ宗教ヲ吸引スルノ力頗ル強キモノアリ。又漢人種固有ノ哲學アリ、老子及ヒ孔子之ヲ代表ス、老子ハ自然ヲ以テ道ノ本體ト爲シ、虛靜無爲ヲ以テ此ニ處ルヘシト爲ス、其言玄微ナリト雖モ、亦以テ自由享樂ヲ求ムルトコロノ個人主義的民族ノ理想ト相投合スルニ足リ、孔子ノ實踐的道德ハ、以テ其固有ノ家族制及ヒ宗教ト相依リテ其體ヲ具フ。此宗教ト此哲學トハ、則チ支那人民ノ思想ノ基礎ニシテ、他ノ宗教若クハ哲學アリテ入リ來ルモ、是レト相戾ル能ハス。

外教ニシテ、最モ早ク支那ニ輸入セラレタルヲ、佛教ト爲ス。印度ノ佛教ヲ、支那ニ招徠セルモノハ、後漢明帝ナリ。爾來漸次教義教典ヲ輸入シタ

リト云フモ、其ノ印度本來ノ佛教其物ナリヤ否ヤハ疑問ナリ。少クトモ Nestorian 一派ノ教義ノ、此ニ混入セルモノアルコトヲ、認メサルヘカラス。

所謂北方佛教ノ宣傳者タル Asvaghosha ハ紀元九十年 Scythia 王ノ軍隊ノ爲メニ、ベナール市ノ代償トシテ虜トセラレ、此ニネストリアン ノ教義ヲ學フノ機會ヲ得、第二世紀 Nagarjuna ハ、ヒマラヤ地方ニ於テ佛教ヲ宣傳シ、第四世紀中、東土耳古斯坦人 Kumarajiva 俘虜トナリテ支那ニ來リ、佛典ヲ傳フ、此二人ハ、印度北部ニ在リテ、西亞細亞ノ宗教思想ヲ感受シタル者ナルヤ論ナシ。第八世紀ニ於テ、印度經典ヲ支那文字ニ飜譯スルコトヲ援助シタルハ、ネストリアン僧 ching-ching ナリ。此時ニ於テモ、彼自身ノ教義ヲ取リテ、之ヲ佛典中ニ入レタルヤ言ヲ待タスシテ、長ク我國ニ在リタル基督教僧アーサー、ロイド、佛典ノ要旨ニシテ、基督教ヨリ取リタルモノ多キコトヲ論證シタルハ、蓋シ其故ナキニアラス。而シテネストリアン僧

カ、支那人ノ所謂皇天上帝ハ即チ西人ノ天帝ナリト解說シ、及ヒ祖先禮拜ノ爲メニ相當ノ理窟ヲ求ムルニ努メタルハ、何人モ能ク知ル所ナリ。

道教ハ、支那固有ノ宗教ナリ、道德教ハ黃帝老子ノ古道ナリト云フモ、其實ハ、此種古哲學トハ關係ナク、西洋紀元百四十年頃、後漢張陵之ヲ唱ヒ、其後十年、魏伯陽之ニ和シ、第三世紀中頃、晉ノ葛洪、孔子老子莊子ノ哲理教義ヲ取リテ之ヲ文飾シテ、初メテ其體ヲ具フ、一言之ヲ蔽ヘハ、道教ハ、個人主義、享樂主義ヲ基礎トシ、長壽安息、最モ其肉體慾望ヲ滿タスコトヲ以テ其理想ト爲ス、是レ其ノ支那人ノ宗教トシテ最モ普ク行ハルル所以ナリ。

夫レ宗教及ヒ外國交通ハ、國民ノ物理上及ヒ心理上ニ、最モ多クノ影響ヲ及ホスモノタリ。而シテ支那人則チ外國トノ交涉極メテ稀疎ナリ、其宗教ノ固有ナルモノハ、專ラ其國民性ニ基イテ發達シ、其ノ外國ヨリ入リ來ルモノハ、支那人民ノ舊習故慣ト相一致スル爲メニ、相當ノ變化ヲ爲ササ

ルナシ、支那人民其國民性ヲ保持シテ移ラサル、亦偶然ニアラサルナリ。

民主國ノ帝王

第三章　政體

支那人民ハ、家族制的民族ナリ、其ノ社會ノ單位ハ、家族ナリ、故ニ彼等ノ觀念ヲ以テスレハ、國家ノ政務ハ、各家族ノ上ニ架スルトコロノ、共同事務ナリ。其ノ帝王ト曰ヒ、侯伯ト曰フ、亦其事務長ノ謂ナリ。是レ支那ヲ本然ノ民主國ナリト云フ所以ナリ。

支那古代、固ヨリ皇帝ノ稱號アリ、然レトモ、其ハ絶對自存ノ主權者ヲ指スニアラスシテ、帝王亦是レ民衆ノ爲メニ政務ヲ統理スルモノニ過キスシテ自存的首腦ニアラス。又帝王ト侯伯臣僚トハ、只比較的等差アルノミニシテ、其位高シト雖モ、絶對的主長ニアラサルナリ。孟子之ヲ解シテ「天子一位、公一位、侯一位、伯一位、子男一位、凡五等」。「君一位、卿一位、大夫一位、上士一位、下士一位、凡六等」ト爲ス乃チ是レ公侯伯子男、卿士大夫、亦皆衆民ノ

爲メニ存スルトコロノ共同事務處理者ニシテ、各々班次アリ、君ト曰ヒ、天子ト曰フ、其ノ首班者タルニ過キス。周武王、孟津大會、諸侯ヲ呼フニ友邦冢君ヲ以テシ、其大誥ニ、爾多邦越爾御事ナル語ヲ用フ、其他、庶邦君ト云ヒ、妹邦ト云フ、乃チ王ハ只是レ封建大名ノ盟首トイフニ止マル。

然ラハ、帝王ノ權源ハ何處ニアリヤ、其ノ天下ニ君臨シテ、統治權ヲ總攬ス、必スヤ其根據ナカルヘカラス、漢民族則チ之ヲ解シテ曰ク、天ノ命ナリト。書經泰誓ニ曰ク「天祐下民、作之君、作之師、惟其克相上帝、寵綏四方」ト而シテ其ノ天ノ何モノタルコトヲ、具體的ニ、解說スルノ語ニ曰ク「天視自我民視、天聽自我民聽」ト乃チ天命ハ即チ民意ナリト云フニ外ナラスシテ、君主ハ國民カ一致シテ之ヲ推戴スルコトニ依リテ、其統治權ヲ享受スルモノタリ。或ハ曰ク、是周武王新タニ其事ヲ擧クルニ當リテ、故ラニ此言ヲ爲シテ人心ヲ收攬スルモノナラスヤト、然レトモ遡ホリテ虞書皐陶謨ヲ見ル

周禮ニ見ハル、民衆政治

ニ「天聰明、自我民聰明、天明畏、自我民明畏、達于上下、敬哉有土」トイフ文字アリ。周武王泰誓ノ言ハ、則チ之ヲ飜案セルモノニ外ナラスシテ、支那第一ノ古典タル書經ハ、則チ徹頭徹尾、民主論ノ教科書ナリ。

更ニ之ヲ事跡ニ稽フルニ古代ノ支那ノ君主ハ、大凡國家ノ重大事ハ、之ヲ一般衆民ニ諮詢シ、其同意ニ依リテ之ヲ決行スルモノト爲スノ實アリ。商書盤庚ハ、商君、其都耿カ、河水氾濫ニ苦メル爲メ、殷ニ遷ラント欲シテ、普ク衆民ヲ諭トシ、其同意ヲ求ムル所ノ誥アリ。又支那最古大法典タル周禮司寇刑官之職ニ曰ク「小司寇之職、掌外朝之政、以致萬民而詢焉、一曰詢國危、二曰詢國遷、三曰詢立君」其位王南鄉、三公及州長百姓北面、群臣西面、群吏東面、小司寇擯以敘、進而問焉、以衆輔志而弊謀」ト、鄭玄之ヲ註シテ曰ク、國危トハ、兵寇ノ難アルヲ謂ヒ、國遷トハ、都ヲ徒シ邑ヲ改ムルヲ謂ヒ、立君トハ、冢適ナク、庶ヨリ選フヲ謂フト。若シ之ヲ正面ヨリ解スルトキハ、大凡國

政上ノ重大事ハ悉ク之ヲ全國民ニ詢ラサルヘカラスシテ、宛モ是レ希臘時代ノ小國家カ、人民ノ總會議ニ依リテ、國務ヲ決裁シタルノ類ナリ。周禮ハ、周代ノ根本法ナリ、後世ノ憲法及ヒ憲法附屬法ニ掲クヘキモノハ、悉ク收メテ此中ニアリ、此各條項カ、果シテ實行セラレタリヤ否ヤ、固ヨリ疑問ナリト雖モ、國家ノ原則トシテハ、之ヲ爭フノ餘地ナシ。

古代歴史

支那古代ヨリ、周末ニ至ル間ノ政體ヲ要約スレハ、本來ノ家族的國家ヨリ封建政治ニ移リ、帝王ハ即チ諸侯ノ盟首タリ。而シテ其國體ハ、民主制ニシテ、帝王侯伯、皆人民ノ爲メニ政務ヲ取ルトコロノ人タリ。初メ堯及舜ハ其君主ヲ己ノ一身ニ止メ、民心ヲ得ル者ヲ擧ケテ其位ヲ讓リ、純乎タル民主制ヲ表章シタレトモ、夏禹以後、君位世襲ノ例ヲ成シタリ。世襲ハ、天命說ト相容レサルカ如クナレトモ、祖先ノ德望ハ、子孫ニ及フモノト爲シテ、擬制ヲ立ツルニ過キス。予孫其德望ヲ危クスルトキハ、易姓革命、以テ民意ニ從フ、周書多士ニ所謂「殷革夏命」即チ是レニシテ、民主制ノ上ニ世襲君主ヲ置ク、是レ其ノ革命國タル所以ナリ。乃チ君主ハ世襲ナリト雖モ、其諸侯ノ盟首タルハ、則チ堯舜時代ト相異ナルコトナシ。

君主制ノ起原

西洋紀元前二百二十一年、秦始皇、六國ヲ滅シ、天下ヲ分チテ、三十六郡ト爲シ、中央集權的君主制ヲ創始ス、是レ支那ニ於ケル帝政ノ起原ナリ。君主ハ、絕對的主權者ニシテ、萬機ヲ親裁シ、其皇位ハ子孫之ヲ世襲ス。秦亡ヒテ、漢之ニ代リ、唐、宋、元、明、淸、諸朝、皆此統制ニ依ル。中間ニ變亂數々起リ、國內三分五裂シタルコトアリト雖モ、所謂君主制ナルモノハ、支那人民ノ共ニ認ムル所タリ。故ニ政治學上ノ語ヲ以テ之ヲ云ハヽ、秦以後ノ支那ハ民主國體ノ上ニ、君主政體ヲ行フモノタリ。而シテ秦始皇ハ、實力ヲ以テ天下ヲ一統シ、且言論ノ途ヲ塞キ干戈ノ源ヲ絕チテ、以テ自ヲ全クセントシタルヲ以テ、自ラ其君主制ノ根據ヲ證明スルニ苦マサリシモ、漢以後ニ

アリテハ、爲政者自ラ安セサル所アリ、此ニ強テ其權源ヲ論證スルニ力ム、其五行論、感生帝說ノ如キハ、牽强附會笑フヘシト雖モ、其帝政ノ根據薄弱ナルタケ、之ヲ辨スルコト益々努メサルヘカラサルノ情アリ。只其ノ久シキニ涉リテ其形ヲ定ムルヤ、其國民慣レテ而シテ之ヲ怪シマス、遂ニ支那人民ハ、絕對的專制君主ニ依リテ支配セラルヘキモノト爲スニ至ル、沿習ノ力亦大ナリト謂フヘキナリ。

君主親政機關

秦始皇ノ君主制ヲ立ツルヤ、絕對的獨裁主義ヲ取リ、皇帝親ラ萬機ヲ宮中ニ決裁シ、亟相以下單純ナル行政官吏タリ。皇帝親政ノ機關トシテ、宮中ニ尙書ヲ置キ、常待機務ヲ管掌ス。固ト是レ近待文書ヲ受授スル者タリ、始皇卑賤者ヲ其事ニ當ラシメタルモ、其地位權勢自ラ外府ノ大臣ヲ凌駕スルモノアリ、趙高、宦官ヲ以テ尙書トナリ、始皇政事ニ倦ムノ後、其權勢强大ヲ極メ、遂ニ秦ヲ亡ホスノ端ヲ開クニ至レリ。漢代、秦制ニ依ル、其大將軍霍光ヲシテ親政ノ事ニ當ラシムルニ及ヒテ、領尙書事ト稱ス、王莽曹操ノ簒奪、亦此地位ヲ利用シタルニ由ルト云フ。唐代ニ、同中書門下平章事アリ、其實權宰相ト等シ、元以後、尙書ハ、外府ノ官トナリ、明代ハ宰相ヲ置カス尙書省六部ヲ各々獨立官府ト爲ス。清朝軍機大臣アリ、宮中ニ在リテ、君主ノ親政ヲ輔ケタルハ、雍正中軍務多端ナルカ爲メニ之ヲ設ケタリト云フト雖モ、亦官中ノ親政機關タリ。畢竟、支那ノ君主制ハ、秦始皇カ、自己ノ個人的精力ヲ恃ミテ、絕對的獨裁主義ニ依リ、其規模ヲ立テタルヲ、其マヽ踏襲セルモノニシテ、其親政機關ナルモノハ、甚タ具ハラス。故ニ、君主乾々强剛ナル時ハ、其事ニ妨ケナシト雖モ、始皇スラ、晩年頽唐其紀綱ヲ失ヘリ、況ヤ其他ニ於テヲヤ。尙書ハ、君主親政ノ機關ナリト雖モ、或ハ卑賤者ヲシテ其事ニ當ラシメ、或ハ外府ノ大官ヲシテ之ヲ兼ネシメ、清朝ノ如キハ、臨時特設機關ヲシテ、長ク其權勢ヲ專ラニセシム、二千有餘年ニ涉ル

支那ノ君主制ハ、概ネ有名無實ニ屬セルハ、其國情ノ然ラシムル所ナリトヽ云フト雖モ、抑モ亦君主獨裁ノ形ヲ見メスニ專ラニシテ、完全ナル君主親政機關ヲ設ケサルニ是レ由ラサルヘカラス。

然リト雖モ、支那ノ家族的民族ナルト、其民政主義ナルトノ體貌ハ、其地方制度ニ於テ之ヲ見出スヘキナリ。支那ハ、周末マテ封建制度ニシテ、秦始皇、之ヲ改メテ郡縣制度ト爲シ、漢ハ封建制郡縣制ヲ併セ用ヰ、爾來歲月ヲ重ヌルノ間、封建ノ古型全ク廢滅ニ歸シ、獨リ家族制ノミハ、依然社會ノ單位タリ、世間ノ實勢力タリ。封建制廢滅ノ後ヲ承ケテ地方制度ノ基礎ヲ成スモノ、則チ此家族制ナリ。

古來、支那人ノ政治論ノ主題トスルトコロノモノハ、封建制ト郡縣制トノ長短ナリ。唐宋以來、清朝ニ涉リテ、學者文章家ノ論策、必ス此問題ニ觸ル、彼等固ヨリ其政治論ニ哲學的根據ヲ有セス、其研究スルトコロ、亦淺薄ヲ

極ムルモ、兎モ角モ、其研究ノ標的此ニアルコトヲ覺知セルタケハ甚タ稱スヘシ。抑モ封建制ハ家族制ニ基クトコロノ小國家制ナリ、秦始皇、封建ヲ廢シテ郡縣ヲ定メタリト云フモ、其小國家即チ擬制的大家族ヲ廢シタリトイフニ止マリ、本然ノ家族制ニ手ヲ觸ルヽコトナシ。且其中央集權制ナルモノハ、只名ノミニシテ地方自治ニ依ルニアラサレハ、郡縣制亦行ハルヘカラス。秦、郡縣制ヲ布クト雖モ、支那人民ハ自ラ其鄉土ノ政ヲ治ム、所謂鄉亭ノ制是レナリ。郡ヲ縣ニ分チ、縣ヲ鄉ニ分チ、鄉ヲ亭ニ分ツ。亭ニ亭長アリ、鄉ニ三老、嗇夫、游徼アリ、皆官吏ニアラスシテ、其地方ノ資產アル者此ニ當リ、一切ノ地方事務ヲ擔當ス。訴訟モ、亦先ツ地方ノ耆老ノ裁判ヲ受ケ、其ノ不服ナル場合ニ於テノミ、司法機關ニ就テ審判ヲ求ム。又後世知縣衙門ニ胥吏ナル者アリ、實務ヲ處理シ、政府ヨリ簡派シタル地方官ハ、只手ヲ拱シテ其爲ストコロヲ觀ルニ過キス。而シテ支那ノ科擧

法ハ、學術試驗ニ依リテ、官吏任用ノ資格ヲ與フルモノナリト云フト雖モ、其實ハ、各地方ヲ以テ其區劃ヲ立テ、各地方ヨリ相當ノ官吏ヲ貢進セシム、宛モ是レ官僚制ノ中ニ立憲制ノ趣旨ヲ含マシムルモノニ外ナラスシテ、科擧制ハ則チ各地方ノ意思能力ヲ中央政府ニ集ムルノ一手段タリ、從テ大官小官ノ任用先ツ其地方關係如何ヲ顧ミルノ姿アリ。

名門豪族

顧炎武ハ、明末ヨリ清初ニ涉ル碩儒ナリ、彼ノ一世ノ大文字タル郡縣論ハ「寓封建之意於郡縣之中而天下治矣」ト云フニアリ。又切ニ家族的國家制ヲ主張ス、其裴材記ニ「自治道愈下、而國無疆宗、無疆宗、是以無立國」ト曰ヒ「唐之天下、貴士族、而厚門蔭、蓋知封建之不可復、而寓其意於士大夫、以自衞於一旦倉皇之際」ト曰フ是レ皆大家族ニ依賴スルノ意ヲ示スモノニシテ、亦支那人トシテ自ラ欺カサルノ告白ナリ。

支那ノ君主政治ノ下ニ、一大產物ヲ出セリ、他ナシ、其官僚制是レナリ。官

官僚制

僚制 Bureaucracy トハ、官吏ヲ以テ終身ノ職業ト爲スモノヲ以テ、官府ヲ組織シ、其官吏階級カ、自ラ社會ノ一勢力ヲ形クルトコロノ狀態ヲ謂フ。官僚制ハ、固ヨリ支那ノ特產物ニアラス、英吉利、佛蘭西、露西亞、獨逸、其他歐羅巴諸國ノ行政部ハ、皆官僚組織ニシテ、專門官吏其事ヲ專ラニスレトモ、其範圍自ラ限アリテ、一般社會ニ於テ、大ナル權勢ヲ揮フモノハ、獨逸以外ニ之ヲ見ルコト甚タ稀レナリ。然ルニ、支那ニアリテハ、官府ノ事、官吏獨リ之ヲ專ラニスルノミナラス、全社會ノ事ヲ擧ケテ、官僚階級ノ權勢ノ下ニアリ、智識階級ト云フモ、學者縉紳ト云フモ、此階級ニ屬スルノ實アリ。

支那ノ君主制ハ、秦始皇之ヲ創始シ、漢ニ及ヒテ、全ク其體ヲ具フ。爲政者ノ旨トスル所ハ、全國ノ智識能力ヲ官府ニ集中シテ、其政治機關ノ基礎ヲ强大ニスルニアリ。漢以來、支那人民、智識技能アル者、皆競フテ官吏トナリ、其職ヲ得ル者ハ、則チ其福利榮光ヲ擅ラニス。是レヨリ後、支那ノ學問

ハ、官僚學ナリ、支那ノ文藝ハ、官僚文藝ナリ、隋唐ヲ經テ、官吏登庸試驗制定マリ、大凡文字アル者ハ、皆官吏志願者タルノ風ヲ成シ、現ニ官吏タル者、嘗テ官吏タリシ者、及ヒ官吏志願者、相依リテ社會ノ最大階級ヲ形クリ、支那ハ遂ニ官僚國トナレリ。世間或ハ、支那科舉ノ弊政ハ、明代ニ始マレリト爲ス、然リ、官吏登庸法ハ明ニ至リテ具ハリ、清朝ニ及ヒテ更ニ之ヲ皇張シテ、其弊害ヲ增加シタリト雖モ、其官僚制ノ由テ來ル甚タ久シキモノアリ。我國ノ漢學者、往々韓退之ノ自ラ薦ムルノ文ヲ陋トスル者アレトモ、豈獨リ韓退之ノミナランヤ。李白、豪放磊落一世ヲ曠クスルト稱スルモ、其ノ「與韓荆州書」ハ、則チ露骨ナル自薦文ナリ。遡ホリテ東方朔ノ「上武帝書」ヲ見ル、亦一層露骨ナル自薦文ナリ。官吏トナリ、官僚階級ニ入ルコトハ、支那人ノ最上且唯一ノ理想ナリ、之ヲ求メテ其手段ヲ擇ハス、豈ニ又其ノ陋ト否トヲ問ハンヤ。

支那ノ官僚制ハ、其君主制ノ產物ナリト雖モ、明代科舉ノ制度完備シテ後其盛ヲ極ム。清初、顧炎武「生員論」ニ曰ク「合天下之生員、縣以三百計、不下五十萬人、而所以教之者、僅場屋之文、然求其成文者、數十人不得一、通經知古今可爲天子用者、數千人不得一也」ト而シテ彼等ハ生員タルノ故ヲ以テ、編氓之役ヲ免カレ、吏胥ノ輕侮ヲ受ケス、笞捶ノ刑ナキヲ以テ、之ニ依リテ以テ身家ヲ保ツノ道ト爲シ、必スシモ官職ヲ得ルヲ要セス、此種ノ生員三十五萬人ヲ算スヘシト爲シ、其ノ一タヒ科第ニ登ル者ハ、皆朋黨ヲ結ヒ、座師房師、同年、年姪、世兄、門生等ノ名目ヲ以テ相牽引シ、門戸ヲ立テ、威福ヲ專ラニスルノ弊ヲ述フルコト、甚タ詳カナリ。其ノ擧クルトコロノ數字ハ、較々舖張ニ過クルカ如クナレトモ、亦以テ官僚階級跋扈ノ一斑ヲ見ルヘシ。

然リト雖モ、支那ノ官僚制ハ、支那ノ國政ヲ擔當シ、其固定性ヲ保チ來レル

其功

ノ功、亦甚タ大ナリ。支那ハ、秦始皇以來、君主制ヲ維持シ、君主獨裁政治ノ形ヲ具フルモ、其ノ能ク獨裁的親政ノ實ヲ擧クルモノハ、二千有余年間、僅カニ指ヲ屈スルニ過キスシテ、政治ノ實權ハ、常ニ官僚組織ノ官府ニ依リテ行ハル。且易姓革命ヲ見ルコト數ハナリト雖モ、新政府ノ政務ヲ擔當スル者ハ、即チ前朝ノ官僚ナリ。顧フニ、支那ノ官吏ハ、國家ノ機關ナリ國民ノ公役者ナリ、決シテ君主ノ臣僕ニアラサルナリ。黃宗羲カ「我之出而仕也、爲天下、非爲君也、爲萬民、非爲一姓也」ト曰ヘルハ、彼ノ一家言ニアラスシテ、支那ノ國體及ヒ國民性ニ原イテ誣フヘカラサル所タリ。又官吏ヲ登庸スルノ法ヲ稽フルニ、其進士ナルモノハ、宛モ各省ノ貢進スルトコロタリ、乃チ各省其進士ヲ出スニ定員アリ、其ノ多寡ハ、其ノ納ムルトコロノ租稅ニ準ス、由是觀之、支那ノ行政官府ハ朧氣ナカラ、一ノ獨立セル國家機關ニシテ、其基礎ヲ國民ノ上ニ置クモノト謂フヲ得ヘク、官府ノ實權ハ常ニ官僚階級ニ在リ、支那ノ官僚階級ハ、入リテハ官職ヲ商榷シ、出テテハ其權勢ヲ社會ニ皇張ス、眞ニ官僚政治ノ醇又醇ナルモノタリ。

或ハ以爲ラク、千九百十二年革命以來、支那ニ科擧制ナシ、故ニ官僚制ハ此ニ終リヲ告ケタリト、然レトモ、是ハ迂濶ノ見ナリ。支那革命トイフモ、只清朝其政ヲ解キタリト云フニ止マリ、其社會上ノ事物ニ何等ノ變易アルニアラス。其ノ官吏ヲ取ルニ科擧制ヲ以テセスト云フモ、官吏トナリ、議員トナル者ハ、依然官僚階級ノ人ナリ。且科擧ノ試驗ヲ行ハスト雖モ、官吏養成ヲ目的トスルトコロノ學校ヲ卒業シ、又ハ外國ニテ一定ノ教育ヲ受ケタル者ニアラサレハ、登庸スルコトナシ。過去ノ制ニ依レハ、官僚階級ニ入ルノ道ハ、擧人其他正途出身者ノ外ハ、倚途出身ト稱スル、金錢ヲ出シテ資格ヲ買得セル者ニ限ラレタレトモ、今ヤ若干ノ學業ヲ修ムル者ハ皆此階級ニ入ルヲ得ルヲ以テ今後益々其規模ヲ皇張シ得ヘク、此階級ニ

シテ勢力ヲ有スル限リ、支那ハ長ク官僚政治タラサルヘカラス。嘗試ニ之ヲ事實ニ徵スルニ、革命後、袁世凱政府ハ袁總統以下大小官吏、皆清朝ノ官僚階級ノ人タラサルハ無ク、黎元洪政府馮國璋政府亦同樣ニテ、其文武ト曰ヒ、南北ト曰フモ、畢竟官僚階級中ノ分派ニ外ナラス。尤モ間々草莽ノ英雄ナル者アリ、群衆ヲ指呼シテ權勢ヲ張ルモノナキニ非ラスト雖モ、畢竟一時ノ事ニシテ、能ク久シキヲ得ル者ナク、其ノ何事ヲカ爲サントスルモ、徹頭徹尾官僚階級ノ人ノ力ヲ藉ラサルヲ得スシテ、支那ハ到底官僚國タリ。

第四章　政治學說

一、總說

周時代ト希臘時代

支那古來政治ニ關スル著書論文ニ富ム、併ナカラ、支那ノ文學ハ周代ニ於テ、其盛ヲ極メ、秦漢以後只其ヲ紹述スルモノアルニ止マリ、復タ其規模ヲ新タニスル者ナシ。支那ノ周代ハ、之ヲ歐羅巴ノ古希臘時代ニ比スヘク歐羅巴ノ文學ハ、希臘時代ニ於テ、其盛ヲ極メ、中世ノ亞剌比亞文學時代、近世ノ文藝復興、皆古代希臘ノ文學ノ逆輸入タリ、再製造タルニ過キス。只歐羅巴ハ、其逆輸入再製造ヲ爲スニ當リ、新人物ノ、生氣鬱勃タルアリ、古道ト相照ラシテ、文章煥發、光燄萬丈ノ壯觀ヲ呈シ、新タナル科學トナリ、新タナル思潮トナリテ、其進運極リナシト雖モ、支那ハ則チコレト異ナリテ、其道ハ古ノマヽナリ、其人ハ則チ舊ニ依リテ移ラサルノミナラス、時ニ汚下

シ、退歩スルトイフ有樣ナルヲ以テ、新科學、新思潮ノ、古道ト相補益スルモノ無シ。

支那文學ノ災厄

且歐羅巴ニ、亞刺比亞文學興隆、及ヒ文藝復興アリテ、哲學科學ノ進歩ヲ資ケタルニ反シテ、支那ハ、却テ文學破壞ノ歷史ニ富メリ。其第一ハ、西洋紀元前二百十三年、秦始皇ノ文學破壞是レナリ。始皇ハ、自ラ天下ヲ一統シテ、絶對的專制政治ヲ肇造スルニ當リ、舊來ノ俗習ヲ絶チ、社會ヲ新タニスルノ目的ヲ以テ、書ヲ焚キ、儒ヲ坑ニシ、文藝ヲ禁遏ス、是レ周ノ文學ニ對スル大破壞タリ。其第二ハ、前漢ノ末ニ於ケル、內亂ノ結果ナリ、漢代文學ノ再興ニ力ムル所甚タ大ナリシモ、國內叛亂相續キ、其蒐集セルモノ、概ネ烏有ニ歸ス。後漢君主、亦文學ノ復興ヲ務メ、紙及ヒ印刷術ノ發明アリ、文藝大ニ興リタレトモ、後漢ノ亡フルニ際シテ、其文書亦燒失ス、是レ其ノ第三ナリ。三國時代西洋紀元三百十一年、洛陽陷落ノ際、其集積スル所ノ文書一炬ニ附シ去ラル、是レ其第四ナリ。爾來支那固有ノ文書ノ外、佛書亦大ニ增加シタリシニ、第六世紀中、南京陷リ、梁元帝、其藏書ヲ燒棄ス、是レ其第五ナリ。其他明代ニ蒐集編纂セルモノノ三分ノ二ハ、千六百四十四年、明朝亡フルノ日ニ、之ヲ喪失シ、千九百年北淸事件ノ際、亦北京ノ文書ヲ喪失スルコト甚タ多シト云フ。尤モ千九百年中、甘肅省敦煌石室ヲ發掘シテ、千年以前ノ古文書ヲ出シ、其中支那ノ古記錄ノミナラス、亞刺比亞文字ノ古文ヲ多ク見出ス。或ハ之ヲ以テ、支那文學復興ヲ資クルモノ大ナリトス、今日ニテハ、單ニ考古家、骨董家ノ嬉玩ニ供スルニ止マリ、未タ學問ニ補益スル所アルモノヲ見ス。之ヲ要スルニ支那ノ文學ハ、不思議ニモ不幸ノ事歷ヲ重ヌルノミニシテ、其勃興煥發ノ機會ヲ有セス、其周時代ノ文物カ、希臘時代ヲ凌駕スルモノアルニ拘ハラス、其ノ發達進歩ノ見ルヘキモノナキハ、決シテ偶然ニアラサルナリ。

支那文學研究ノ必要

然リト雖モ、我日本人ヨリ之ヲ觀ルトキハ、其ノ發達進歩ナキノ故ヲ以テ之ヲ等閑ニ附スル能ハサル所以ノモノアリ。我文藝及ヒ制度ニシテ、其根源ヲ支那ニ取ルモノ甚タ多ク、我智識階級ノ思想ノ奥底ニハ、支那古來ノ成形ヲ存スルモノ寡カラス。此事、豈古老ノミト云ハンヤ、今日ノ學者專門家、亦好ミテ支那ノ古典古法ヲ引イテ其義ヲ斷スル者、近頃益々其ノ多キヲ加フルノ實アリ。然レトモ、或者ハ、支那ノ古經ヲ取リテ、以テ君主制ヲ解說スルノ資ト爲シ、或者ハ、之ヲ以テ民主制ヲ論議スルノ根據ト爲ス等、錯落紛々、方物スヘカラサルノ態アリ。是レ或ハ、今日ノ法律家政治學者等、支那古來ノ國體政體ト、其哲學若クハ學說ノ依テ來ル所トヲ知ラスシテ、互ニ臆說ヲ附スルノ過ニ坐スルモノナラスヤ。且千九百十六年革命以來、支那政治的混亂歲ヲ重ネ、何人モ未タ其歸適スル所ヲ知ル能ハサレトモ、國政ハ、畢竟其國民ノ政治心理ノ表現ニ過キス、其政治心理ノ本源ヲ遡ホルハ、則チ亦當世ノ事ヲ斷スルノ一助タラサルヘカラス。

二、古代支那人ノ國體觀

支那漢人種ノ、最古ノ政治生活ニ關スル研究ハ、主トシテ、之ヲ人種學若クハ社會學ニ求ムルノ外ナシ。而シテ、其ノ政治ニ關スル思想及ヒ理論ハ之ヲ古經古文ニ徵セサルヲ得サレトモ、其ノ古經古文モ、概ネ周代若クハ其以後ノ人ノ手ニ依リテ紹述セラルルモノナルヲ以テ、紹述者ノ思想及ヒ理論ノ、自ラ此ニ潛入スルモノ無シトセス。

漢人種カ、自由主義、享樂主義ニ依リテ、平和的安息ヲ喜フノ次第ハ、既ニ其國民性ヲ說クニ當リテ、之ヲ悉クセリ、從テ、其古經古文ニ見ハルルモノ、亦決シテ我ヲ欺カサルナリ。帝堯陶唐氏ノ政治ハ、支那人ノ黃金時代ナリ。

無爲ノ治

堯、天下ヲ治ムル五十年ニシテ、天下ノ己ヲ戴クコトヲ願フヤ否ヤヲ知ラ

ス、之ヲ左右ニ問ヒ、外朝ニ問フモ、亦知ラス。乃チ童謠ヲ聞クニ、曰ク、「立我亟民、莫匪爾極、不識不知、順帝之則」ト又老人アリ歌ツテ曰ク「日出而作、日入面息、鑿井而飲、畊田而食、帝力何有於我哉」ト至治メ極、被治者其治者ヲ知ラス、爲政ノ要ハ、政ヲ爲ササルニアリ、即チ是レ支那人固有ノ理想ナリ。漢人種ノ政治生活ノ本體ハ、民主的自治ナリ。政治ノ主體ハ、民衆ナリ、治者ハ、被治者ノ爲メニ、其事ヲ行フニ外ナラス。然レトモ、政治ハ、聖人君子、天命ヲ受ケテ之ヲ行フヘク、民衆自ラ政治ノ事ニ當ルヘカラスト爲ス、即チ是レ民主主義ノ下ニ、賢哲政治ヲ行ハントスルモノタリ。賢哲トハ何ソヤ、彼等以爲ラク、民衆ノ信望ノ歸スル所ノ人ナリ、天命トハ何ソヤ、彼等以爲ラク、民衆ノ意思ノ一致スル所ナリ。其ノ初メ、家族制ノ下ニ專屬スルノ時ニ當リテ、其團體生活ハ、即チ家長ノ下ニ立ツトコロノ血族團體ノミ、血族間ノ自然狀態ノ外ニ、政治的觀念アルナシ。然ルニ、家族的民族團體成リ、多クノ、家族ヲ通シテ、一ノ首長ノ制ヲ受クルニ及ヒテ、此ニ初メテ賢哲政治ノ思想アリ。帝王侯伯、畢竟連合家族ノ盟首ナリ、賢哲政治ノ思想ハ、家族自治制ノ上ニ架シテ成レルモノナリト云フト雖モ、亦是レ大國家ニ於ケル君主制ヲ見ルノ、過渡現象タリ。

書經ノ民主的賢哲政治

書經ハ、支那最古ノ經書ナリ、其ノ虞書ヨリ周書ニ至ルマテ、其要ヲ約スレハ即チ是レ民主制ノ下ニ、賢哲政治ヲ行フノ道ヲ明カニスルヲ期ス。君主及ヒ百官、皆天命ニ依リテ、其政ヲ行フ。然ラハ則チ天トハ何ソヤ、皐陶ハ曰ク、「天聰明、自我民聰明、天明畏自我民明威、達于上下、敬哉有土」ト夏書五子之歌ニ曰ク、「皇祖有訓、民可近、不可下、民惟邦本、本固邦寧」ト堯舜ノ禪讓ハ、古時簡樸賢哲君位ニ執着スルノ念ナキニ由ルト云フト雖モ、抑モ其國體ノ然ラシムル所ニシテ、古人率直自ラ欺カサルカ爲メナラサルヘカラス。夏以來君位世襲ノ體ヲ成シ、賢哲政治ハ軈テ君主制ノ型ヲ具フルニ至リ

テモ、殷陽周武、其君ヲ放伐シテ、己取リテ之ニ代リ、則チ曰ク、天命移リテ、我ニ在リト、其根據トスルトコロハ、民衆ノ信望ニ依リ、國民ノ爲メニ、政事ヲ擔當スルト云フニアリ老子曰ク。

聖人無常心、以百姓心爲心、善者、吾善之、不善者、吾亦善之、德善、信者、吾信之、不信者、吾亦信之、德信、聖人在天下歙歙、爲天下渾其心、百姓皆注其耳目、聖人皆孩之

老子墨子ノ政治

老子等、聖人ナル語ヲ君主ト同一義ニ用フルヲ見テモ、其ノ賢哲政治主義ニ醇ナルヲ知ルヘク、其民政論ノ趣旨、此ニ盡ク。而シテ、墨子ハ、更ニ之ヲ語リテ詳カナルモノアリ、彼ハ曰ク、

古者民始生、未有刑政之時、蓋其語人異義、是以一人則一義、二人則二義、十人則十義、其人衆、其所謂義者亦茲衆、是以人是其義、以非人之義、故交相非也、是以、內者父子兄弟作怨惡離散、不能相和、合天下之百姓、皆以水火毒藥相虧害、至有餘力、不能以相勞、腐朽餘財、不以相分、隱匿良道、不以相教、天下之亂、若禽獸然、明虖天下之所以亂生於無政長、是故、選天下之賢可者、立爲天子、天子立、以其爲未足、又選擇天下之賢可者、置立之以爲三公、天子三公既以立、以天下爲博大、遠國異土之民是非利害之辯、不可一二而明知、故書分萬國、立諸侯國君、諸侯國君、既已立、以其力爲未足、又選擇其國之賢良者、置立之、以爲正長、正長已具、天子敷政於天下之百姓。

今日ノ科學的研究ヲ取リテ之ヲ正ストキハ、墨子ノ言、粗漫不經、往往其事ノ本末ヲ顚倒スルモノアリト雖モ、當時ノ人ノ社會觀、亦之ニ依リテ窺ヒ知ルヲ得ヘク、治者ハ、被治者ノ選擇推擧ニ依リテ、其地位ニ立チ、被治者ノ利益ノ爲メニ其務ニ服スル者タリト云フ觀念ハ、則チ古代支那人相一致スル所ニシテ、是レ畢竟彼ノ國民性、及ヒ國體ノ然ラシムル所ナリ。然ルニ科學者專門家此ニ顧ミスシテ、生呑活剝、彼ニ取リテ之ヲ其國體及ヒ國

513021

民性ヲ異ニスル所ノ我日本ノ事ニ相推サントス、是レ其ノ圓枘方鑿ノ窮ヲ招ク所以ナリ。

三、周時代ノ政治論

周代、春秋戰國ニ渉ル間ヲ、支那文學全盛時代ト爲ス。從テ、政治ニ關スル哲理學說ハ、此時代ニ於テ、其極ニ達シタリト云フヲ得ヘク、後世言論文章ヲ事トスルモノ、皆其本源ヲ此ニ取ラサルナシ。

孔子ノ正義說

周代ノ學者、孔子ヲ以テ大宗ト爲ス。然レトモ、孔子ハ、述而不作、信而好古ト稱シテ、自ラ其意見ヲ立テサレトモ、支那古來ノ文學ヲ集メテ大成シ、人ヲシテ其ノ由ル所ヲ知ラシム。詩經、書經、易經、三禮等皆孔子及ヒ其學徒ニ依リテ其體ヲ具フ。故ニ是等正經古典中ニ存スル所ノ、政治ニ關スル

救世之戰」トイフコトヲ以テ其本領ト爲シ、天下ヲ周行シテ、上說下敎シタリト云フ。其說、蓋シ老子ノ消極的自然主義ニ基クト雖モ、天下ニ周行シテ平和運動ニ努メタルノ點ハ、墨子ト相同シ。

然レトモ、周代平和運動ノ最モ具體ナルモノヲ求ムルトキハ、此ニ春秋左氏傳襄公二十七年ノ弭兵會議ヲ擧ケサルヘカラス。當時十四國互ニ相衝爭シ、晉楚最モ强大ナリ。大小國家、比年戰鬪ヲ事トシ、相共ニ疲困ヲ極ム、偶マ宋ノ向戌ナル者アリ、多智博交、最モ列國ノ時情ニ通ス、其ノ趙文子、令尹子文ニ善キヲ倖トシテ、諸侯ノ兵ヲ弭メテ以テ自ラ名ヲ成サント欲シ、晉ニ如イテ趙孟ニ告ク、趙孟之ヲ諸大夫ニ謀ル、韓宣子曰ク、「兵、民之殘也財用之蠹、小國之大蓄也、將或弭之、雖曰不可、必將許之、弗許、楚將許之、以召諸侯、則我失爲盟主矣」ト。晉國先ツ贊同ヲ約シ、楚國亦許諾ス、齊人之ヲ難ス、陣文子曰ク、「晉楚許之、我焉得已、且人曰弭兵、而我弗許、則固攜吾民、將焉用之」

弭兵會議

ト、遂ニ此ニ贊同シ、秦亦參加ヲ約シ、他小國亦異議ナシ、於是乎、列國ヲ宋都ニ會シテ、弭兵盟約ヲ成セリ。此正式列國會議ノ後、列國權臣大夫、相享會シテ、其交情ヲ温メ、其意思ノ疏通ヲ圖リ、一タヒハ弭兵ノ實ヲ擧クルヲ得タレトモ、諸侯安ヲ恃ミテ驕泰、權臣大夫交々恩賞ヲ爭フテ已マス、宋ノ子罕、之ヲ陋トシテ、論シテ曰ク

「凡諸侯小國、晉楚所以兵威之、畏而後上下慈和、慈和後能安靖其國家、以事大國、所以存也、無威則驕、驕則亂生、亂生必滅、所以亡世、天生五材、民並用之、廢一不可、誰能去兵、兵之設久矣、所以威不軌而照文德也、聖人以興、亂人以廢、廢興存亡、昏明之術、皆兵之由也、而子求去之、不亦誣乎、以誣道蔽諸侯、罪無大焉、縱令無大討、而又求賞、無厭之甚也」

世間蕩々平和ヲ說クノ時ニ當リ子罕獨リ軍國主義ヲ主張シ、兵ハ自然ナリ、戰威ハ國ヲ保ツ所以ナリト爲シ、其言辭甚タ痛快ヲ極ム。蓋シ當時、晉楚齊秦、其力路ホ相當リ、權勢均衡、殆ト進ミテ爭フノ餘地ナシ、且各國共ニ戰爭ニ倦ムノ情アル爲メニ、弭兵會議忽チ其功ヲ奏シ、暫ク小康ヲ保チ得タルニ過キスシテ、其後幾クモナクシテ、各國ニ內紛滋生シ、外變亦之ニ續キ、遂ニ戰國ノ大爭亂時代ヲ招致ス、宋人一流ノ弭兵論ハ固ヨリ不徹底ナリト雖モ、春秋時代、戰役最中ニ於テ、此一齣ノ平和劇ヲ見ルハ、亦支那人ノ腦底ニ存スル所ノ、平和思想ノ、一閃光ヲ見メスモノニ外ナラス。

古代支那人、好ミテ兵ヲ談スルノ風アリ。老子墨子ノ平和主義者ヲ以テシテ、猶ホ數ハ軍事ヲ說ケルアリ、功利家ニ至リテハ、防備戰術ヲ說カサルモノハ無シト云フヲ妨ケス。孫子吳子ノ徒ニ至リテハ、專門ノ兵家ナリ。然レトモ其專門兵家ニ至ルマテ、皆、兵ハ凶器ナリ、戰ハ好ミテ爲スヘキ事ニアラスト云フ點ニ相一致シ、一般ニ窮兵瀆武ト稱シテ、軍國主義ヲ排スノ實アリ。後世歷朝、兵力ニ據ルノ君主制ニ至リテモ、此大體ヲ改メス。

支那第一ノ君主制ヲ創始シタル秦始皇ハ、兵力ヲ以テ天下ヲ一統シタルニ拘ハラス、却テ天下ノ武器ヲ銷滅シテ、復タ戰フコトナカラシムルコトヲ以テ理想ト爲スヨリ云ハヽ、彼ハ平和主義ノ極端ナル者トモ看做スヲ得ヘシ。支那ノ諺ニ、好漢不當兵トイフコトアリ、今ニ及ヒテ、猶ホ文ヲ尙ヒ武ヲ卑シムノ風アリ、其ノ到底軍國的民族タルヲ得サルハ、畢竟其國民性ノ然ラシムルトコロナラサルヘカラス。

四　秦漢以後ノ政治學說

秦漢時代以來、支那ノ政治學說ナルモノ無シ、必スシモコレ無キニアラス只周時代ノ政治學說ヲ模擬シ、布衍スルモノアルノミニシテ、獨立ノ思想、獨立ノ研究アルヲ見サルナリ。

予支那周時代ノ文學ノ盛ナルコトヲ歎稱シ、常ニ之ヲ歐羅巴ノ希臘時代ニ比ス。蓋シ希臘古代ノ自然界ノ研究ト、其科學的思想トハ、東西古今ニ卓越シ、此點ニ於テハ、周時代ノ文物ヲ凌駕スルモノアリト雖モ、周時代ノ長所ハ、其人事研究ノ上ニアリ。周人ノ倫理說ノ圓滿ナル、人生觀ノ精到ナル、遙カニソクラテス、プラトン、アリストテレス等ノ其レニ優ルモノアリ。就中、周人ノ政治ニ關スル議論、閎壯雋偉、能ク天下國家ノ大計ニ當リ、希臘人カ、都市國家ノ小天地ニ蹐蹋シテ、其煩瑣ニ耽ルモノト、日ヲ同クシテ語ルヘカラサルモノアリ。然レトモ、支那ノ斯文ノ盛、周時代ニ極リ、之ニ續イテ、之ヲ復興シ、之ヲ激成スルコトナシ、是レ其ノ疎濶陵夷シテ、頹唐ニ墜ツル所以ナリ。然ルニ希臘人ノ人事研究ハ、假令周人ニ比シテ遜色アルニセヨ、第九世、亞剌比亞文學復興ニ依リテ、歐羅巴ニスコラ學派興隆ヲ招致シ、千四百五十三年、東羅馬亡ヒ、希臘學者、君斯坦丁堡ヲ去リテ、歐羅巴各地ニ散布スルヤ此ニRenaissanceノ端ヲ開キ、近世哲學科學是レヨリ

支那ト歐羅巴トノ比較

勃興ス、今日ノ哲學科學、猶ホ希臘人ノ範疇ヲ脫シ得スト云フモ、學者ノ意思全ク新タニシテ、其研究資料亦全ク異ナルモノアリ。蓋シ思想界ノ事ハ粗獷欝勃、生氣ニ滿ツル所ノ人類カ、卒如トシテ、宏博偉大ナル文物ニ觸ルル時ニ於テ、其光燄ヲ上ク。其文アルモ、其人ナク、其文ト其人トアルモ其機會ナケレハ、則チ其煥發ヲ見ル能ハス。支那秦漢以後ノ思想界ノ、曠蕩ニ流カルル、亦其故ナシトセサルナリ。

漢以來、支那ノ國學若クハ國教ト稱スヘキモノハ、孔子ノ儒學ニシテ、倫理道德ヨリ政治論ニ至ルマテ、一ニ孔子ノ規範ニ是レ由ル、是レ孔子ノ正義說賢哲政治論ハ、最モ君主制ヲ解說スルニ適當シ、歷代ノ政府及ヒ官憲皆之ヲ宗奉シ、苟モ之ニ違フモノハ、指シテ以テ異端邪說ト爲シテ之ヲ排スルニ力ム。故ニ學者、老莊ノ道ヲ喜ヒ、印度ノ佛教ヲ信スルモノモ、猶ホ其名ヲ儒學ニ藉リテ、其說ヲ爲スト云フ有樣ニテ、新タニ自ラ立ツル所アル

孔子ノ儒學

態ハス。且隨唐以後、試驗ヲ以テ官吏ヲ登庸スルノ制具ハリ、其試驗ハ、則チ孔子ノ儒學ヲ基礎ト爲シ、他ノ異端邪說ヲ以テ此ニ臨ム能ハサル爲メニ、相率キテ舊ヲ守リテ移ラス、是レ其ノ政治論カ、遂ニ孔子ノ儒學ノ範圍ノ外ニ出ツル能ハサル所以ナリ。

且支那ハ、其地歐羅巴ト隔絕シ、其事物全ク世界的交涉ノ外ニ立テル爲メニ、政治上ノ大變動ナク、只タ漢民族間ノ爭鬪ト、蒙古諸民族トノ關係トアルノミニシテ、コレカ爲メニ、支那人ハ、政治上ノ現實的大問題ヲ研究スルノ機會ヲ有セス。故ニ秦漢時代及ヒ其以後ノ政治論ナキニアラスト雖モ、其主題ハ則チ自ラ限リアリ。乃チ其論スルトコロハ、封建制ト郡縣制トノ得失、兵賦藩鎭ノ利害、邊防理蕃ノ長短、井田制ノ可否、鹽鐵制ノ當非ヲ云フニ過キス、二千年間、同一問題ヲ論爭シ、其云フ所陳腐ヲ極ムル、亦已ヲ得サルナリ。

支那革命以來、黄宗羲ノ「明夷待訪錄」大ニ持テ囃サル、乃チ以爲ラク、是レ支那ニ於ケル民主政治論ノ本源ナリト。然リト雖モ、黎洲ノ言フトコロ亦是レ周代民政論者ノ糟粕ノミ。彼ノ言ニ曰ク

有生之初、人各自私也、人各自利也、天下有公利、而莫或興之、有公害、而莫或除之、有人者出、不以一已之利爲利、而使天下受其利、不以一已之害爲害、而使天下釋其害、此其人之勤勞、必千萬于天下之人、夫以千萬倍之勤勞、而已不享其利、必非天下之人情所欲居也。

是レ人君タル者ハ、甚タ割リニ合ハヌ役目ナリト云ヒ、後世ノ君主ハ、其地位ヲ以テ自己ノ利益ヲ營ミ、一ノ産業トシテ、其政ヲ爲スノ非ヲ鳴ラスニ止マレリ。乃チ彼ハ君主制ヲ廢スヘシトハ云ハス、又君主ナクシテ國家ヲ治メ得ヘシトモ云ハス、畢竟言語ヲ弄ヒタルニ過キス。其ノ堯舜ノ、一タヒ君位ニ入リテ、又去レルヲ尊ヒ、許由務光ノ、入ルヲ欲セサルヲ高トシ、

禹ノ入ルヲ欲セサルモ、去ルヲ得サルヲ多トス、宛然是レ列子莊子以下ノ古臺詞ヲ繰返スモノノミ、民主主義ヲ說ク者トシテハ、甚タ不徹底ナリ、恐クハ、彼亦支那固有ノ消極的自然主義ト、賢哲政治トノ舊思想ノ外ニハ、何物ヲモ有スルコトナカルヘシ。只其ノ「原臣」一篇、臣道ヲ論シテ、

緣夫天下之大、非一人之所能治、而分治之、以群工、故我之出而仕也、爲天下非爲君也、爲萬民、非爲一姓也。

ト云フハ支那人中ニハ出色ノ言タリ、其語氣、恰モ今日ノ議院內閣、責任大臣ノ制ヲ解スルカ如クナレトモ、是レ亦支那特殊ノ官僚政治ノ爲メニ、其說ヲ爲スモノニ外ナラス。支那ハ、君主專制政治ノ體ヲ具フルコト久シト雖モ、暗君弱主相續キ、國政ハ、常ニ權臣ト官僚トニ依リテ行ハレ、易姓革命頻々タリト雖モ、舊朝ノ官僚ハ、新政府ノ事ニ當リテ、以テ其國家ノ統治ヲ補維ス、黎洲ノ臣道ハ、則チ最モ此情形ヲ解說スルニ便ナルモノタリ。

世代變遷說

最近、支那ノ學者間ニハ、禮記禮運篇、又ハ公羊學ノ春秋三世說ヲ取リテ、政體論ノ根據ト爲サント欲スル者アリト雖モ、何レモ牽强附會ニ過キス。禮記禮運篇カ後人ノ僞作ナルコトハ、支那學者ノ通說トモ云フヘク、其ノ孔子ノ子遊ニ語ルトコロノ、大同ノ世ト、小康ノ世トノ辨ハ、寧ロ老莊者流ノ口吻ナリ。乃チ大同ノ世、即チ堯舜時代ハ、世襲君主ナク、私有財產ナク、泰平無事ナリ、世降リテ、夏周ノ時代トナリテハ、世事煩錯、僅カニ善政ニ依リテ小康ヲ保ツト云フノミ、孔子ノ理想國ハ、大同ニアリト爲シ、其ノ文明ヲ呪詛シ、古樸ヲ尙フノ情、宛モ無政府主義、社會共產主義者ト相類スルモノアリ、其言革命家ニ投スルニ足ルト雖モ、孔子ノ正義說、賢哲政治論ト、全ク相容レサルナリ。又所謂春秋三世ノ說ナルモノハ、自稱公羊學者ノ造語ニシテ、春秋公羊傳ノ正文ニアラス。其言フトコロハ、天下ハ、據亂ヨリ升平ニ、升平ヨリ大平ニ、移ルト爲スニアリ。是レ禮運ノ大同ヨリ小康ニ移ルトイフ順序ヲ顚倒シタルモノニ外ナラスシテ、其大平ハ即チ大同ナリ。其言酷タ希臘學者ノ政體循環說ニ似タリト雖モ、禮運篇ニ云フトコロノ如クハ、世ハ澆季又澆季、遂ニ古ニ復スヘカラス、又春秋三世說ニ云フトコロノ如クハ、世ハ大平ニ進ミテ、復タ移ルコトナカルヘク、二者、悲觀ト樂觀トノ兩極端ヲ取ルモノタリ。只其大同若クハ大平ナルモノハ、到底消極的自然主義、非文化主義ナラサルヘカラスシテ、支那人ノ國民性ニ照ラストキハ、此說アルヲ怪マス。然レトモ、此ノ如キハ、人類ノ實生活ノ事歷ト相反スルノミナラス、又進化ノ大原則ト相容レサルナリ。且支那人ノ學風ハ、只古文ヲ解釋スルニ止マリテ、哲學及ヒ科學的研究方法全ク闕如ス、是レ其ノ發達ヲ見サル所以ナリ。

第三篇　露西亞

第一章　露西亞及露西亞人

今日ノ露西亞ハ、面積八百四十萬七千百十八方哩、人口一億七千八百三十七萬八千八百ヲ容ルルトコロノ大國家ナリ。然レトモ、其大國家ハ全ク歴史ノ產物ニシテ、其歴史上ノ事物モ、亦他ノ國家ニ比スレハ甚タ新タナリ。

羅馬帝國全盛ノ日、其官憲ヲダニユーブ以外ニ派シテ、其邊境ヲ守ラシメタレトモ、カルパシアン以北ノ地ハ、全ク之ヲ度外ニ置キテ省ミス。偶々未開民族ノ此方面ヨリ來ル者ヲ見ルトキハ、則チ之ヲ目シテ、Scythiansト爲ス。其スシチアトハ、人ニ名クルモノナリヤ、地ニ名クルモノナリヤ、明白ナラサレトモガリシア波蘭諸地ニ住メル民族ヲ以テ、古代スラヴ人トスラヴノ故土

爲スコトハ、歴史家、人種學者ノ、略ホ相一致スル所ナリ。

露西亞ノ語原ハ Rus ナリ、露西亞ハスラヴ人種ヲ基礎トシテ成ルノ國ナリト雖モ、此語、スラヴ自ラ名クル所ニアラサルノミナラス、又本來スラヴノ國土、又ハ民族ニ名クル所以ノモノニ非ラス。「ルス」ハ固トヒン人カ、輸送者又ハ廻漕者ヲ呼フノ語ニシテ、古時、ノルスメンノヒン人ノ地ヲ通過スル者ニ對シテ、之ヲ名ク。ノルスハ、北方ヨリ、君斯坦丁堡ニ往來シ、主トシテ獸皮ヲ商フ。其民族剛健ニシテ善ク戰フヲ以テ希臘ノ諸帝、之ヲ僦フテ、邊境ノ鎮ト爲スコト數ハナリ。則チノルスハ、北方ニ於ケル、兵商ノ全權ヲ握リ、所在「スラヴ」ハ常ニ其制ヲ受ク。キエフ、ノウゴロツト間ノ材木市、及ヒ森林地方ハ、夙ニ彼等ノ支配ノ下ニ立チ、第九世紀中、スラヴ人ハ全ク其治下ニ在リ、遂ニスラヴ民族ノ國土ヲ呼フニ「ルス」ノ地ヲ以テスルニ至ル。此時代ニ於ケル露西亞ハキエフヨリアルチヤンゼルニ直線ヲ

ルスノ語源

ノルマンノ勢力

引キテ、其ヨリ西方ノ地ヲ指スモノニ過キスシテ、此直線以東ハ、森林原野只亞細亞諸民族ノ去來スル處タリ。

千二百二十四年、蒙古ノ英雄チンギスカン、露土ニ侵入シテノルス人ノ勢力ヲ打破シ、其政廳「ウオルガ地方ノサライニ置キテ、スラヴ民族ヲ支配ス。蒙古政府ハ、重稅ヲ課シ、及ヒ其勞役ヲ强制スル等、甚タスラヴ民族ヲ苦メタレトモ、蒙古民族ノ大國家制ハ、自ラスラヴ民族ニ粉本ヲ示スモノアリ、且後日、露人ヲシテ大經營ノ跡ヲ繼承セシムルノ路ヲ開キタリ。十五世紀、蒙古勢力減退スルニ及ヒテ、莫斯科公イヴアン三世、直チニ其後ヲ承ケテ其業ヲ開キ、或ハ結婚政略ニ依リ、或ハ權謀術數ニ依リ、或ハ征服ニ依リテ、莫斯科ノ北東北西ヲ併合シ、蒙古政府時代其征服ヲ免カレテ民主共和政治ヲ支持シ來レルノウゴロツド及ヒプスコウモ、其支配ノ下ニ入ル。其子イヴアン、ゼ、テリブル其領土ヲウラル山ヨリカスピアン海ニ至

蒙古ノ支配

莫斯科政府

ル間ニ擴メ、更ニ悉伯利亞ニ進ミ、十七世紀ニ及ヒテ、露人ト蒙古人ノ雜種タル Kazaks 其所在地、ドン、ドニイペル地方ト彼等カ略取シタル悉伯利亞ノ地トヲ將テ、露國君主ニ歸服シテ、此ニ初メテ大國家タル露西亞ノ規模ヲ成セリ。史家曰ク「スラヴハ、彼ノ歷史ヲ造ラスシテ、歷史却テ彼ヲ造レリ」ト、是レ一言以テ能ク露西亞形成ノ次第ヲ道破セルモノタリ。露人廣大ナル土地ニ據リテ、其國ヲ成スモ、其露西亞ノ名ハ、他人ニ依リテ命セラレタル如ク、政治上ニ於テモ、常ニ他ノ民族ノ支配ヲ受ク。

露西亞ノ形成

今日ノ露西亞ハ、歐羅巴露西亞、波蘭、高加索、悉伯利亞、中央亞細亞等ヲ包容シ、從テ、所謂露西亞人ナルモノハ、人種學上ヨリ見ルトキハ、六十七八種ニ區別シ得ヘシト云フ。併ナカラ、現在ノ一億七千八百餘萬ノ露西亞人中九千二百萬人ハスラヴ人種ナルノミナラス、露西亞ノ歷史ノ主體タルモノ亦此人種ナルヲ以テ露西亞ハ即チスラヴノ國ナリト云フヲ妨ケサルナリ。然レトモスラヴ人種ハ、固ト露西亞ノ地ニ限ラレスシテ、巴爾幹諸地及ヒ墺洪國內ニ同人種ニ屬スルモノ多キヲ以テ、前者ヲ露西亞スラヴ、後者ヲ南スラヴト名ク、次ニ述フルトコロハ、則チ專ラ前者ニ屬ス。

スラヴ人種ノ原住地

スラヴハ、アリアン系統ノ一大民族ナリ、從テアリアンノ原住地ハ、即チスラヴノ原住地タルヤ、言ヲ待タス。人種學者ノ言ニ依レハ、古代人類印度阿弗利加間陸土ヨリ發シテ、歐羅巴、亞細亞地方、即チ歐羅巴ノ東、亞細亞ノ西ニ屬スル平原ニ遷移ス。ウラルハ、今日ノ如ク高カラス、高加索ハ、古代人民好適ノ地タリ、土耳其斯坦ヨリカルパシアンニ至ル間、皆其棲遲ノ處タリ。古時、土耳其斯坦ハ、其空氣濕潤、溫度亦甚タ適良ニシテ、最モ幼稚民族ノ居住ニ適シ、此ニ安息セルモノ、極メテ多ク、且相當ノ文明ヲ齎チ得タルコトハ、地質學者及ヒ考古家ノ、共ニ證明スル所ナリ。且地質學者ハ古代ノ土耳其斯坦ハ、今日ノ南露西亞ト、其地勢氣候甚タ相似タリト稱ス。

スラヴト露西亞

スラヴカ、其一民族タル形貌ヲ具ハシタルハカルパシアン地方ナリ。彼等ハ天賦ノ平和的農業民族ナリ、水流ニ沿ヒ、平野ヲ耕シテ進ミ、漸次露西亞ノ地ニ入ル。其ノ初メテ世ニ知ラレタルハガリシヤ、波蘭地方ニ在ル者タリ、露西亞ハ、本來諸人種爭奪ノ地ニシテ、第三世紀ニハ、ゴス人進入シテ、ヒン及ヒスシジアンヲ壓迫シ、第五世紀ニハ蒙古人ノ侵略アリ、第七世紀ニハ、土耳其人トスシジアントノ混種タルKhazars入リ來リテ、ヒン人ヲ西方ニ驅逐シ、當時ヴヲルガニ王國ヲ建テタルブルガル人ヲ南西方ニ驅逐ス。スラヴハ則チ其後ヲ承ケテ、第七八世紀ノ交ヲ以テ、中央露西亞及ヒ西部露西亞ニ彌蔓ス。當時露西亞ニ流入シタルスラヴヲ、三系統ニ分ツヘシ、第一、其ノエルベ地方ヨリ入リヒント混和シタルモノヲ、大露西亞人ト爲シ、第二、其ノヴイスチユラ、ドニエステル間ヨリ東漸シタルモノヲ、小露西亞人ト爲シ、第三、其ノ以上二者ノ中間ニ投シリトウアニア人ト混和シタルモノヲ、白露西亞人ト爲ス。

露西亞スラヴノ性格

露西亞スラヴハ、本來平和無事ヲ喜ヒ、農業ヲ以テ其天職ト爲ス。スラヴノ居ル處、土地廣大ニシテ、人口稀薄ヲ極メ、所在人民、相集合シテ部落ヲ成シ、財產產業ヲ共同ニシテ、團體生活ヲ成ス、各團體ハ自治ナリ、各團體共通ノ事務ヲ處スル、亦共和制ニ依ル。其ノ歐羅巴諸民族ノ外ニ隔絕シテ、相通セサルヤ、他ノ文明ノ影響ヲ受クルコト無ク、其古來ノ冲漠素樸ノ體ヲ保持シテ、移ラサルサリ。其境遇既ニ此ノ如シ、其ノ進取ノ氣象ヲ缺クハ固ヨリ其處ニシテ、他人其ノ無智無氣力ヲ指目スルモ、智識氣力ハ、彼等ニハ不必要ナリ、虛靜退嬰、晏如トシテ自ラ樂ム、其ノ支那漢民族ト、多クノ點ニ於テ相一致スルモノアルハ、其人種關係甚タ相近キニ由ルト云フト雖モ、抑モ亦其境遇ノ酷タ相肖タルモノアルカ爲メナラサルヘカラス。

露西亞スラヴハ、消極的民族ナリ、故ニ自ラ進ンテ取ルコトナシト雖モ、他

ノ民族ノ進勢ヲ受ケテ、其影響ノ下ニ立ツコト、猶ホ低地ノ流水ヲ溜ムルカ如キモノアリ。スラヴハ、幸カ不幸カ、羅馬帝國ノ支配ノ下ニ立ツコトナカリシモ、十世紀中、バイザンチン僧侶盛ニ露國内ニ入リ込ミ、其希臘正教ヲ宣布ス。

希臘正教

スラヴ本來、宗教ラシキ宗教ヲ有セス、於是乎、初メテ宗教ノ教典及ヒ儀禮ヲ見ルヲ得テ、其歸依スル所ヲ知リタレトモ、是等僧侶ノ露國ニ入ル者ハ、早ク既ニ敗腐汚下シ、愚民ノ昏迷ニ乘シテ、其專縱ヲ逞クシ、誅求收斂至ラサルナキノミナラス、深ク莫斯科公伯ト結ヒテ、其專制ヲ助ク。既ニシテ、十三世紀ニ入リ、蒙古民族ノ下ニ支配セラルルヤ、其賦課徵收、甚タ急ナルノミナラス、蒙古人一流ノ放縱ト奢侈贅澤トヲ輸入シ來リ、王侯貴族最モ其頽風ヲ極ム。

蒙古ノ影響

スラヴ固ト自由自治ヲ喜フ、然ルニ、希臘教僧侶、精神上ヨリ、絶對的服從ノ宿命說ヲ注入シ、之ニ次テ、蒙古人、實力上ヨリ、專制政治ノ規模ヲ立テ、且蒙古政廳、封建貴族、及ヒ寺院僧侶、相共ニ誅求ヲ横マニシテ、所在人民ヲシテ貧窮ノ極ニ陷ラシム。偶々歐羅巴人ト接觸スルコトアレハ、則チ是レ日耳曼民族ニシテ、征服ト壓制トヲ以テ其能事ト爲スノ徒ノミ。露西亞スラヴカ、歐羅巴ニ國ヲ成スニ拘ハラス、他ノ歐羅巴人ト全ク行徑ヲ異ニシ、只古來ノ狀態ヲ株守スルノミニテ、亞刺比亞文學復興、若クハ「ルネッサンス」ノ外ニ孤立シテ、過越シタルハ、決シテ偶然ニアラス。

日耳曼民族

且露西亞スラヴノ如キ天下ノ大民族ヲ以テシテ、常ニ他人種ノ支配ノ下ニ立ツトイフコトモ、亦不可思議ノ一トスヘシ。七八世紀ノ交、スラヴ、大舉シテ露西亞ノ地ニ進入シタレトモ、海濱及ヒ大河ノ河口ハ、皆他ノ民族ノ占據スル所トナリ、紀元八百六十二年、日耳曼民族ノ一分派タルノルスノ酋長ルーリック、瑞典ヨリ進入シテ政治組織ヲ成シ、其子孫ノウゴロッドニ都シテ、露西亞ヲ一統ス。十三世紀ニ至リ、蒙古人、ノルスヲ驅リテ、露

スラヴハ常ニ外國人ノ支配ヲ受ク

西亞ヲ支配シ、十五世紀、蒙古政府瓦解ノ後ヲ承ケテ、露西亞ニ君臨セル莫斯科大公ハ、則チ日耳曼人種ナルルーリツク家ノ後ナリ。其後莫斯科政府、紀綱ヲ失ヒ、内亂續イテ起リ、瑞典、波蘭、交々内政ニ干渉ス。露國民備サニ辛苦ヲ嘗メテ後、千六百十三年、波蘭兵ヲ莫斯科城ヨリ驅逐シ、城中ヨリ放還セラレタル俘虜中ニ有リシ、ミハエル、ロマノフヲ選ヒテ、君主ト爲ス。

ロマノフ家ハ、ルーリツク家ト緣故深キ名家ナリ、ミハエル其時年僅カニ十五、即チ是レ今年三月廢退セルノマノフ朝ノ祖先ナリ。ノマノフ家ノ血統カ、本來日耳曼系ニ屬スル上ニ、波得大王以來、勉メテ日耳曼人ト婚緣ヲ結ヒ、十八世紀ヨリ十九世紀中ヲ通シテ、六代ノ露帝中、其配ヲ獨逸ニ取リタルモノ。實ニ五代ヲ算ス。特ニ彼得大王ノ遺詔、露國皇族貴族ニ、其配ヲ獨逸ニ求ムヘキコトヲ命スルアリ、コレカ爲メニ、露國ノ治者階級ハ、悉ク日耳曼民族ノ血統ニ屬スルノ奇觀ヲ呈スルニ至レリ。

ロマノフ朝ノ功過

露西亞人ハ、ロマノフ朝ニ及ヒテ、初メテ一國家タルノ體面ヲ成シ、彼得大王ノ、西歐ノ物質的文明ヲ輸入スルニ依リテ、此ニ歐羅巴ノ一大國タルノ資格ヲ具フ。其他ロマノフ朝ノ文政武備甚タ稱スヘキモノアルヤ論ナシト雖モ、其秕政亦一々擧テ言フヘカラス。イヴアン三世ハ、明主ナリト云フモ、彼ハ自己ノ爪牙タル軍功者ノ爲メニ、北方自治民族ノ土地ヲ奪フテ、之ヲ分與シ、又酒專賣制ヲ創設シテ、國民ニ酒ヲ强テ、以テ其收益ヲ貪レリ。露國固ト農奴制ナシ、然ルニ、十七世紀中、貴族、地主、農民ノ缺乏ヲ憂ヘテ、露帝ニ乞フニ、其移住ヲ禁制スルコトヲ以テス、千六百九十九年ノ法律ハ、則チ此請願ヲ容テ發布セルモノタリ、十八世紀中、宮中ノ寵臣及ヒ有力者、廣大ノ地ヲ領有シテ、其農民ヲ任意ニ支配シ、農民ハ、全ク土地ノ附屬品ト看做サレ、地主ハ之ヲ賣買讓與シ、及ヒ刑罰ヲ加フルコト、其意ノマヽナリ、於是乎、農奴ノ制全ク成ル。十七世紀以來、御用學者、及ヒ僧侶輩相依リ

テ露國君主制ノ爲メニ說ヲ爲シ、露國皇帝ハ、天帝ヨリ遣ハサレタル救世主ニシテ、普通人民ヲ、貴族及ヒ官僚ノ壓制虐待ヨリ離脫セシムルコトヲ以テ、其大任ト爲スト稱ス、是レ露人、皇帝ヲ拜シテ、小父ト爲ス所以ナリ。然トモ小父時ニ秕政ヲ施スコトアルノミナラス、近年ニ至リテ、其宮廷官府、腐敗弛解爲スナキノ實アリ、遂ニ此度ノ革命ヲ招致ス、露西亞人ハ、眞ニ不幸ノ民ナリ。

第二章　國民性

露西亞人ノ國民性ヲ研究スル、先ツ露西亞スラヴノ特殊性格ヲ尋繹スルヨリ始メサルヘカラス。而シテ、スラヴハ、幾千年間、他ノ人種ノ外ニ孤立索居シ、自己ノ民族的本能ノ導ク所ニ從テ、生息シ來レル事歷アルヲ以テ、其特性殊色ヲ把捉スルコトハ、比較的ニ容易ナリ。

然レトモ、露西亞トイフ一大國家カ、社會ニ出現シテ後ハ、他ノ人種ノ壓力ノ下ニ立チ、其影響ヲ受クルコト極メテ大ナルノミナラス、其國內ニ於ケル異人種、混血人種、甚タ多キ爲メ、其體貌甚タ錯綜ヲ極ム。是レ、或者ハ露西亞人ニ國民性ナシト說キ、或者ハ、露西亞ハ、多クノ國民性ノ併存スル處ナリト爲ス所以ナリ。然レトモ、露西亞人ハ、自ラ露西亞人ナリ、豈其固有ノ國民性ナシト言フヲ得ンヤ、只之ヲ說クコト甚タ難シト云フノミ、乃チ

難シト雖モ、露西亞人ノ主體タル露西亞スラヴノ特殊性格ニ就キ、其變遷ノ次第ヲ序ルトキハ、亦以テ其要ヲ擧クルヲ得ヘキナリ。

一、共同生活

農民氣質

由來露西亞スラヴハ、土地ノ上ニ生活スルト稱セラル、是レ其ノ農ヲ業トシ、二千年來ノ古農具ヲ携ヘテ、耕作ヲ營ミ、其生活狀態極メテ簡樸ニシテ穴居巢處、土泥ト相親シムヲ形容スルノ語ナリ。彼等ノ居ル處ハ、土地廣漠ニシテ、人口稀薄、數家族相依リテ、一部落ヲ成シ、其土地ハ共有ナリ、其業務ハ共同ナリ、其 Mir ハ、支那ノ井田ノ古制ト酷タ相肖タル、土地共有制、共同耕作制ナルト同時ニ、露人ノ共同生活ノ體貌ヲ留ムルモノタリ。

露西亞スラヴノ生活狀態カ、長ク大古ノ簡樸ヲ保チ、極メテ單調ニシテ變化ナク、窈冥恍惚、無智無頓着ニテ、數千年ヲ過越シタルハ、宛モ老子一派ノ

消極的自然主義

消極的自然主義ヲ其マヽノ境遇ニシテ、即チ是レ古代支那漢民族ノ理想境ナリ。老子ノ消極的自然主義カ、支那ニ於テ、其形跡ヲ留メヽシテ、露西亞スラヴノ現實生活ニ於テ、之ヲ見ルハ、甚タ奇ト謂フヘク、漢人種ト、スラヴトハ、同根生ノ物ナリト爲スハ、或ハ此邊ヨリ推演セルモノナルヘシ。併ナカラ、露西亞スラヴノ、此狀態ハ、心理上ヨリハ、寧ロ物理上ヨリ、之ヲ解說スルコト甚タ容易ナリ。則チ其土地極メテ廣ク、其人口極メテ寡ク、其民ハ農業ニ從事シ、冬期半歲ハ、雪ニ閉サレテ、爲ス事モナク臥食シ、融雪後農業多忙ナリト云フモ、其力ヲ自然ノ土ニ用フルニ止リテ、人事上ノ生存競爭ナシ。十七世紀末、莫斯科ハ、露國ノ首府ナリト云フト雖モ、王宮ノ周圍ニ、官吏僧侶ノ住宅アルニ止リ、首府以外、若干ノ市場アルニ過キス、其廣漠タル國內ニハ、道路ナク、交通機關ナク、依稀明滅ノ間ニ村落アルモ、其間ヲ往來スル者ハ、只租稅徵收人アルノミ。今日ニアリテモ、露國內ノ一ノ

物質的解說

村落ト他ノ村落トノ間ニ、十哩十五哩ヲ相隔ツルハ、珍ラシカラス、而シテ其人口十萬以上ノ都市ハ、僅カニ十九、五萬以上ノ都市ハ、三十八ニ止リ、總人口ノ八割二分ハ、所謂土地ノ上ニ生活スル所ノ農民ナリ。夫レ其境遇既ニ此ノ如シ、スラヴカ土地共有、耕作共同ノ下ニ、部落生活ヲ營ムハ、當然ノ事ニシテ、此共同團體ノ自治制ヲ取ル、亦其ノ已ヲ得サル所ナリ。

土停共有制

露西亞スラヴ、自治制共同生活ヲ好ム、今日農政改良ヲ圖ルモノ、皆其土地共有制ヲ排シ、農民ニ土地ヲ分配シテ、之ヲ私有セシメサルヘカラスト爲ス。千九百六年、法律ヲ以テ、土地分割方法ヲ定メタルハ、則チ此政策ニ出ルト稱ス。然レトモ、露人ハ甚タ之ヲ喜ハス、共有土地所屬人員九千九萬九千人中、同法律ニ從テ分立セル者、一千七百八十七萬四千人ニシテ、總數ノ一割九分ニ止リ、千九百六年、共有地面積九億九千七百二十四萬二千「デシヤチン」ナリシモノ、千九百十三年ニ及ヒテ、其ノ分割シテ私有ニ移シタルハ、一億二千七百六十九萬八千「デシヤチン」即チ一割一分ニ過キス。露國哲學者、土地共有制ヲ以テ、露國民ノ存在條件ノ一ナリト爲スヲ見テモ其根蔕ノ甚タ深且固ナルモノアルヲ知ルヘシ。露西亞スラヴノ土地共有制ノ、最古ノ狀態ハ、共產制ヲ以テ之ヲ解スヘシ、而シテ此共產制ノ下ニ發達シタルハ、露人ノ自治的共同制ナリ。

地方自治制

今日、露國ニZemstvo制アリ、Zemトハ、土地ノ義ナリ千八百六十四年アレキサンドル二世、農奴ヲ解放シ、全國ニ指定シテ、地方的自治體ヲ組織セシム此自治體ハ、參事會ヲ置イテ、其事務ヲ處理ス、參事會ハ、自治體會議ノ選擧スルトコロタリ、會議ハ、其地方ノ地主、貴族、農民代表者、及ヒ地主僧侶ヲ以テ組織ス。「ゼムストウヲ」ハ、租稅、教育、公共事業、其他ニ就キ、自治權ヲ有ス。世間、露人政治生活ニ慣レス、其智識思想甚タ低シト爲スモ、此自治體ハ、則チ甚タ能ク其權能ヲ盡クシ、其實用甚タ稱スヘキモノアリ。此度ノ戰役

ニ際シテモ、軍人及ヒ文官ノ無能無爲ナルニ反シテ、此自治體ハ、則チ軍事衛生、食物給配、軍需品調達ニ就テ、目覺シキ働キヲ爲シタリ。畢竟共同生活ハ、露西亞スラヴノ天賦ニ出テ、其 mir 及ヒ Artel ト云フ共同作業制ニ依リテ養ヒ得タル能力ヲ、地方自治體ニ發揮シタルモノニ外ナラスシテ、地方自治制發布ニ依リテ、初メテ其事ニ從ヘルニハアラサルナリ。

二、民政

露西亞スラヴ、共同生活ニ依リテ、自治自營ノ基礎ヲ爲ス、幾千年間、人世君主制アルヲ知ラスシテ過越シタル、自然ノ結果トシテ、彼等ハ、先天的民主自治的民族ナリ。スラヴ必スシモ獨立自主ノ氣魄アルニアラス、只君主ナキカ爲メニ、自ラ民主主義トナリ他人之ヲ治メサル爲メニ、自治主義トナレルモノタリ。故ニ後世チユートン人種タルノルマン、其軍國主義ヲ

自由自治

持チ込ミ、蒙古民族、其專制政治ヲ行ヒ、希臘教僧侶、其絕對的服從ノ規制ヲ布クモ、彼等ハ之ヲ拒マス。然レトモ、其本來ノ民主自治的觀念ハ、深ク彼等ノ腦底ニ潛ミ、何者モ遂ニ之ヲ移ス能ハス。

露西亞人ノ民族心理ヲ研究スル者ハ、皆其ノ自由自治ヲ喜ヒ、消極的自然主義ニ耽溺スルコト甚タ深キヲ云ハサル無シ。Brückner ハ、其「露國思想史」ニ於テ、露西亞スラヴハ、生レナカラニシテ、無政府主義者ナリト爲シ。Masaryk 其「社會學研究」ニ於テ、說クトコロハ、較々コレト異ナリテ、彼ハ露西亞人、決シテ他ノ人種以上ニ無政府主義者ナルニアラス、只其ノ民政ナルモノハ、極メテ消極的ニシテ、寧ロ非政治的ナリト云フヲ當レリトスト爲ス。顧フニ、個人主義者ト民政論者トハ、常ニ同一範圍ニアリ、從テ、若シ個人ノ自由ヲ、飽マテ皇張スルトキハ、民政論ハ遂ニ無政府論ニ墜チサルヘカラス。露西亞ニ於ケル無政府哲學ハ、老子ノ消極的自然主義ト、印度佛

無政府主義カ非政治的カ

合議體

教ノ涅槃論トノ化合物ナリト爲スモ、スラヴノ素質ト、其境遇トカ其素地ヲ成シ、老佛ノ說偶マ此ニ投シタルモノト解セサルヘカラスシテ、共和自治ハ、スラヴ幾千年間ノ固有狀態タリ。

露西亞スラヴノ共和自治制ハ、其部落又ハ都邑ヲ以テ其單位ト爲ス。第九世紀中ノルマン人進入シ來ルヤ、到ル處ニ、此種ノ自治體アリタルコトヲ傳フ。當時其部落又ハ都邑ニハ、羅馬ノ國民議會ニ似タル會議體アリ、Vecha ト名ケ、コレト相對立シテ、資產階級ヨリ成立スルトコロノ一會議體アリ、二者相依リテ、其公共事務ヲ處理スルヲ見タリト云フ。爾來政權ヲ執ルモノ、交々此種自治制ヲ破壞スルニ力メタレトモ、ノウゴロツドノ共和制ハ、イヴアン大王時代ニ至リテ消滅シ、プスコウノ共和市制ハ、千五百九年マテ存在シタリ。而シテノルマン及ヒ蒙古人ハ、其權力ヲ以テ、露人ノ自治制ヲ破壞シタリト雖モ、遂ニ其家族組織、又ハ部落組織ノ內部ニ立入ルコトナク、希臘正教僧侶、宿命ヲ說キ、服從義務ヲ教フルモ、其無智無學ナル農民ヲ移ス能ハシテ、自治制全ク破壞シ去ラレタルノ後ニ於テモ露西亞スラヴノ政治思想ハ、依然トシテ舊ノ如キモノアリ。露西亞ノ農民ノ生活程度ノ低キコトト、其教育程度ノ低キコトトハ、其弱點ニハ相違ナシト雖モ、一面ヨリ云ハハ、即チ是レ其本然ノ國民性ヲ保持シテ失ハサルノ一要件タリ。彼等ハ、家族團體ヨリ部落團體ニ進ミ、自然ノ導クママノ共同生活ヲ保持シ、自ラ營ミ自ラ治メテ、各々其處ヲ得タリト爲ス、彼等ノ民主政治思想ハ天成ナリ、勉强シテ之ヲ得タルモノニアラス、其貧困ト無教育トカ彼等ノ消極的抵抗力ナリ。

本性保持

三、革命的性習

露西亞スラヴノ本來ノ性格ハ、極メテ樂天的ナリ、自由ヲ喜ヒ平等ヲ尙ヒ

最モ平和無事ヲ愛ス、競爭又ハ爭鬪ハ、其ノ好ムトコロニアラス。且ミリタリズム」ハ進ヲ求メテ饜クヲ知ラサル民族ノ心理現象ニシテ、スラヴノ如ク、少私寡慾、恬澹自ラ足レリトスル者ニハ、コレ有ル可ラス。スラヴノ共同生活ノ下ニ棲遲シテ、移ラサルハ、主トシテ其爭ヲ好マサルノ性格アルニ是レ由ル。然レトモ、民族心理ハ、其周圍ノ事物ト無關係ナル能ハス。人類ノ本能ハ、多種多樣ナリ、人類ハ、群居シ親和スルノ本能ヲ有スルト同時ニ、黨同伐異、爭フテ勝ツコトヲ好ムノ本能ヲ有ス。只其民族ノ性格ト周圍ノ事物トニ依リテ、其表現區々、或者ハ親和性ニ專ラニシテ、或者ハ爭鬪性ニ傾倒スルノ別アリ。然レト、此區別ハ比較的ナリ、絶對的ニ親和性ナキ者ハアラサル如ク、絶對的ニ爭鬪性ナキ者モ亦コレ有ラス。露西亞スラヴ固ト爭ヲ好マス、然レトモ、外國人入リ來リテ、政權ヲ握リ、虐政ヲ縱マニシ、異人種雜處シテ、其幸福ヲ奪ヒ、利益ヲ殺クカ如キ、皆スラヴノ爭鬪

スラヴノ第二性

性ヲ刺戟スル所以ナラサルハ無シ。且其性質單純ナル者ハ、他ノ刺戟ニ激シ易ク、智慮ナク經驗乏シキ者ハ、變態心理ニ陷リ易シ、況ヤ迷信ト空想トハ、スラヴニ於テ、最モ其ノ已甚タシキヲ見ルト云フニ於テヲヤ。本來恬澹無邪氣ナルスラヴカ常ニ革命暴動ヲ企テ、及ヒ猶太人アルメニア人波蘭人等ニ對シテ、殘酷極マル爭鬪手段ヲ取ルコトアルハ、亦其故ナシトセス。

共同一致

世間皆、露西亞人ヲ、不統一無頓着ヲ極ムルモノト爲ス、然レトモ彼等亦時ニ相一致シテ、其狂熱行動ヲ共ニスルコトアリ。十六世紀末、露國內大ニ亂レ、瑞典波蘭諸國、間ニ乘シテ露國ニ侵入シ、莫斯科府ハ、遂ニ波蘭軍ノ占領スルトコロトナル、於是乎、露國僧侶、先ツ立チテ露人自護ノ必要ヲ宣傳シ、熱心ナル愛國者此ニ動キテ、民衆ヲ指導シ、遂ニ義勇軍ヲ組織シテ、波蘭軍ヲ攻擊シ、千六百十二年十二月二十二日、莫斯科城ヲ攻陷ス。翌年國民

議會ヲ開キテ、波蘭軍中ノ俘虜タリシ十五歳ノ少年、ミハエル、ロマノフヲ擁立シテ、君主制ヲ立ツ、是レロマノフ朝ノ起原ニシテ、又露國民衆運動ノ第一事歴タリ。

人種的軋轢

然ルニ其ロマノフ家ハ、專ラ日耳曼勢力ニ依ルノ傾アリ、彼得大王沒後、アンハ日耳曼ヨリ入リテ君位ニ即キ、專ラ日耳曼ノ政治ヲ輸入シタルノミナラス、日耳曼人ビレン、ミユニツヒ、ヲステルマンヲシテ、國家ノ樞機ニ當ラシム、是レヨリ露國政治社會ニ、スラヴトチユートントノ人種的軋轢起リアンノ時代、スラヴ貴族ノ悉伯利亞ニ流謫セラルルモノ極メテ多シ。其後千七百四十一年ヨリ千七百六十一年ニ至ル、エリザベットノ世ハ、其反動時代ニシテ、日耳曼人ノ流謫又ハ放逐セラルルモノ甚タ多カリシモ大カザライン君臨シテ、復タチユートン勢力ヲ扶植シ、是レヨリ日耳曼人ノ根據、牢乎トシテ動スヘカラス。然レトモスラヴ民族ノ日耳曼人ニ對スル人種的感想ハ、此ニ其根蔕ヲ固メ、其爭鬪心ヲ長シ、常ニ革命思想ヲ涵養スルノ本源タリ。

國民的變態心理

且革命若クハ民衆暴動ハ、固ト變態心理ノ產物ナリ。國民的變態心理發作ノ要素、三アリ、其一ハ、周圍ノ印象ナリ、其二ハ、宣傳者ノ刺戟ナリ、其三ハ民衆ノ模倣性ナリ。露西亞ノ天然及ヒ人事、甚タ人ノ心膽ヲ奪フニ足ルモノ多ク、其哲學者文藝家、皆革命的人物ニシテ、最モ刺戟的宣傳力ニ富ミ其民衆ハ、智慮甚タ乏シクシテ、極メテ迷信ニ富ム、即チ是レ國民的變態心理ノ要素ヲ、遺憾ナク、具備セル者タリ。

專門的革命家

特ニ露西亞ニハ、專門的革命家ナル者アリ、十七世紀ニ於ケルステンケ、ラージン、十八世紀ニ於ケルエイミリアン、プガツエウ等、皆露國民ヲ貴族及ヒ官僚ノ凌虐ノ下ヨリ救フト稱シテ、宣傳甚タ努メ、カザリン二世カ、佛國文學ニ心醉シテ、露國政治改革ノNakazyヲ發シタルカ如キハ、宛モ油ヲ火ニ注クノ觀アリ。爾來政府、其

國民ノ革命思想ヲ鎮壓セントカムルホド、專門革命家其熱中ヲ加フルモノアリ。政府其都市ノ警戒ヲ嚴ニスレハ、則チ彼等ハ去リテ農民部落ニ出沒シテ、之ヲ宣傳ス。平生政府ノ壓力强大ナル間、革命運動ハ止熄スルモ、苟モ闕隙アレハ、則チ之ニ乘シテ、其光燄ヲ上ク。露國政府クリミヤ戰役ニ失敗シテ後、其氣勢容易ナラサルモノアリ、アレキサンドル第二世、則チ農奴解放令ヲ布キタレトモ、些ノ緩和ノ効果ナク、自ラ弑ニ遭フテ已ミ、千九百四年五年ニコラス二世ノ政府、日露戰役ニ失敗シテ、一大革命運動ヲ誘致シ、立憲政治ヲ行フコトニ依リテ、一タヒ其極ヲ結ヒタレトモ、千九百十四年以來ノ戰役ニテ、露帝ノ政府又失敗ニ失敗ヲ重ネテ、遂ニ此度ノ大革命ヲ招キタリ。而シテ、是ハ今日ニ於テ突如トシテ起レルニアラスシテ、實ハ露西亞人ノ國民性ノ一作用タリ。

革命運動ノ行程

四、個人主義

自足自安

露西亞スラヴハ、其同生活ヲ以テ、其社會ヲ成スモ、本來個人本位ナリ。彼等ノ團體組織ハ、個人ノ爲メニ存在スルモノニシテ、個人カ團體ノ爲メニ存在スルニアラス。個人ハ、自ラ足リ自ラ安スルヲ以テ其目的ト爲ス、奮鬪進取ハ、其ノ好ムトコロニアラス、故ニ之ヲ消極的個人主義、若クハ享樂自足的個人主義ト名クルヲ得ヘシ。由來廣野ニ散布スルトコロノ農業民族ハ、消極的個人主義ヲ取ルヲ以テ、其通性ト爲ス、此點、支那漢人種トスラヴ民族ト、酷タ相肖タリ。然レトモ、漢人種ハ、周時代ニ於テ、早ク既ニ燦ナル文化ノ爲メニ陶冶セラレテ、其本然ノ性情ヲ變シタルニ對シテ、露西亞スラヴハ、則チ幾十年間、其古態ヲ保持シ、素樸恬澹、其個人主義ト享樂主義トヲ、有リノマヽニ發揮ス、今日ニアリテモ、其率直無頓着、世間多ク其

比ヲ見サルトコロタリ。

思想ノ根源

近時歐羅巴ノ社會學者中ニハ、露西亞人ノ本來ノ哲學及ヒ文學カ、消極的世界主義ニシテ、悲觀ニ流ルルヲ見テ、是レ印度ノ佛教ヨリ來ル涅槃解脫ノ教理ト、支那老子道德教ニ原クトコロノ虛無ノ說ト、相抱合シテ、其素地ヲ成スモノナリト稱ス。蓋シスラヴハ、第四世紀乃至第七世紀間、蒙古民族ト接觸シ、波斯人ト交通シタル形跡アルヲ以テ、支那印度ノ神話傳說カ彼等ニ傳ハリタルコトハ、コレ有ルヘシト雖モ、無智無教育ナルスラヴカ老子ノ哲學、釋迦ノ佛說ヲ授受シタリトハ信スル能ハスシテ、其ノ消極的ナルト悲觀的ナルトハ、寧ロ其固有ノ民族心理ニ出ツルモノト爲スノ外ナシ。且彼等ハ、世界主義ニアラスシテ、個人主義ナリ、其博愛無私ナルカ如クナルハ自足自安、爭ヲ好マサルカ爲メノミ。無政府主義ハ露西亞ノ特產物ナリ、無政府主義ノ哲學上ノ根據ハ、酷タ漢人種ノ理想、就中老子ノ道德教ニ說クトコロト相肖タリト雖モ、其ヲ老子道德教ヲ紹述セルモノト爲スヨリハ、寧ロスラヴノ消極的個人主義ヨリ出ツルモノト解スルカ穩當ナルヘシ。何トナレハ、老子ノ哲學ハ、支那ノ專門家間ニノミ傳ハリ所謂道教ナルモノアリト雖モ、其ハ支那人ノ間ニ發生セル一ノ宗教ニシテ道德教ヲ傳フルモノニアラサルノミナラス、四世紀乃至七世紀ノ蒙古人カ、老子道德教又ハ道教ヲスラヴニ傳ヘタリト云フ系統、甚タ明カナラサルナリ。

非社會主義

十九世紀末カールマルクスノ社會主義、露西亞ニ輸入セラル、露人固ト共同生活ヲ喜ヒ、平等博愛ヲ尙フマルクスノ主義ハ、世界中、露人ニ最モ適當ナルカ如ク見ユルモ、露人ノ腦底ニ、個人主義ヲ潛藏シテ、如何ナル輸入思想モ、之ヲ移ス能ハサルナリ。幾クモナクシテ露西亞ニ、新マルクス主義ナルモノ起リ、個人主義ノ基礎ノ下ニ、社會主義ヲ說カントス、社會主義、共

産主義ニシテ、是ナランカ、個人主義ハ非ナラサルヘカラス、然レトモ、露西亞人ハ、遂ニ其個人主義ヲ棄ツルヲ肯セサルナリ。併ナカラ露西亞スラヴノ個人主義無政府論ハ、何處マテモ消極的ナリ。ニエツチエハ個人主義ヲ取リ、非國家説ヲ主張ス、然レトモ、彼ハ飽マテ積極的ナリ、彼ノ個人主義ハ、凡俗ヲ拔キタル、超越人格ヲ本位ト爲シ、其ヲシテ其卓絶セル政治ヲ行ハシムル爲メニ、現在ノ國家ヲ破壞シ、現在ノ道德規範ヲ排除スヘシト云フニ對シテ、スラヴノ個人主義ハ、極メテ平凡ナル個人ヲ本位ト爲シ、平凡ナル社會ニ安息セシムヘシト爲ス、超越人若クハ英雄賢哲ハ、其ノ求ムルトコロニアラス、是レスラヴノ個人主義カ、其共同生活ト併行シ、又其無政府主義ト相容ルル所以ナリ。

五　性格ノ不調和

露國文豪アレキサンドル、クウプリンハ、露西亞スラヴノ性格ヲ評シテ「誠實ニシテ純白、不合理ニシ自家撞着、而シテ大ナリ」ト爲シ、其著作ニ於テ好ミテ其ノ矛盾ト不合理トヲ寫シ出シタリ。誠實純白、其氣宇宏大ナルハ、廣野ニ呑氣ナル生活ヲ爲シ、未タ其文化ヲ極メサルトコロノ農民ニハ當然ノ性格ニシテ、他ニ其例ヲ見ルコト多シト雖モ、獨リ其不合理ト自家撞着、即チ矛盾ハスラヴ特有ノ性格ト云フヲ妨ケス。スラヴ民族ノ心理作用ノ特兆ハ、一ノ極端ヨリ、他ノ極端ニ變スルニアリ。乃チ彼等ハ、極メテ冷靜ナルカ如クニシテ、又時ニ極メテ熱烈ナリ、甚タ無頓着ナルカ如クニシテ、又却テ執着甚タ强キコトアリ。羅典人種ハ、熱シ易ク、激シ易ク、變シ易シ、然レトモ、是ハ其性格カ本來興憤的ニシテ、常ニ熱氣ヲ帶フルカ爲メナリ、其變化多キハ、決シテ性格ノ矛盾ト謂フヘカラス。然ルニスラヴハ、先天的ニ冷熱兩性格ヲ具ヒ、其發動ニ、何等合理的連鎖ナシ。彼等ハ本

不合理ト自家撞着

來博愛的平和民族ニシテ、異人種ヲ拒マサルカ如クナレトモ、其ノ猶太人アルメニア人ニ對スル行動ハ、則チ殘忍刻厲ヲ極ム。彼等ハ、政治ニハ無頓着ナルカ如クニシテ、一タヒ革命若クハ暴動ヲ引起ストキハ、熱烈執拗爲サザル所ナク、其身命財産ヲ棄テテ顧ミス、其事頗ル不可解ナルカ如クニシテ、而シテ是レ亦其國民性ノ然ラシムル所ニ出ツ。

若シ此性格的不調和ニ就キ、其類ヲ求ムルトキハ、先ツ支那漢人種ヲ擧クヘシ。漢人種ハ冷靜ナルカ如クニシテ、時ニ熱烈、極端ナル利己主義ヲ取ルカ如クニシテ、時ニ意氣ノ爲メニ其身ヲ殺スヲ辭セサル者ヲ見ル、是レ一部社會學者カ、漢民族トスラヴトハ、人種上同一ナラサルマテモ、甚タ相近キモノナリト爲ス所以ナリ。而シテ一人一民族ニシテ、相矛盾セル兩極端ノ性格ヲ有スルノ原因、何ニアリヤ、一言以テ之ヲ斷スヘカラスト雖モ、支那ニ於ケル漢人種ノ如ク、盛ニ他ノ民族ト混血シタル者ニアリテハ遺傳ノ法則ヲ以テ、之ヲ解釋シ得サルニアラス。遺傳ノ法則ニ依レハ、極端ナル異種相混スルトキハ、相異ナリタル原種ハ、相和合セス、又消滅スルコトナクシテ、遺傳シ、或モノハ潛伏シ、或モノハ發顯シ、又時ニ飛躍的變化ヲ見メスコトアリ。民族心理上、其性格ノ不調和ノ本源ヲ尋ヌルトキハ概ネ之ヲ人種的混淆ニ原クルヲ得ヘシ。只露西亞スラヴカ、露西亞ノ地ニ進入スル以前ニ於テ、如何ナル人種ト混血セリヤ、甚タ明白ナラス、露西亞ニ入リテ後、長ク蒙古民族ト接觸シ、且一タヒハ其支配ヲ受ケタリト雖モ、混血ハ甚タ稀寡ナリト云フ、其ノ日耳曼民族ト相婚スルモノ多キハ、畢竟後年ノ事ニシテ、スラヴ本來ノ性格ト關係ナク、且其混血ノ範圍自ラ限リアリテ、スラヴ全體ニ相影響スルコト無シ。故ニ若シ此性格ノ不調和ヲ以テ、混血ニ起因セリトセハ、其ハ之ヲ歷史ニ徵スル能ハサル古昔ニ於テ行ハレタリト爲スノ外ナシ。尤モ混血關係以外、他ノ原因ニ由リテ斯

ク矛盾的性格ヲ具フル者アルコトヲ否定スル能ハス、何レニセヨ、此矛盾的性格アルコトヲ前提ト爲スニアラサレハ、露西亞人ノ出處行藏ヲ理會スル能ハサルナリ。

第三章　政體

自治共和制

露西亞スラヴハ、自治的家族團體ヲ以テ、其社會ノ基礎ト爲シ、泰平無事、以テ自ラ安息スルヲ期ス、彼等ノ本來ノ政治組織ハ、民主共和制ナリ。彼等既ニ露西亞ノ地ニ定着シ、衆人相依リテ廣土ヲ占ムルモ、猶ホ國家トイフ觀念ヲ有セス、又其統制モコレ無シ。彼等ノ國ヲ爲スヤ、只自治團體ノ總連合アルノミ。最近露國革命家中ニ、露西亞ハ、將來各地方自治體ノ連合組織タルヘシ、中央政府ト自治體トノ關係ハ、極メテ稀疎ナラサルヘカラス、各自治體ハ自主自由ニシテ、互ニ相拘束スルコトナキヲ要スト主張スルモノアリ。彼等ハ、今日ノ聯邦的共和政治ヲ以テ、甚タ窮屈ニ過クルモノト爲ス。其言甚タ極端ナルカ如クナレトモ、スラヴニアリテハ、即チ是レ本來ノ政治觀念ナリ。彼等ハ政治組織ノ固形的タルヲ厭フテ、其ノ液

體的ナルヲ望ミ、更ニ其ノ氣體的タルヲ欲スルモノタリ。

前章國民性ヲ序述スルニ當リテ、スラヴハ、其性虚無恬澹、甚タ非政治的ナル次第ヲ擧ク、乃チ其ノ自主自治ヲ喜ヒ、國家的統制ノ下ニ緊縛セラルルヲ欲セサルハ、當然ナリ。然レトモ、既ニ人類タリ、國家ヲ成サスシテ存在スヘカラス、既ニ國家ヲ成ス、必スヤ政治的統制ナカルヘカラス、彼等自ラ爲ササルトキハ、則チ他人來リテ之ヲ爲ス、露西亞ノ地ニ於テ、初メテ專制政治ノ規模ヲ開キタルハ、チユートン人種ニ屬スルトコロノノルマンナリ。之ニ次テ、武斷的壓制ヲ行ヘルヲ、蒙古人ト爲ス。其後、莫斯科政治ト曰ヒ、ロマノフ朝政ト曰フ、皆皆此武斷專制政治ヲ繼承セルモノニ外ナラスシテ、希臘正教僧侶、其宿命論、絶對的服從說ヲ以テ、之ヲ文飾シ、後日露國御用學者ノ Slavophilism ニ依リテ、君主專制ハ、スラヴノ固有ノ政體ナルカ如ク解說セラルルニ至リタレトモ、其爲政者ハ、スラヴニ非ラス、其制度モ

自ラ治メス故ニ他人之ヲ治ム

政治的矛盾不調和

其思想モ、其ニ輸入品ナリ。露國爲政者、盛ニ其君主制ヲ主張スルモ、露西亞スラヴノ國民性ハ、依然トシテ移ラス。國家ノ基礎タル人民ハ、自治的共同團體ノ連合ヲ以テ其理想ト爲シ、此人民ト人種ヲ異ニスルトコロノ爲政者ハ、則チ武斷的專制政治ヲ行フ、其矛盾、其不調和、他ニ其ノ類ヲ見サル所ナリ。

露國ノ政體ヲ、歷史的ニ序述セント欲セハ、其端ヲノルマン侵入ノ昔ニ起シ、蒙古時代、莫斯科時代ヲ經テ、最近ノロマノフ朝ノ事ニ及ハサルヘカラス。然レトモ、露國民ヲ本位トシテ之ヲ見ルトキハ、ノルマン及ヒ蒙古人ハ、只征服的統制ヲ布キタリト云フニ過キスシテ、國民自身ノ政治ニアラス、莫斯科大公トテモ、ルーリツク即チノルマン人種ノ子孫カ、實力ニ依リテ政權ヲ握リタリト云フニ止マルヲ以テ、是等ハ、外來ノ爲政者ノ政治トイフ一語ノ下ニ之ヲ抹殺シ去ルヲ得ヘシ。獨リロマノフ家ノ事ニ至リ

テハ、スラヴ自身ノ力、其本源ヲ成シ、其統制亦甚タ備ハレルモノアリ、以下專ラ同朝ノ政治ニ就テ、其要ヲ擧クヘシ。

十七世紀初、莫斯科政府、其紀綱ヲ失ヒ、國内四分五裂、頗ル擾亂ヲ極ムルニ際シ、瑞典波蘭、交々來リ侵シ、莫斯科府ハ遂ニ波蘭兵ノ占領スル所トナル。此時ニ當リテ、露國ニ君主ナルモノ無ク。其國内全ク無政府狀態ニ陷ル。

ロマノフ君主制ノ起原

於是乎、露西亞スラヴノ民衆的運動起リ義勇兵ヲ集メ、義金ヲ積ミテ、外敵驅除ヲ努メ、千六百十二年十月二十二日、莫斯科ヲ攻陷ス。翌千六百十三年早春、國内ノ各階級代表者ヲ集メテ、國民議會ヲ開キ、君主制ヲ建設スルコトヲ決議ス。此決議ニ依リテ、選定セラレタルヲ、ミハエル、ロマノフト爲ス。ロマノフハ、ノルマン系統ノ貴族ナリ、ミハエル時ニ年僅カニ十五、嘗テ俘虜トシテ波蘭軍ノ手ニ在リ、莫斯科陷落ノ際ニ、放チ還サレタル者タリ。夫レ露西亞ノ政體ヲ決定スルモノハ、國民議會ナリ、其ノ君主ヲ選定スルモノハ、國民ナリ、其ノ選ハレテ君主タリシモノハ、實際上親ラ政治ヲ執ル能ハサル幼者ナリ、政治ノ實權ハ徹頭徹尾人民ニ在リ。乃チロマノフ朝開基ノ時ニ當リテ、露西亞ハ民主國體ニシテ、暫ク君主政體ノ統制ヲ取ルト云フノミニシテ、君主ニ國家元首タルノ實力ヲ附與セサルナリ、故ニ政體上ヨリ見ルモ、之ヲ純乎タル君主制ト云フ能ハス。

民主的君主制

ロマノフ朝三百五十年間ニ發達シ來レルモノヲ、露國ノ官僚階級ト爲ス

官僚階級

露國官僚階級ノ首腦タル者ハ、貴族ナリ。初メロマノフ家ノ名ノ下ニ、政府ヲ組織スルヤ、中央政府ノ政務ニ參加スルモノハ、主トシテ貴族ナリ、貴族ハ、文武官ヲ手足トシテ、其事ニ當リ、國家ノ大小ノ事務ハ、專ラ此階級ニ依リテ決定シ、且執行セラル。君主ハ、其位ニ止マルノミニシテ、政治ヲ爲サス、人民、亦其自治事務ノ外ニ、參與スルトコロナシ。只彼得大王ノミハ不世出ノ英傑ニシテ、一身ヲ以テ萬機ヲ總ヘ、國民ニ率先シテ物質的發達

ヲ求ム、其實權實力、明カニ獨裁專制君主ノ體ヲ具フ。然レトモ、其ノ西歐ニ潛行シテ、自ラ水夫トナリ、職工トナリテ、文明ノ技術ヲ學ヒ、其ノ瑞典海軍ト芬蘭灣ニ戰フヤ、猛將アブラキシンヲ推シテ總司令官ト爲シ、彼得自身、其下ニ副司令官トナリテ奮鬪ス、其率直ヤ稱スヘシト雖モ、決シテ人君ノ姿ヲ具フル者ト謂フヘカラス。且彼得ノ配ハ、固トリヴヲニア生レノ女奴ニシテ、嘗テ一士官ノ妾タリシ者ナリ、彼得沒後、其位ヲ繼イテカザリン一世ト號ス、カザリン眼ニ一丁字ナク、親ラ其名ヲ署スル能ハス、其情人ニシテ莫斯科ノ料理人タルメンシコッフヲ宮中ニ入レテ、機密ニ干與セシム。彼得以後、引續イテ女君ヲ立テ、且其ノ日耳曼ヨリ來リテ其事ニ臨ム者ハ、遂ニ國情時勢ヲ解スル能ハスシテ終ル。而シテ、是レ實ニ、貴族及ヒ官僚カ、自己ノ權勢ヲ張ルノ秘策ニ出テタリト云フ。千八百一年アレキサンドル第一世即位、大ニ君主制ヲ皇張スルニ努メタレトモ、此時既ニ官僚階級ノ根幹强大、枝葉繁茂シテ、亦之ヲ加フル所アル能ハス。ニコラス一世、此特殊階級ノ勢力ヲ破却スルノ志アリ、數ハ其方策ヲ講シタレトモ、遂ニ一指ヲ觸ルルノ餘地ナクシテ已ミ、彼ヲシテ、露國ノ主權ハ、一萬有餘人ノ官僚ニアリ、皇帝アリト雖モ、只其制ヲ受クルノミト痛歎セシメタリ。顧フニ、露西亞ハ民主國ナレトモ、其人民ハ、自ラ進ミテ政務ニ參與スルヲ爲サス、ロマノフ家ハ、君主ノ名アレトモ、開祖以來、其政ヲ親ラ取ラサルヲ以テ、彼是レ相依リテ、露國官僚階級ヲシテ自ラ增長セシムルノ道ヲ開キタルモノナラサルヘカラスシテ、ロマノフ朝ハ、貴族政治ニ始マリテ官僚政治ニ終レリト謂フヘシ。

露西亞ハ、世界第一ノ大國家ニシテ、其君主タルロマノフ家、亦歐羅巴ニアリテハ、舊家ナルニ拘ハラス、其政治組織ハ、則チ極メテ小規模ニシテ且不完全ナリ。其第一ハ政治中樞機關極メテ不規律無統一ナルコト、是レナ

宮中府中ノ別ナシ

リ。露人、宮中府中ノ區別ヲ解セス、宮中ノ倖臣、女官、僧侶等、皆內外重要政務ニ干與スルヲ得、又行政各部ノ事ハ、大臣ヲシテ之ヲ擔當セシムルモ、統一的內閣制ナルモノナク、首相スラ常置ノ官ト爲サス。各省ト云フモ、其省內ノ統一ナク、其分掌亦明白ナラスシテ、大臣自ラ御用商人ト小事故ヲ問答シ、小吏却テ重大任務ヲ專決スル如キ、到底常規ニ照ラシテ之ヲ知ル能ハサルモノアリ。是レ三百年前ノ大公國ノ規模ヲ其ママ襲踏シ、只必要ニ應シテ其建物ヲ擴ケ、其人員ヲ增シタルモノト見ルノ外ナク、其ノ大國家ノ政務ヲ擔當スルニ不適當ナルヤ、言ヲ待タサルナリ。其第二ハ、立憲政治ヲ行ハサリシコト是レナリ。夫レ、大國家ヲ治ムル、其國內ノ實勢力ヲ統綜シテ、之ヲ國家機關ノ發動力タラシムルヲ期ス、立憲政治ハ、則チ最モ簡易ニシテ且效果アル方法タリ。然ルニ、露西亞ハ、歐羅巴ノ古大國タルニ拘ラス、其政治的進歩ニ參加スル能ハス、露國皇帝ノ依リ恃ム所ハ

政務ノ統制ナシ

立憲政治ヲ行ハス

文武官腐敗

只其官僚階級ノミナレトモ、立憲政治ヲ行ハサル所ニアリテハ、官僚ハ、他ノ刺戟ヲ受ケス、又監督者ナキ爲メ、專横放肆、自ラ腐敗ヲ招クカ常ニシテ、露西亞官僚ハ則テ其極端ナルモノタリ。千九百四五年中、我日本ト戰テ敗レ、其敗因カ、官僚ノ腐敗ニアルコトヲ覺リ、遂ニ憲法ヲ制定シ、國會ヲ開キタレトモ、長ク官僚政治ノ下ニ麻痺シタル國民ト、腐敗ヲ極メタル官僚ト、相依リテ立憲政治ヲ行フハ、固ト至難ノ業ナル上ニ、憲法アリ國會アルモ、最早露國官僚ノ腐敗ヲ救治スルノ力ナク、千九百十四年以來ノ大戰役ニテ、宮廷官府及ヒ文武官ノ腐敗、骨髓ニ徹シタルノ醜態ヲ暴露シテ、大革命ヲ招致シタリ。乃チロマノフ朝ハ、露國ノ官僚階級ヲ造リ、之ニ依リテ其君主制ヲ支持シ、官僚ノ腐朽無能ノ爲メニ、自ラ倒ル、其主タル原因ハ爲政者、時勢ニ通セスシテ、其政治機關ヲ皇張スルヲ得ス、又早キニ及ヒテ、立憲政治ヲ行フテ、以テ自奮自勵スルノ道ヲ求メスシテ國政ノ腐朽ヲ速キ

ロマノフ朝傾覆ノ原因

タルニアリ。

第革命ノ次

千九百十七年三月十五日、ニコラス二世退位、翌日皇弟ミハエル大公、亦皇位ニ即クノ意思ナキコトヲ表明シテ、此ニロマノフ朝其終ヲ告ク。當時ノ事歴ヲ述フル者、皆國會ノ反抗、軍隊及ヒ民衆ノ暴動ノ爲メニ、此革命ヲ引キ起シタリト爲スカ如クナレトモ、其實ハ、ニコラス二世自ラ其地位ニ當ルニ堪ヘスシテ退キタルモノニ外ナラス。君主制ニ尙フトコロハ、軍國多事ノ日ニ當リテ、能ク其權能ヲ發揮スルニアリ、然ルニ露國ノ君主制ハ、大戰役ニ逢フ毎ニ、其缺點弱點ヲ暴露シ、其腐爛汚穢、手ヲ着クヘキ所ナシ、假令露國民其君主ヲ廢スルノ意思ナクトモ、露國皇帝タルモノ、亦晏如トシテ其地位ニ在ルヘカラス、ニコラス二世ノ退位ハ、自己ノ失敗ノ責ヲ引キタルモノト解スルモ可ナリ、ロマノフ家歴代ノ失政ノ責ヲ引キタリト解スルモ可ナリ。從ツテ露國民ヨリ之ヲ見レハ、千六百十三年、ミハエル、ロマノフヲ選ヒテ君位ニ即カシメ、世襲君主制ヲ創設シタレトモ、ロマノフ家爲政ノ能力ヲ失フテ退キタルヲ以テ、宛モ千六百十二年ノ昔ニ還リタルモノト云フヘク、即チ是レ大政復古ナリ。露國民ハ、是レヨリ民主共和政治ヲ開始スヘキカ、或ハ又再ヒ何者カヲ選ヒテ君主制ノ下ニ立憲政治ヲ行フヘキカ、今後幾變局ヲ經サレハ、其定形ヲ見ルヘカラスシテ、今日ハ、僅カニ革命ノ序幕ヲ開キタルニ過キス。

第四章　政治學說

前篇、支那ノ政治學說ヲ尋繹シ、其周時代ノ學問文章ヲ以テ、古代希臘ニ比シタリ、然ルニ、今此ニ露西亞ノ政治學說ノ系統ヲ擧クルニ當リテ、全クコレト相對照スヘキモノ無キヲ歎セサルヲ得ス。露西亞ハ、彼自身ノ古文古書ヲ有セス、又其固有ノ政治學說ナルモノ無シ。露西亞人ノ政治學說ナルモノハ皆輸入品ナリ、然ラサレハ、則チ輸入品ニ多少ノ細工ヲ施シテ、之ヲ露西亞化シタルモノニ外ナラス。

露西亞語及ヒ古文

露西亞スラヴ、固有ノ言語アリ、蓋シ三十乃至四十ノタルタル語ヲ基礎トシ、印度歐羅巴語ヲ以テ之ヲ經緯ス、其ノ最古ノ文學トモ稱スヘキハ、Bilini ト名クル古詩話ナリ。其他、宗教上及ヒ詩歌文藝上ノ記錄ヲ存スルモノアリト雖モ、殆ト言フニ足ラス、哲學科學上ノ著書ハ絕無トイフヲ妨ケス。

西歐文明輸入

其ノコレ有ルハ、日耳曼民族ト接觸シテヨリ後ノ事ニ屬ス。

露西亞ニ、西歐羅巴ノ文物ヲ輸入スルノ端ヲ開キタルヲ、彼得大王ト爲ス、然レトモ被得ハ、其物質的文明ヲ輸入スルニ專ニシテ、其精神上ノ文明ヲ求ムルヲ知ラス。只其門戶一タヒ開クルトキハ、形而上ノ物ハ、必ス形而下ノ物ニ伴フテ至ルヘクシテ、是ヨリ(露西亞ハ西歐羅巴文明ノ新天地タリ。特ニカザリン二世ハ、西歐文學ニ心醉スルコト甚タシク、佛蘭西學者 Diderot ヲ招聘シテ、其自由主義ノ說ヲ聽キ、又最モモンテスキユーノ政治論ヲ喜ヒ、一時ハ奬勵甚タ努メタル爲メニ、露國少壯者、奮躍シテ新智識ノ吸收ニ從事ス、當時ノ露國智識階級ハ、アダム、スミス、ヴオルテア、及佛國博識家ノ文書ヲ以テ金科玉條ト爲シ、英吉利自由思想、日耳曼ノ抽象的理想亦湧々トシテ露國ニ流入ス。當時莫斯科共濟組合長ニコライ、ノヴイコウ等ノ一派ハ、西歐羅巴ノ文學ヲ、無智人民ニ普及スル爲メ、運動甚タ努メ

タレトモ、偶々佛國革命アリ、露國內ニモ、政治的暴動ヲ企ツル者アリタルガメ、カザリン二世、遽カニ其政策ヲ變シテ、外國政治思想排斥、言論出版禁遏ヲ事トシ、此ニ西歐文學輸入時代ノ爲メニ、一段落ヲ劃スルニ至レリ。『西歐文學輸入時代ニ於ケル、露國ノ思想界ハ、英吉利、佛蘭西、日耳曼ノ學說文章ヲ、其ママ傳習シ、何等ノ發明又ハ變更スル所ナシ。其ノ最モ人心ヲ動カシタリト云フニコライ、ツルゲニエウノ著書ノ如キモ、亦單ニアダム、スミストモンテスキユートノ議論ヲ紹述シタルニ過キスシテ、未タ之ヲ目シテ露西亞人ノ學問意見ト爲スヘカラス。然レトモ、其ノ自由自治民權ノ說ハ、忽チ露國民ヲ刺戟シ、其胸底ニ鬱積スルトコロノ、貴族官僚ニ對スル不平、此ニ勃發シ來リ、露國內ニ、政治的民衆運動ノ端ヲ開ケリ。是レ當初西歐文學ノ輸入ニ務メタル宮廷官府カ、翻テ西歐思想排斥ニ努ムルニ至レル次第ニシテ、政府ト思想界ハ、是ヨリ不斷ノ爭鬪ヲ開キタリ。併ナカラ、露國固有ノ政治學說ノ發生及ヒ其變遷ハ、此不斷ノ爭鬪ト相影響スルトコロナシトセスシテ、露國ノ現狀ト其思想界トノ一致ヲ圖ルモノ、亦自ラ現ハル。次ニ其要ヲ擧クル所ノ、露西亞國粹主義ノ一派ハ、則チ此情勢ノ下ニ出テ來レル第一ノ產物ナリ。

國粹主義

十九世紀初頭ノナポレオン戰役ハ、露西亞人民ヲシテ、其國民的存在ト、民族的自負心トヲ自覺セシム、莫斯科ハ則チ此思潮ノ本源タリ。莫斯科學者ダニレウキーノ Slavophilism レヲンチエウ其他ノ Russophilism ハ、畢竟此氣運ニ投シテ、露西亞人民ノ爲メニ氣燄ヲ吐クモノタリ。

露西亞國粹論者以爲ラク、國家ハ、個人ト等シク、幼、壯、老、死ノ時期アリ、國民其文明ノ極ニ達シタルモノハ、漸次凋落代謝シ、方長旺盛ナル者、コレニ代リテ興ル、西歐羅巴諸國民ノ全盛時代ハ、既ニ過キ去リタリ、今後ノ世界ハ

國民的自覺

露西亞人民ノ舞臺ナラサルヘカラスト。其一派ハ、專ラスラヴ民族ノ爲メニ其言ヲ立テ、他ノ一派ハ露西亞トイフ國土ノ上ニ重キヲ置クノ差異アリト雖モ、其着想ハ則チ全ク相同シク、其ノ成熟セル文化ヲ排シ、民主政治國際主義ヲ斥ケ、露國ノ尙フトコロハ、其君主制ト、希臘正敎ト、村落土地共有制トナリト爲スノ點ハ、相同シク、千九百七年世ヲ去リタルポビエドノスツエウノ如キハ、此學說ノ爲メニ殿軍タル者タリ。

國粹論者ハ、專ラ露西亞ノ爲メニ其言ヲ立テ自ラ西歐羅巴ヨリノ輸入品ヲ喜ハスト稱ス、是レ其ノスウヴ主義又ハ露西亞主義ノ名アル所以ナレトモ、其ヲ一ノ學說トシテ考査スルトキハ、亦是レ西歐羅巴輸入品ノ爲メニ、衣被ヲ作リテ、其形ヲ變シタルモノニ過キス。彼等ノ所謂スラヴ主義、露西亞主義ハ、ヘーゲルノ世界意思、ヒヒテ、シエリングノ日耳曼主義ヲ、其マヽ轉用セルモノニシテ、其粗脚笨手、一々呈露シテ復タ蔽フヘカラス。

國粹主義ノ正體

特ニ其君主制、希臘正敎、及ヒ土地共有制ノ三者ヲ補綴シテ、一個ノ露西亞國是ヲ組成スルカ如キハ、牽强附會、落語家ノ三題話ノ類ナレトモ、當時此三者ハ、露國人民ヲ支配スルトコロノ强大勢力タリ、且現實狀態ナリシヲ以テ、之ヲ說ケハ、則チ宮廷、官府、寺院及ヒ衆民ヲ一致セシムルニ足ル。然レトモ、村落土地共有制ハ、スラヴ民族共和自治ノ遺制ニシテ、チユートン民族ヨリ輸入シタル君主制ト、全ク其根本ヲ異ニス。希臘正敎ニ至リテハ、國體政體トハ沒交涉ナリ、只露西亞ニ在ルトコロノ僧侶カ、其敎義ヲ利用シテ、露國人民ニ政治的服從義務ヲ敎フルニ努メタリト云フニ過キス。露國國粹主義派ノ學說カ、露國以外ニ行ハレス、且露國內ニ於テモ、其久シキヲ持スル能ハサルハ、決シテ偶然ニアラス。

露國社會學者

十九世紀中葉以後、露西亞人ニシテ、社會學ノ研究ニ從事スル者甚タ多ク、

個人主義派英雄主義

其根據トスルトコロハ、コムト、ダルウイン、スペンサー等ノ定說ナレトモ、露西亞人ニハ自ラ露西亞人ノ特色アリ、此ニ其ノ最モ較著ナルモノヲ擧クレハ、露西亞ノ社會學者ハ、皆個人主義ナリ。彼等ハ、社會ヲ以テ、individuality トsolidarity トノ對立狀態ト爲シ、常ニ個人ヲ以テ其本位ト爲シ個人ノ爲メニ存在スル所ノ社會ヲ觀ルモ、社會ノ爲メニ存在スル所ノ個人ヲ認メス。從テ露國社會學者ノ多クハ、社會有機體說ヲ排シテ、之ヲ取ラス。又個人ハ、一樣平凡ナルモノト爲シテ、英雄崇拜ノ風ヲ排シ、且歷史上ノ英雄勢力ヲ否定スルニ力ム。ペーター、ラウロウ、ミハロウスキー、ヨウザコウ、カレエウ等ノ說クトコロハ、皆同一範疇ニ屬ス。

前頁ノ國粹主義一派カ、專ラ露國ノ現實狀態ヲ稱揚スルニ務メテ、宮廷官府、貴族僧侶ノ欵心ヲ買ヒ得タルニ對シテ、以上社會學者ハ、概ネ露國官憲ニ容レラレス、其說クトコロハ、危險思想ヲ以テ目セラレタリ。然レトモ

今其著書論文ニ就テ之ヲ見ルトキハ、皆是レ尋常社會學研究者ノミ、且其序述スルトコロハ、皆他人ノ糧粕ニテ、些ノ新奇ナルモノアルヲ見ス。然レトモ、露西亞人ハ、自ラ露西亞人ナリ、彼等ハ、英吉利佛蘭西諸國ニ發達シタル社會學ヲ、露西亞化セント欲シテ、此ニ努力シテ已マサルナリ。露西亞スラヴハ、本來個人主義ヲ以テ立チ、個人ノ共同生活ニ依リテ、社會ヲ成ス、勝利ヲ爭ヒ、文化ヲ競フハ、其ノ好ムトコロニアラス、彼等、此國民性ヲ基準トシテ、社會學ヲ解說セント欲ス、其ノ圓柄方鑿ノ窮ニ陷ルコトアルハ已ヲ得サル所ナリ。

露西亞兩粹論者カ、獨斷的ニシテ、神秘主義ニ傾ケル如ク、露國社會學者、亦抽象的理論ニ耽リ、科學的實證ニ空疎ナリ。只露國社會學者ノ特色ト見ルヘキハ、其ノ個人主義ヲ說ク爲メニ、甚タ努ムルノ點ニアリ。ラウロウハ、社會ノ進步ハ、個人ト其共同作用トノ調和ト統一トニアリトシ、ミハロウ

ウスキーハ、社會ハ有機體ニアラスシテ、多クノ不可分的有機體ノ共同ナリト爲シ、個人ト其社會トノ間ニ、不斷ノ爭鬪アルコトヲ主張ス。彼等カ既ニ英佛諸國ノ進歩シタル研究資料ヲ接受シツヽ、猶ホ且露西亞農民ノ土地共有、共同耕作生活ヲ以テ、理想的社會狀態ト爲シ、西歐羅巴ノ文化ヲ喜ハスシテ、獨リ自ラ是トスルカ如キハ、何處マテモ、露西亞人氣質ナリ。只國粹論者カ、盛ニ主權者神聖說ヲ主張スルニ對シテ、是等社會學者ノ多クハ、超人ヲ排シ、英雄ヲ否定シ、此社會ハ、平凡ナル人類ニ依リテ成リ、平凡ナル勢力ニ依リテ、推シ移ルモノトナス、即チ是レスラヴノ本來ノ性情ニ原クトコロノ言ニシテ、其言空疎ナリト雖モ、自ラ天眞爛熳ノ趣アリ。彼等ノ言、固ヨリ淺薄ナリ、然レトモ、彼國粹論者カ、ロマノフ家ノ專制政治ヲ文飾スル爲メニ、強テ宏大迂遠ノ說ヲ爲シ、一切ノ文化ヲ排シテ、神秘不合理ノ間ニ自ラ蔽フニ比スレハ、甚タ優レリト謂ハサルヘカラス。

新マルクス主義

十九世紀末、カール、マルクスノ社會主義、露國ニ傳ハリ、一時ハ社會學者ヲ風靡スルノ勢ナリシモ、幾クモナクシテ、ペーター、ストルヴ及ヒチユガン、バロノウスキーノ、新マルクス主義、之ニ代レリ。由來社會主義ハ、個人主義ノ否定ナリ、個人主義ヲ基礎トスルトコロノ露西亞人、唯物的社會主義ヲ忍容スルノ餘地ヲ有セス。新マルクス主義ハ、則チ個人ト社會トノ二元論ヲ以テ、社會主義ヲ解釋シ去ラシトスルモノナリ、如何ナル學說、如何ナル問題ニ接シテモ、究竟個人主義ヲ棄ツル能ハサル露西亞人トシテハ、是レ亦當然ノ事タリ。且ストルヴハ、カール、マルクスカ、專ラ千八百四十年代ノ社會ノ狀態ノミヲ見テ、資本家ト勞働者トハ、到底相調和シ得ストノ爲シタルヲ、大早計ナリトシテ之ヲ排シ、今日ニアリテハ、無產階級ハ、當時ニ比シテ、遙カニ幸福ナル境遇ニ在リ、社會ノ行程ハ、妥協ト改良トニ依リテ、徐ロニ進ムヘク、兩々相反對スル者ノ間ニ起ルトコロノ、一足跳ヒ的急

變ニ依リテ、進化スヘキモノニアラスト說ク、是レ亦露西亞人一流ノ樂天觀ナリ。又チウガン、バロノウスキーハ、マルクスノ人世ノ事ヲ決定スルモノハ、只物質的要求ナリト云フ說ヲ否認シ、人類ハ、富ノ爲メニ動クト同時ニ、自己ノ權勢ヲ主張スル爲メニ動キ、權力ト名譽トハ、人類社會ノ最大動力ナリト爲シ、結局新マルクス主義ハ、非マルクス主義、非社會主義ニ歸着ス。

乃チ一言以テ之ヲ蔽ヘハ、露西亞ノ社會學ハ、西歐羅巴諸國ニ發達シタル社會學說ニ托シテ、露西亞人自身ノ固有性ヲ述フルモノニ外ナラスシテ、如何ナル主義、如何ナル學說モ、露西亞人ヨリ其個人主義ヲ奪フ能ハサルナリ。

無政府主義

露國近時ノ無政府主義ハ、十九世紀中葉、バクニン之ヲ唱ヒ、クロポトキンシエルノウ等之ヲ紹述シテ、其勢燄ヲ上ク。然レトモ、此主義ハ則チ露西亞スラヴノ本然ノ性情ニ出ツルモノニ外ナラスシテ、其ノ由テ來ル、蓋シ甚タ遠キモノアルベシ。

スラヴ固有ノ思想

或ハ云フ、露西亞人ノ無政府主義ハ、支那老子ノ哲學ニ出ツルト。是レ老子道德敎カ、蒙古人ノ手ヲ經テ、早クスラヴニ傳ハリタリト云フ歷史家ノ意見ト、無政府主義亦老子ノ消極的自然主義ニ外ナラサルトノ爲メニ、此言アル所以ナレトモ、スラヴ本來ノ社會狀態カ、自治的共同生活ヲ以テ成立シ、老子道德敎輸入以前ニ於テ、既ニ消極的自然主義カ、極度マテ行ハレ居タルヤ論ナク、露西亞ノ無政府主義ハ、露西亞スラヴ固有ノ思想タリ、歷史家ブリユクネルカ、露西亞スラヴハ、生ナカラニシテ、無政府主義者ナリト云ヘルハ、其國民性ノ本源ヲ道破セルモノタリ。

十九世紀中葉ニ當リテ、無政府主義ヲ唱ヒタルバクニンハ、革命運動者ニ

バクニンノ國家觀

シテ、數ハ刑辟ニ觸レタル危險人物ナリ、彼ノ政治說カ、危險視サレタルハ、其人物ノ然ラシムル所ニシテ、其言ハ敢テ奇トスルニ足ラス。彼ハ露西亞人ニハ珍シクモ、社會有機體說ヲ認メ、國家ノ實權カ、其特殊階級ニ屬スル爲メニ、個人ハ其束縛ノ痛苦ニ堪ヘスト稱シテ、出來ル限リ、其束縛ヲ緩クスヘシト主張ス。彼ノ理想トスルトコロノ國家ハ、個人及ヒ其共同團體ヲ單位ト爲シ、極メテ稀疎ナル干繫ノ下ニ形ラルルトコロノ聯邦ナリ。クロポトキン等ノ云フトコロハ、其大體ニ於テ相同シク、皆個人ノ相愛ト共同ノ觀念トニ依リテ、自由平等ノ生活ヲ全クシ、國家、就中中央政府ノ支配ヨリ離脫スヘシト爲ス。彼等ノ標準ト爲ストコロハ、共同生活ヲ爲ストコロノ農村、又ハ自由市ノ聯邦ヲ組織スルニアリ。

彼等ハ、人類ハ政府ナクシテ、幸福ヲ享ケ、又文明進步ヲ贏チ得ヘク、自然ノ導クトコロニ從ヒ、慣習法ノ示ストコロニ由リ、人々其平等ト共同トニ依リ、完全ナル社會ヲ成スヘシト主張ス。乃チ曰ク、埃及、アシリア、波斯、バレスチン、希臘、羅馬等ハ、其ノ政治的國家制ヲ採用スルノ時ヨリ、其破滅ノ端ヲ開キ、羅馬帝國衰亡ノ後、ケルト、日耳曼、スラヴヲニア、スカンヂナヴイアノ文明興リ、其ノ自然的ニ發育シタル共同部落、其形ヲ成シ、自由市亦此間ニ發達シテ、文藝技術、自然科學ノ進步蔚然タルモノアリ、然ルニ國家制復ヒ行ハレテ、其進步亦已ミタリト。其言甚タ奇ナルカ如クナレトモ、非政治共同生活ヲ理想トスル所ノ露西亞人ノ、腦裏ニ畫クモノトシテハ、固ヨリ當然ナリ。只今日ノ社會學、政治學ニ照ストキハ、其事體ヲ顚倒スルノ識ヲ免レサルノミナラス、其着想ノ幼稚ナル、宛然神話古傳說ニ接スルノ感アリ。

政府ナキ文明

併ナカラ、之ヲスラヴ民族ノ本性ニ原ツクルトキハ、無政府主義ハ、最モ其性ニ近キモノタリ。個人主義ヲ基礎トスルトコロノ社會學ハ、全ク西歐

羅巴輸入品ヲ文飾セルモノナリト云フト雖モ、仍ホスラヴノ本性ヲ喪ハサルコトヲ證スベシ。若シ其レ國粹主義ニ至リテハ、其名其實ト相反シテチユートン主義ト希臘教義トヲ取リテ、ロマノフ朝ノ專制政治ヲ解說スルノ言ヲ立ツルニ過キスシテ、露西亞スラヴノ本性ト全ク相容レサルノミナラス、其說クトコロ虛僞ト不自然トヲ以テ充サル。且之ヲ主張スル者、一定ノ階級ニ屬シ、之ヲ信スル者、亦自ラ限リアリ、露國民ノ心胸ニ徹セスシテ已ミタル所以ニシテポビエドノスエフ等ノ氣燄甚タ高キニ拘ハラス、千九百五年ノ革命騷動アリ、遂ニ立憲政治ヲ行フノ已ヲ得サルヲ見、此度ノ革命ニテ、全露復タ一人ノ國粹主義ヲ云フ者ナシ。而シテ露西亞スラヴ本然ノ思想ハ、個人主義ナリ、非文化主義ナリ、無政府主義亦其ノ最モ本性ニ近キ所ノモノタリ、露國ノ今後ノ思想界ヲ支配シ、及ヒ其學說ノ根據トナルモノハ、蓋シ此スラヴ本然ノ思想ヨリ出ツルトコロノモノ

ナラサルヘカラス。而シテ、此思想カ、露西亞トイフ國家ヲ亡ホスヘキカ、將タ又、露西亞ノ爲メニ其國ヲ治ムル者アリテ、此思想ヲ排除シ、又ハ變易スヘキカハ、今後ノ事實ニ徵シテ、之ヲ知ルノ外ナシ。

附錄

露西亞ノ革命

千九百十七年三月十五日、ニコラス二世退位、翌日、皇弟辭シテ其位ニ即カス、露國ノ君主制此ニ廢滅ス、所謂露國革命即チ是レナリ。

露西亞ハ、世界最大國家ナリ其君主制ハ世界中最モ古色ヲ帶フル所ノモノタリ、而シテ、今乃チ世界的大戰役ノ最中ニ於テ、其傾覆ヲ見ル、其ノ全世界ノ耳目ヲ驚カスハ、固ヨリ其處ニシテ、今日政治家外交家ノ言論露國革命ニ及ハサルハ無ク、著書論文ノ此ニ關スルモノ、亦甚タ多シト稱ス。然レトモ、其ノ相傳フル所ノ事實ニ錯誤多キノミナラス、之ヲ說ク者、亦各々其胸臆ニ存スル所ノモノヲ以テ之ヲ斷ス。乃チ曰ク、露西亞ノ革命ハ、民主主義カ、君主制ト鬪テ、勝テルモノタリ。曰ク、自由政治カ、壓制政治ニ代

ルモノタリ。曰ク何、曰ク何。其ヲシテ政治家カ、其國民ノ敵愾心ヲ刺戟スルカ爲メニ發シ、外交家カ、其辭令ヲ擇ヒテ相驩フノ資ト爲スモノナラシメハ、暫ク可ナリト雖モ、學者專門家マテモ、此ニ鈎リ込マレテ、相和同スルニ至リテハ、獨リ其事體ヲ知ルノ道ヲ失フ所以ナルノミナラス、亦後人ヲ誤マルノ畏アリ。

露國ロマノフ朝ノ帝政ハ、其儀觀宏壯ヲ極ムルニ拘ハラス、一朝傾覆復タ立ツヘカラス、其事甚タ奇異ナルカ如クナレトモ、露國宮廷官府ノ腐敗其骨髓ヲ埋メ、最早自ラ支持スル能ハサルニ際シテ、此度ノ大戰役ニ際會ス、恰モ是レ飄風朽樹ヲ倒スノ類ナリ。樹ノ朽ルモノハ、微風猶ホ能ク之ヲ倒ス、況ヤ其風ノ勁且急ナルニ於テヲヤ、ロマノフ朝ノ倒レタルハ、戰爭ニ敗ヲ重ネタルカ爲メナリ、戰爭ニ數ハ敗ノタルハ、其朝政ノ腐敗セルカ爲メナリ。ニコラス二世ハ、此度ノ大戰役ノ大立物ノ一タリ、然レトモ開戰

ロマノフ家自ラ倒ル

後自ラ其事ニ堪フル能ハサルヲ覺ルヤ、百方獨逸ト和ヲ講セント欲シテ、遂ニ其志ヲ達セス、只自己ノ弱點ヲ暴露スルニ止マリ、前跋後疐ノ間ニ自ラ倒レタリ。露國內ニロマノフ朝ノ帝政ニ對抗スルタケノ意思能力ヲ具フル者アリテ、之ヲ倒シタルニアラサルナリ。

露西亞ノ革命ヲ以テ、民主主義カ君主制ト鬪テ、勝ヲ制シタルモノト爲スハ、甚タシク事實ト違ヘリ。ロマノフ朝ノ君主制ハ、倒レタルニ相違ナシト雖モ、其ヲ倒シタルモノハ、民主主義者ニアラス、又社會主義者ニアラス、兵卒勞働者團體ニモアラス。從テロマノフ家其位ヲ去リテ露、西亞ニ政治上ノ中心勢力ナルモノハ、存在セサルナリ。革命以後、既ニ半歲ヲ閱ミシ、其政府ニ幾變遷ヲ經タレトモ、誰モ皆失敗ヲ招キ、遂ニ其歸適スル所ヲ知ル能ハス。露西亞ノ共和政體、立憲民主政治ノ如キハ、果シテ何ノ日ニ之ヲ見ルヲ得ヘキカ。或ハ又、露國民ハロマノフ家ノ政府ノ、戰鬪能力ヲ

缺キ、只管獨逸ト和ヲ講セントスルヲ惡ミテ、之ヲ排シタリト爲ス、果シテ然ラハ、革命後ノ露軍ハ、奮進力戰、踵ヲ旋ラササル筈ナルニ、兵卒戰志ナク、敵來レハ陣地ヲ棄テテ退キ、軍令行ハレス、軍規立タス、其失態革命前ヨリモ甚タシキヲ見ルトキハ、ロマノフ家ハ戰敗ノ爲メニ倒レタリト云フヲ得ルモ、露國民雄圖壯心アリテ、其ノ脆弱ナル君主ヲ排シタリト云フ能ハス。

戰爭ト自由平等

或ハ、今日ハ、自由平等民政主義ノ世ノ中ナリ、此戰役ハ、自由ノ爲ノ爭鬪ナリ、故ニ自由ノ原則ニ背キタル君主制ハ、倒レサルヘカラス、露國ノ革命ハ則チ此理法ヲ事實ノ上ニ檢證スルモノナリト爲スモ、是亦事實ヲ誣フルノ甚タシキモノタリ。自由平等民政ハ、憲政進歩ノ現象ニシテ、平時ニアリテハ、其ヲ保維スルノ道甚タ明カナリト雖モ、戰爭ハ政治上ノ變事ナリ各國家、其存亡ヲ賭シテ戰フニ當リテ、先ツ其國民ノ個人的自由ヲ犧牲ニセサルヘカラス、平生、政黨政治議院政治ヲ誇衒スル者モ、一タヒ戰爭トナリテハ、皆其體統ヲ棄テ、萬機ヲ少數者ノ專斷ニ委シ、其國民ハ、言論集會交通營業ノ自由ヲ失フノミナラス、其身體財產マテモ動員セラル、天下豈自由ノ戰爭ナルモノアランヤ。近頃露西亞兵ノ數ハ潰敗スルノ原因ハ、其兵卒皆自由平等民政ノ說ヲ唱ヘテ、司令官ノ命ヲ奉セス、又軍規ヲ守ラサルカ爲メナリト云フ、豈獨リ兵卒ノミナランヤ、若シ各人各家各階級交々自由平等ヲ唱フルトキハ、戰爭ハ一日タリトモ支持スヘカラス。

戰爭ト君主制

尤モ、今日全世界ノ敵タル、中歐同盟ノ主力タル獨逸ハ、軍國主義ヲ取ルトコロノ君主國ナリ、故ニ佛蘭西北米合衆國ヨリ之ヲ云ハハ、共和國ヲ以テ君主國ト戰フモノト言ヒ得サルニアラスト雖モ、協商國ノ主力タル英吉利ハ、我日本ト共ニ、君主國タリ、伊太利、白耳義、羅馬尼、塞爾維等、皆君主制ナラサルハナシ。米國大統領及ヒ一部英國人、切リニ民主共和政治ノ爲メ